日本語版



The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

NEWS 11/23 SAT



04

会場案内図掲載



すべての人に理想のモビリティを提供するために、

未来のあたりまえを、いち早く形にして、みんなのものにしていく。

これまでもこれからも、それがフォルクスワーゲンの使命です。

たとえば、100km/0.9Lという、次元のちがう環境性能をもつXL1が、

毎日乗れるクルマとして、走りはじめたこともそのひとつ。

世界中で多くの人に選ばれるフォルクスワーゲンだからこそ、

人とクルマと地球のために、できることのすべてを。

Think Blue.

未来のあたりまえを、
今日のあなたに。



Volkswagen
Motor Show 2013

あなたがまだ知らない驚きが、ここにある。—— Find your e-motion

スマートフォンで体感する驚き。
http://tms.volkswagen.co.jp/find

Volkswagen. Das Auto.

FUN TO DRIVE, AGAIN.

TOYOTOWN

ハイブリッドしなければ、
こういうことにはならなかった。

HYBRID Re BORN TOYOTA





The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

Be a driver.

人とクルマは、ひとつになれる。

クルマを走らせる歓びは、ドライバーがクルマを、まるで自分の体の一部のように
感じられることから生まれる。その想いをカタチにするために、マツダのすべてを
この1台に込めました。クルマの基本をゼロから見直した、スカイアクティブ・テクノロジー。
見るものをドライビングへと駆り立てる、魂動デザイン。そして、人間工学に基づいた
ヘッズアップコクピット・コンセプトで革新された、ヒューマン・マシン・インターフェイス。
ぜひ、新しいアクセラのコクピットに座ってみてください。
そこには、人とクルマの関係の、ひとつの理想型があります。

zoom-zoom

mazda



新しいアクセラ。
これが、マツダの答えです。

SKYACTIV TECHNOLOGY　NEW MAZDA AXELA

マツダデザインをアプリで体験。ダウンロード方法はコチラ。1：APP Store/Google Play から「TAMAGO Cliker」を無料ダウンロード。2：アプリを起動させ、本誌画像より10～15cm離れた位置から撮影。3：撮影した画像が認識されると、リンク先が表示。4：リンクをクリックすれば、マツダデザインコンテンツがご覧いただけます。
※ iOS 5.0 以上 Andoroid OS 2.3 以上が必要です。iphone、App Store は Apple Inc. の商標です。Andoroid、Google Play™ は Google Inc. の商標または登録商標です。

www.mazda.co.jp

後席もシートベルト、チャイルドシートも忘れずに。
発進・加速はゆるやかに。エコドライブを心がけよう。

カタログのご請求、商品についてのお問い合わせ、
ご相談はマツダ（株）コールセンター
0120-386-919
受付時間：平日 9:00～17:00
土・日・祝日　9:00～12:00　13:00～17:00

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013 NEWS

CONTENTS

07 **JAMA会長ご挨拶**
一般社団法人　日本自動車工業会会長　豊田章男
「日本発」テクノロジー情報が世界を駆け巡る

10 **第43回 東京モーターショー 2013**
世界にまだない未来を競え。
イントロダクション

12 **TOP NEWS**(20・21日は一部変更)
今日のイベント案内

16 **注目の展示車・ブリーフィングレポート**(20・21日は一部変更)
●国産乗用車●輸入乗用車●商用車●二輪車

22 **注目の出展者案内❶**
22 ホンダ　24 日産　26 トヨタ　28 マツダ　30 スズキ
32 ダイハツ　34 三菱　36 スバル　38 レクサス
40 フォルクスワーゲン　42 メルセデス・ベンツ
44 アウディ　46 ジャガー　47 ランドローバー　48 ヤマハ

50 東京ビッグサイト会場案内図
EXHIBITORS LIST
52 西展示棟　1階西1・2ホール
54 西展示棟　4階西3・4ホール
56 東展示棟　1階東1・2・3ホール
58 東展示棟　1階東4・5・6ホール

60 **注目の出展者案内❷**
60 UDトラックス　62 日立オートモティブシステムズ
64 トヨタ車体　64 コンチネンタル・オートモーティブ

66 **SMART MOBILITY CITY 2013**
68 SMART MOBILITY CITY 2013 出展者案内
ホンダ、積水ハウス、東芝

70 **注目の出展者案内❸**
70 ブリヂストン　72 住友ゴム

75 **EVENT NEWS**
屋外展示場・アトリウムステージ

77 **東京モーターショー 2013**
デイリーレポート／1
79 **東京モーターショー 2013**
デイリーレポート／2

80 **注目の出展者案内❹**
80 アルパイン　82 富士通テン　83 デンソー
84 NTN　85 三菱電機　86 ボッシュ　87 マーレ
88 矢崎　89 曙ブレーキ

90 **臨海副都心エリア施設ガイド**

93 **スタンプラリーガイド**

94 **東京モーターショー 2013 イベントマップ**

97 **お台場モーターフェス イベントマップ**

発行
一般社団法人 日本自動車工業会

製作
株式会社 講談社ビーシー
株式会社 日刊自動車新聞社

総合プロデューサー
勝股優(株式会社 講談社ビーシー)
市川優(株式会社 日刊自動車新聞社)

プロデューサー
宇井弘明(株式会社 講談社ビーシー)
斎藤匡(株式会社 日刊自動車新聞社)

プランニング/チーフディレクター
鵜飼英一
(株式会社 講談社ビーシー/Kai Office.Inc)

■エディトリアルスタッフ
株式会社 講談社ビーシー
ディレクター
飯干俊作
スタッフ
坂本貴志
飯嶋稜

株式会社 日刊自動車新聞社
ディレクター
武川明

■デザイン
株式会社 メタ・マニエラ
篠沢正行
古津薫
加藤 奈摘

■アカウンティングディレクター
株式会社 講談社ビーシー
奥山文彦
小林康司
西上秀樹

株式会社日刊自動車新聞社
中村徹
宮永浩成
篠原孝之

株式会社 交友社
世良田勝彦
菅生雄一郎
山崎桂樹
二木潔和

TMSN事務局(株式会社交友社)
飛弾野博
今野眞紀

株式会社交友社 エディトリアルスタッフ
アートディレクター
武藤秀之(株式会社モーク・ワン)
ライター
芝修DENSO
近田茂:三菱電機、UDトラックス
萬澤龍太:ボッシュ、
コンチネンタル・オートモーティブ

翻訳
株式会社 ダイナワード
田澤夕香里

協力
臨海副都心まちづくり協議会
株式会社 電通
株式会社 AKS

印刷
大日本印刷 株式会社

Chairman's Message

「日本発」テクノロジー情報が世界を駆け巡る

一般社団法人
日本自動車工業会会長
豊田章男



Profile
1956年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、1984年トヨタ自動車株式会社入社。GM社との合弁会社であるNUMMI副社長などを歴任し、2009年にトヨタ自動車取締役社長に就任、現在に至る。

第43回東京モーターショーは、11月22日から12月1日まで、前回のショーに引き続き、「東京ビッグサイト」にて開催致します。

皆様ご存知の通り、今年のモーターショーは「特別」です。10月１日から、最先端のエレクトロニクス技術を紹介する「CEATEC JAPAN」が開催され、そして、10月14日からは世界のITS技術が集う、「ITS世界会議」が開催されました。そして、それらを締めくくる形で、「東京モーターショー」へと続いてまいります。本年後半は、「日本発」のテクノロジー情報が、途切れなく世界を駆け巡っている「特別」な年となっております。

もうひとつの「特別」は、2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されることが決定し、世界が再び、「東京ブランド」を注目していることです。

本年、日本にお越し頂いた外国人観光客数は、2010年の「過去最高」を上回るペースとなっております。今後、オリンピック・パラリンピックが近づくにつれ、益々、活況を呈するのではないかと期待しております。

「日本の未来」、「東京の未来」に、新たなページが開かれようとしています。

このようななか、今回の東京モーターショーには、前回実績を大幅に上回るワールドプレミア76台が出展されます。各出展者から東京モーターショーに対する期待を感じるとともに、数多くのワールドプレミアを披露できることで、世界一のテクノロジーモーターショーを目指している私どもとしても、盛り上がりに期待しています。

また、主催者テーマ事業として前回初めて開催したSMART MOBILITY CITYをバージョンアップして開催します。自動車を取り巻くこれからの社会がどう変容していくか、エキシビション、国際シンポジウム、テストライドでわかりやすく提示しますので、未来のモビリティをより身近に感じて頂けるのではないかと思います。

さらに、今回の東京モーターショーでは会場であるお台場エリア全体でクルマ・バイクを楽しめるイベントを会期一週間前から会期中にかけて開催します。このようなイベントを並行して開催することは初めての試みであり、東京モーターショーを中心としてお台場エリア全体がクルマ・バイクの祭典となりますので、クルマ・バイクファンが一人でも増えてもらえればと期待しています。

このような特別な東京モーターショーに、一人でも多くの方々に会場までお越し頂きたいと思います。そして2020年に向けても、みなで心をひとつにして「今日よりも明日を明るくする」努力をひとつひとつ積み重ねていきたいと思います。

HITACHI
Inspire the Next

「環境」「安全」「情報」技術で、

グローバルに未来のクルマの駆動力となる

日立オートモティブシステムズ。



Driving Force

for Global Automobiles

私たち、日立オートモティブシステムズは、クルマの可能性を追求し、社会の課題の解決と新たな価値の創造をめざしています。
環境分野では「エンジンマネジメントシステム」と「エレクトリックパワートレインシステム」、安全分野では「走行制御システム」、
情報分野では「車載情報システム」という3分野4システム事業に注力し、グローバルに展開する未来のクルマの駆動力となります。

日立オートモティブシステムズ株式会社　http://www.hitachi-automotive.co.jp

NKSJグループ

ひとつになる。

お客さまの気持ちとひとつになる。チームの力でひとつになる。明日のためにひとつになる。一番大きな損保※は、一番大きな安心をつくりたい。日本で一番大きな支えになるために。損保ジャパンと日本興亜損保は、関係当局の認可等を前提として、2014年9月1日に合併し、「損保ジャパン日本興亜」となります。

損保ジャパン　日本興亜損保



※合併によって誕生する新会社は、収入保険料が国内最大の損害保険会社となります。(2013年3月末ベース)

株式会社 損害保険ジャパン
〒160-8338　東京都新宿区西新宿1-26-1　TEL.03(3349)3111
www.sompo-japan.co.jp

日本興亜損害保険株式会社
〒100-8965　東京都千代田区霞が関3-7-3　TEL.03(3593)3111
www.nipponkoa.co.jp

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

一般公開日：11/23[土]→12/1[日]
月曜日-土曜日 10:00-20:00　日曜日 10:00-18:00

国内外の自動車メーカーが一堂に会する東京モーターショー。
持てる技術と情熱のすべてを注いだクルマたちがそろい、
あらゆる性能を、美しさを、そして夢を、本気で競い合っています。
体験していただきたいのは、競い合い、高め合うことで生まれる
「世界にまだない未来」です。
見ると元気になる、体験すると笑顔になる。
国内外が注目する43回目の東京モーターショー。
その熱気と興奮を存分にお楽しみください。

世界にまだない未来を競え。

開　催　概　要

名称 第43回東京モーターショー2013　［The 43rd Tokyo Motor Show 2013］
主催 一般社団法人 日本自動車工業会（JAMA）
共催 一般社団法人 日本自動車部品工業会（JAPIA）
一般社団法人 日本自動車車体工業会（JABIA）
一般社団法人 日本自動車機械器具工業会（JAMTA）
日本自動車輸入組合（JAIA）

入場券のご案内

※詳しくはオフィシャルWebサイトをご参照ください。

	当日券	アフタヌーン券	ナイター券
一般	1,500円	1,300円	500円
高校生	500円	400円	200円
中学生以下		無料	

アフタヌーン券:月～土曜日15時以降入場可（会場のみの販売）
ナイター券:月～土曜日18時以降入場可（会場及び全国のセブン-イレブンにて販売）

●入場券は、コンビニエンスストア、公共交通機関、主要旅行代理店、各種プレイガイドで発売しています。
●国内外どこからでもインターネットで第43回東京モーターショー2013の入場券を購入することができます。また、スマートフォン・タブレット端末向けに、入場券を画面に表示して入場できるサービスもございます。

ご購入はhttp://www.tokyo-motorshow.com/で!

事前登録制のイベント参加券付入場券は、「e-tixオンラインチケットシステム」よりご購入頂けます。

「東京ビッグサイト」で開催!

ご来場は、公共交通機関のご利用をお願い致します。

会場へのアクセス

（所要時間はおおよその目安です）

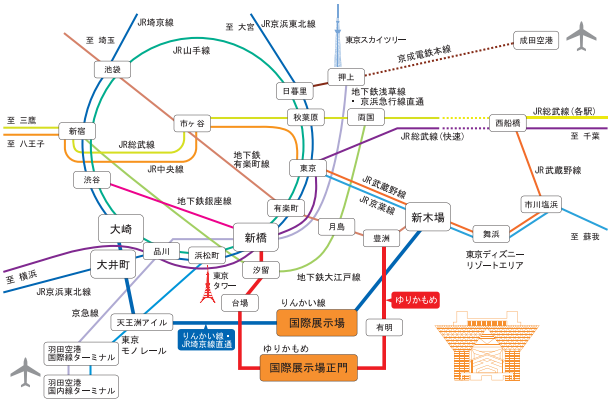
■りんかい線（「国際展示場」駅下車　徒歩約7分）
大崎駅（JR）← 13分 → 国際展示場駅 ← 5分 → 新木場駅（JR、東京メトロ）
※大崎駅から新宿・大宮方面へ、JR埼京線相互直通運転。渋谷（約20分）、新宿（約25分）、池袋（約31分）、大宮（約56分）、川越（約78分）と大変便利です。

■ゆりかもめ（「国際展示場正門」駅下車　徒歩約3分）
新橋駅（JR、東京メトロ、都営地下鉄）← 22分 → 国際展示場正門駅
豊洲駅（東京メトロ）← 8分 → 国際展示場正門駅

■無料シャトルバス（東京ビッグサイト・東展示棟）
東京駅（丸の内北口）← 約35分 → 東京ビッグサイト
（運行）11/23～12/1の会期中に約5～10分間隔で運行
（往路）東京駅発9:00～（復路）東京ビッグサイト発11:00～閉場後30分まで（最終日のみ閉場後55分まで）

■路線バス（東京ビッグサイト・中央ターミナル）
（都営バス）東京駅八重洲口（東16系）から約40分、
東京駅丸の内南口（都05系）から約40分、門前仲町（門19系）から約30分
（kmフラワーバス）浜松町駅から約40分
（空港バス）羽田空港（リムジンバス、京急バス）から約25分
成田空港（リムジンバス）から約60分（東京ベイ有明ワシントンホテル発着）
東京シティエアターミナル（リムジンバス）から約20分（片道）
（急行バス）横浜駅東口（京急バス）から約50分

■水上バス（有明客船ターミナル　徒歩約2分）
日の出桟橋（JR浜松町駅から徒歩約7分）から約25分
※運行状況はWebサイトなどでご確認ください。





お問い合わせ
東京モーターショー
東京ビッグサイト事務局
TEL：03 - 5530 -1315
受付時間 平日9:00 - 17:00（会期中は開催時間）

オフィシャルWebサイト
QRコード

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105 - 0012 東京都港区芝大門1- 1- 30 日本自動車会館

詳しくはオフィシャルＷｅｂサイトをご参照ください。
http://www.tokyo-motorshow.com

競い合い高め合って生まれる「世界にまだない未来」を体験しよう。

第43回東京モーターショー2013の各種体験イベント

1 プロの運転による乗用車同乗試乗会・二輪車試乗会

特設コースにおいて、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）会員とインストラクターが運転する各メーカーの最新モデルに同乗し、その性能を体験かつクルマの特徴などの解説も聞ける「乗用車同乗試乗会」と、ご自身で運転していただける「二輪車試乗会」を開催します。

●プロの運転による乗用車同乗試乗会



11月22日（金）～26日（火）
参加ブランド：スズキ、スバル、トヨタ、日産、ホンダ、マツダ、三菱、レクサス、アウディ、シトロエン、ジャガー、BMW、フォルクスワーゲン、プジョー、ポルシェ、ボルボ、MINI、メルセデス・ベンツ、ランドローバー、ルノー、テスラから39台

●二輪車試乗会



11月28日（木）～12月1日（日）
参加ブランド：カワサキ、スズキ、ホンダ、ヤマハ、KTM、BMWから41台

2 ステージイベント【アトリウムステージ】

西展示棟1階のアトリウムステージでは、フジテレビやTOKYO FMによるライブパフォーマンスなど、様々なエンターテイメントをお楽しみいただけます。

3 「日本カー・オブ・ザ・イヤー」発表会【アトリウムステージ】



11月23日（土）には、「日本カー・オブ・ザ・イヤー」の投開票と表彰式が行われます。また、特設ステージにおいてお笑いコンビ「おぎやはぎ」による愛車遍歴トークショーも開催されます。

4 東京モーターショーシンポジウム2013【会議棟6階】

クルマを取り巻く様々な興味深いテーマを取り上げます。

日　時	テーマ・実施者	時　間
11月26日（火）	第８回日本ITS推進フォーラム 特定非営利活動法人　ITS Japan	13:00~16:30
	未来の輸送ビジネスが始まる。 “安全・安心×ヘルスケア×ICT連携の新たなビジネスストリーム” 国土交通省 自動車局	13:30~16:30
11月27日（水）	ITSセミナー in 東京 2020年、東京の都市交通を考える～ITSの未来 特定非営利活動法人　ITS Japan、東京大学ITSセンター	13:30~17:00
11月28日（木）	飲酒運転防止についてのシンポジウム 一般社団法人　日本自動車工業会	13:00~15:30
11月29日（金）	女性視点が次世代のクルマ社会を創る ～わたしとクルマのイイ関係～ 経済産業省、ピンク・ホイール・プロジェクト、一般社団法人 次世代自動車振興センター	14:00~17:00
11月30日（土）	クルマで歩こう ～今日からあなたもカーたびスト～ カーたび（自動車旅行推進機構）	15:30~17:30
12月 1日（日）	第14回 自動車安全シンポジウム 国土交通省 自動車局	13:00~16:00

関　連　企　画

トミカコーナー【西3ホール】



恒例となっている、（株）タカラトミー協賛によるミニカーの展示・販売。毎回、大人気の東京モーターショー開催記念モデルの「トミカ」を販売します。

フジテレビプロデュース「ワールドフードカップ」【屋外展示場】

前回に続き、グルメフードコートをフジテレビがプロデュース！ 世界の美味しいオリジナルメニューを考案し、ケータリングカーで販売。お店ごとに人気を競います。

Best of 未来

審査員は20世紀と21世紀生まれの来場者。未来を感じる展示物に投票して、「Best of 未来」を決定！ 今回のショーテーマを具現化する新規企画です。
（共同主催：エフエム東京、フジテレビジョン、読売新聞社）

SMART MOBILITY CITY 2013

Supported by DUNLOP

KURUMA NETWORKING くらしに、社会に、つながるクルマたち



これからのクルマは、様々なテクノロジーの革新により、私たちの暮らしや社会と“つながり”、新しい役割と価値を持ち、大切な友達、そして社会の一員になろうとしています。そうしたクルマの未来、人々の暮らしや社会への夢を体験できる、東京モーターショー2013のシンボルイベントです。

テストライド　SMC試乗会
【西4ホール、屋上展示場、トラックヤード】

近未来の移動支援ツールとして期待されているパーソナルモビリティや超小型モビリティ、電動二輪車の体験走行。屋上展示場では自動運転のデモンストレーションのほか、高度運転支援システムやEV・PHVの試乗会を行います。

【実施期間】

[パーソナルモビリティ体験走行]	11/22（金）~12/ 1（日）
[超小型モビリティ体験走行]	11/22（金）~12/ 1（日）
[電動二輪車試乗会]	11/22（金）~12/ 1（日）
[高度運転支援システム試乗会]	11/22（金）~12/ 1（日）
[自動運転デモンストレーション]	11/25（月）~11/26（火）
[充電インフラ、EV・PHV体験会	11/27（水）~12/ 1（日）

（主催：一般社団法人 次世代自動車振興センター）]
＊実施期間は変更になる場合があります。



参加メーカー
スズキ、スバル、ダイハツ、トヨタ、トヨタ車体、日産、フォルクスワーゲン、ホンダ、マツダ、三菱、メルセデス・ベンツ、ジード、グロースンドリーム、Terra Motors、常盤産業、プロッツァ

協力大学・企業
金沢大学、東京農工大学、ゼットエムピー

エキシビション【西4ホール】

クルマ型のミニシアターに乗り込んで、世界にまだない未来をつくろうとしているクルマとその最新技術、そしてそれらがもたらす世界を体感いただけます。また、各分野の企業・団体が、最先端の技術や製品をプレゼンテーションします。

カンファレンス

＊事前登録制のイベント参加券付入場券は「e-tixオンラインチケット」よりご購入いただけます。

国際シンポジウム【聴講無料・事前登録制】

情報通信／エネルギー／コミュニティなどに“つながり”、新しいライフスタイルへ

自動運転をはじめとした最先端の開発動向や、明日の社会とその移動の可能性について、国内外の自動車メーカー、IT企業、および世界の第一線の知識人による講演とセッションを行います。



11/25（月）【会議棟6階】
「安全・安心へ、つながるクルマ～高度運転支援システムの可能性～」
11/28（木）【会議棟7階】
「未来社会と未来の移動」（特別協力　トヨタ自動車）

11/24（日）【会議棟6階】
「次世代モビリティがもたらす未来の暮らし」
共催：［午前の部］電気自動車普及協議会・読売新聞社
［午後の部］国土交通省・読売新聞社＊参加申込：読売新聞・WEBにて告知予定。

アドバンス・テクノロジー・セミナー【会議棟6階】

SMART MOBILITY CITY 2013出展者による、技術・システムのプレゼンテーション
実施団体　経済産業省資源エネルギー庁

キッズ・ワークショップ【参加無料】

11/23（土）、24（日）、30（土）、12/1（日）
次世代を担う子供たちを対象としたワークショップ。事前予約制以外のワークショップは会場にて受け付けます。

＊掲載情報は予告なく変更する場合がございます。
使用している写真は過去のものやイメージであり実際のものとは異なります。
イベントおよびシンポジウムなどは予定のため変更・中止になる場合があります。
また、これを理由にした入場券の払い戻しは一切行いません。

TOP NEWS 東京モーターショーの刺激的なトピックをいち早くみなさんにお届け!

01 「世界に向けてイノベーションの魅力を発信しよう」開会式で豊田章男会長が挨拶



第43回東京モーターショー 2013の総裁、瑶子女王殿下がテープカット

第43回東京モーターショー2013が22日開幕した。開会式では、主催者を代表した挨拶で日本自動車工業会の豊田章男会長（トヨタ自動車社長）は「単純に計算すると毎日世界のどこかで15万人の新しい自動車ユーザーが生まれている。同時に社会的な課題への対応も重要性を増しており、イノベーションの力でそれらの課題に立ち向かうチャレンジを見ていただく世界最高峰の場でありたい」と述べ、「お台場が世界に向けてモビリティのイノベーションと魅力を発信するベース基地になるよう大いに盛り上げていきたい」と意欲を示した。

池史彦副会長(本田技研工業会長）が開会を宣言し、ショーの総裁を務められる瑶子女王殿下によるテープカットが行われた。

今回の東京モーターショーの出展は世界12カ国から178社・181ブランドと前回を上回った。初の試みとして特別招待日の22日の夕方から1万人限定で「プレビュー・ナイト」を行い一般にも公開した。12月1日までの会期中、前回実績の84万2600人を上回る来場を目指している。

開会式で松島みどり経済産業副大臣は「久しぶりに来てワクワクするようなものがいっぱいあった。それらのクルマが多くの来場者の心を捉えて欲しい。同時に、環境問題、日本のクルマが世界に出ていくことで世界中の空の青さ、明るさ、美しさを取り戻すことを願っている。それができるのが日本の自動車メーカーだと思う」と述べるとともに「東京モーターショーに一人でも多くの若い人に来てもらい、素敵だ、楽しいものだと思ってもらうだけでなく、安定した雇用の場でクルマを買える環境、夢を持てる社会を、日本経済をリードする自動車業界に整えてもらいたい」と要望。

つづいて国土交通省田端浩自動車局長は「新たな成長に向けて自動車産業が活動しやすい環境を整えるため、世界に先駆け、環境性能に優れた自動車導入支援や自動運転などの先進安全技術を駆使した自動車の開発普及、その国際標準化を強力に推進していきたい。技術立国日本としての先進的な取り組みを世界に発信する東京モーターショーの開催におおいに期待している」と祝辞を寄せた。



豊田自工会会長、松島経産副大臣などが挨拶、池自工会副会長が開会を宣言した

02 瑤子女王殿下、父上の思い出を胸にご高覧

第43回東京モーターショー2013の総裁を務められた瑤子女王殿下は22日、開会式ご臨席後に会場内をご高覧された。電動カートに乗られて各ブースを回られた。豊田章男日本自動車工業会会長と池史彦同副会長が各ブースを案内。各社の代表が自社の出展内容を説明した。瑤子女王殿下は終始にこやかに耳を傾けられていた。特に新しい乗り物などにはご興味を持たれたご様子で、試乗をご希望されるといった一幕もあった。

前回東京モーターショーまで総裁を務められた故・寛仁親王殿下は瑤子女王殿下のお父上。ご高覧の後に行われたレセプションで池副会長は、瑤子女王殿下が故・親王殿下のシャツをお召しになって臨まれたというエピソードを紹介した。







豊田自工会会長の説明に耳を傾けながら、興味深そうに会場をご高覧された瑤子女王殿下

03 最高の笑顔で「東京」を盛り上げよう

開会式、総裁　瑤子女王殿下のご高覧に続いて行われた祝賀レセプションには、業界関係者ら約1000人が参加した。今後10日間にわたって開催される「東京モーターショー2013」の開幕を盛大に祝った。

日本自動車工業会（自工会）の豊田章男会長（トヨタ自動車社長）は「東京モーターショーは、クルマ、バイク愛を伝える最高の舞台だ。10日間、最高の笑顔で東京モーターショーを熱く盛り上げていこう」と挨拶した。

乾杯に立ったのは池史彦自工会副会長(ホンダ会長)。「日本のモノづくりは、今日の秋晴れのように晴れわたっていくことと思っている。この勢いをもって、東京モーターショーを成功に向かわせましょう」とした。







祝賀レセプションには約1000人が参加。皆でショーの盛り上げを誓った

04 ジャーナリスト&プロドライバーによる国産・輸入車39台の同乗試乗会!

西1・2ホール奥の屋外展示場では、日本モータースポーツ推進機構の運営協力のもと、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）のジャーナリスト10人、プロドライバー9人の運転による同乗試乗会が行われている。参加車両は国産車15台、輸入車24台、計21ブランド39台。開催日程は11月22日～26日まで、時間は10時～16時30分までとなっている。

同乗するには受付け後、抽選。抽選に当たると、第1希望から第3希望のクルマを選び、空いているクルマがあれば試乗できる。試乗コースは会場内の1周300mほどのクローズドコースで、1回の試乗で1周の同乗試乗となる。

取材したのは22日の特別招待日。それでも混雑しており、その人気ぶりがうかがえる。乗車組数は開催期間中、延べ6120組を目標に実施するとしているが、普段、乗ることができない高級セダンやスポーツカーが用意されていること、さらにはジャーナリストおよびプロドライバーの同乗試乗という貴重な体験ができるとあって大人気となるはず。ぜひ同乗試乗会会場に足を運んで憧れのクルマを楽しんでみてはどうだろう。







西1・2ホールの奥から屋外に出ると1周300mほどのクローズドコースが設定され、国産車15台、輸入車24台、合計39台の試乗車が用意されている。日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）とプロのレーシングドライバー＆ラリードライバーの運転による、同乗が楽しめる！

05 SMART MOBILITY CITY 2013でメーカー各社の先進安全技術を体験!

自動運転技術システムの早期実用化を目指してメーカー各社で技術開発が急ピッチで進められているが、今回の東京モーターショーではすでに市販車に実用化されている自動ブレーキなどの先進技術を体験できる「高度運転支援システム試乗会」が12月1日(日)までの期間中、西4ホール隣の屋上展示場で実施されている。

自動追従・ブレーキ体験にはスバル「レガシィ」とベンツ「E250」の2車種（13時～13時45分）、踏み間違い・パーキングアシスト体験にはトヨタ「クラウン」、日産「エクストレイル」など3車種（10時30分～15時45分）、自動ブレーキ体験にはスズキ「ワゴンR」、ダイハツ「タント」、三菱「アウトランダー PHEV」、日産「セレナ」などの6車種（10時30分～16時15分）を用意。特別招待日の22日(金)は特別招待者と一般招待者がこの試乗会に参加。「レガシィ」で自動ブレーキシステム、「アイサイト」の体験試乗会に参加した20代男性は「頭ではわかっていてもホントにクルマが止まってくれるのか、ドキドキしました。実際に停止した時にはホッとしました」と試乗後胸を撫でおろしていた。







スバル「レガシィ」の自動ブレーキ「アイサイト」や今年12月デビューの新型日産「エクストレイル」の「パーキングアシスト」などが同乗で体験できる。子どもの場合、試乗会への参加は身長140cm以上が条件となる。テストライド受付けの参加申し込み順に試乗券が配布されるので、希望する場合は早めにテストライド受付けへ急ごう！

06 働くクルマがいっぱい! 日本自動車車体工業会の屋外展示場





日本自動車車体工業会加盟の車体、架装メーカーが最新技術を盛り込んだ自慢の商品を展示。事業者からチビッ子たちを待ち受けている

東展示棟に隣接して設けられた屋外展示スペースには、日本自動車車体工業会がさまざまな「働くクルマ」を展示している。産業と生活を支える物流。その中核を担うトラックは安全に素早く、効率的に顧客のもとに荷物を届けるのは当たり前、さらに多様なニーズに対応することが求められるようになってきた。屋外展示場には、機密文書をその場で処理する出張溶解車、乗用車8台搭載が可能になったキャリアトレーラ、ボディを軽量化し積載量を拡大したトレーラなどが所狭しと並んでいる。

COVER★GIRLS



「TOKYO MOTOR SHOW 2013 NEWS」日本語版の表紙を飾ってくれるのは、日本はもとよりアジアでも大人気のAKB48のメンバー24名。期間中に発行される「TOKYO MOTOR SHOW 2013 NEWS」に次々に彼女たちが登場します。最後までお楽しみに！



AKB48
川栄李奈



AKB48
峯岸みなみ

TODAY'S EVENT

11:00-12:00

ステージイベント
会場●西展示棟アトリウム

テリー伊藤さん、木佐彩子さんによる「クルマの税金」に関するトークステージ。現在、日本では自動車にかかる税金は9種類。税負担では欧米諸国の2.8倍から47倍といわれています。カーライフをよりよくするために、皆さんも一緒に考えてみましょう

2013-2014 日本カー・オブ・ザ・イヤー表彰式
会場●西展示棟アトリウム

日本国内で発表される乗用車のなかから、年間を通じてもっとも優秀なクルマが選ばれる日本カー・オブ・ザ・イヤー。トークショーと表彰式の2部構成で行われる

13:30-14:30

COTY トークショー

表彰式の前の、おぎやはぎさんと竹岡圭さんのトークショーで、「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を楽しく、わかりやすく紹介する

14:45-16:00

10ベストカー表彰式ならびにイヤーカー、特別賞、部門賞の表彰式

今年ノミネートされたクルマのなかから選ばれた、「10ベストカー」をまず表彰。この10台のなかからイヤーカーが選出されます

TODAY'S EVENT

ODAIBA MOTOR FES

お台場モーターフェス in MEGA WEB

10:00-18:30

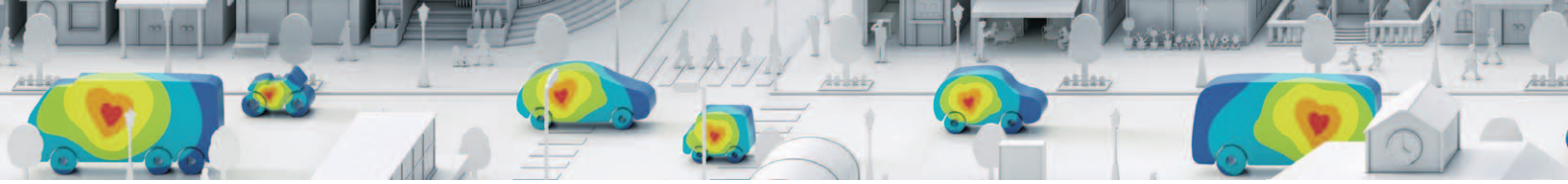
ライドワン
MEGA WEBのライドワンでは、迫力のデモランや体験試乗などが予定されている

■パドックウォーク　(10:00〜10:30)
■パイクスピークデモラン　(10:40〜11:10)
■素晴らしきラリー
　同乗試乗／デモラン　(11:40〜14:00)
■N-ONEワンメイク同乗試乗会　(14:50〜15:20)
■パイクスピークデモラン　(15:20〜15:50)
■チームランドクルーザー
　ジャンプ同乗会　(17:00〜18:30)

11:00-19:25

ステージイベント
東京モーターショーと同時にお台場モーターフェスが開催されている。23日、24日の週末は、MEGA WEBで楽しいイベントがたくさん開催される。以下は本日23日のイベント予定だ

■クルマ検定　(11:00〜11:30)
■パイクスピークトークショー　(11:50〜12:20)
■哀川翔2013ラリー参戦報告会　(12:30〜13:00)
■チームランドクルーザー
　ダカールラリートークショー　(13:10〜13:40)
■素晴らしきラリー
　トークショー　(14:00〜15:00)
■クルマ検定　(16:00〜16:30)
■お台場ナビステ！　(18:30〜19:25)



注目の展示車

デビュー直前の注目度満点モデルはもちろんのこと、近未来をはっきりと感じさせてくれる最新コンセプトまで、世界中のメーカーから発信される魅惑的なワールドプレミア、ジャパンプレミアがずらりと並ぶ!

国産車 JAPANESE PASSENGER CARS

Honda ホンダ







NSX CONCEPT
軽量ボディに次世代V6・VTEC直噴エンジンと燃費性能を追求したハイブリッドシステム「Sport Hybrid SH-AWD」を搭載したスーパースポーツ

Honda S660 CONCEPT
ダイナミックなスタイリングと居住空間を徹底的に追求したスーパーコックピットインテリアなどの斬新な試みを施した次世代軽オープンスポーツ



N-WGN(エヌワゴン)
プレスデー当日に発表されたNシリーズ第4弾のN-WGNはムーヴとワゴンRの2強に挑む。カスタム(上)とノーマル(右)の"二つの個性"で真っ向勝負だ







NISSAN 日産





BLADE GLIDER
航空力学に着目した3シーターの三角翼形状ボディは理想的なダウンフォースと異次元のコーナリング&加速性能を実現し、省電費でも優れた性能を達成

TEANA
気品を感じさせるデザイン、乗員の快適さを追求した室内空間、運転する楽しさと余裕の走りを追求した大人のプレミアムセダン



※注目の国産車（スズキ、ダイハツ、ミツビシ、スバル、レクサス）は11/24号で紹介します。
輸入車は11/25号、商用車・二輪車は11/26号で紹介する予定です。

TOYOTA トヨタ





FV2

ハンドルではなくドライバーの体重移動で直感的な運転操作が可能。周辺の車両や交通インフラと通信でつながり危険を予知。「心で通じ合える」未来の「愛車」を具現化している



FCV CONCEPT

世界初出展。小型・軽量化した新型燃料電池や高圧水素タンク2本を床下に配置。実用航続距離は500km以上。水素充填は3分程度とガソリン車並み

NOAH CONCEPT

クラス初の本格ハイブリッド車。新開発の低床フロアでトップレベルの広い室内空間や優れた乗降性と多彩なシートアレンジを実現



VOXY CONCEPT

エアロ専用パーツが低重心と迫力のワイドボディを強調し、圧倒的な存在感を表現したエアロ仕様。写真は2ℓガソリンモデル





FT-86 Open concept

日本初出展。86が持つ運転する楽しさやクルマとの一体感と、コンバーチブルならではの「自然との一体感」を両立したコンバーチブルモデル



TOYOTA i-ROAD

超小型パッケージによるバイク並みの使い勝手とクルマに近い快適性、安定性を両立した新しい乗り味と楽しさのあるパーソナルモビリティ



JPN TAXI Concept

世界の誰もが乗りたくなる、そして笑顔になる次世代タクシーコンセプト。乗客が乗り降りする助手席側電動スライドドアを中心にデザインされている





MAZDA マツダ

AXELA

SKYACTIVとデザインテーマ「魂動」を採用。さらにガソリン、ディーゼル、ハイブリッドシステムといった3種類のパワートレインの世界戦略車

SUBARU スバル

東1·2·3ホール



東京モーターショープレスデーのプレスブリーフィングのトップを切った吉永泰之社長と「レヴォーグ」

レヴォーグはスバリストと共に走り続けるため、最新技術を詰め込んだ

「レヴォーグ」は、2011年7月に発表の中期経営計画 “Motion-V” で2014年に新コンセプトの新車種を投入すると発表していたもので、世界初公開となる。このクルマは日本向けに開発した。競争が激しい日本市場で、より厳しい目をお持ちのスバルのお客様にご満足いただくためにスバルの最新技術のすべてを注ぎ込んだ。

日本市場向けサイズの「レヴォーグ」のパッケージには、長年培ってきたスバルのノウハウがつまっている。エンジンはターボエンジンのみ(1.6ℓと2ℓ)の展開とした。特に「レヴォーグ」のために新開発した1.6ℓBOXER DITは、小排気量エンジンに直噴ターボを組み合わせることで、小排気量ながらもターボならではの動力性能と、社内測定値だが高速道路の時速100km巡航相当では、ワンタンクで1000kmの走行が可能な燃費性能を両立した。

次世代アイサイトをベースとしたアイサイト(Ver.3)を世界で初めて搭載した。これは今までの「走る・止まる」の制御に加えて「曲がる」制御を可能とした。クルマだけでなく人、自転車、バイクを複数同時に認識できるステレオカメラの特徴を強化するとともに、プリクラッシュブレーキ性能もさらに向上した。もちろんお求めやすい価格にもこだわっていきたいと思っている。

「レヴォーグ」は2014年春の発売に向け、年明けの1月4日より先行予約を開始する。ご期待いただきたい。

いっぽう、LAオートショーのプレスカンファレンスでは新型「WRX」を世界初公開した。

スバルを支えてくださっている、スバルを愛してくださっているお客様のことを、日本で私たちは最大級の敬意を込めてスバリストと呼んでいる。その方たちは人生を楽しみ、走る楽しさを知る方だ。クルマを愛し、趣味に情熱を注ぎ、家族や仲間と過ごす時間を大切にする。スバルはこれからもスバリストとともに走り続けていきたい。







ボディが大型化した現行「レガシィ」に代わり、国内市場専用のスポーツワゴンとして2014年春のデビューを控えるブランニューモデル、「レヴォーグ」(写真上)。このほかにもFRスポーツクーペの「BRZ」をベースにしたシューティングブレークの「クロススポーツデザインコンセプト」(写真中央)など意欲的な出展内容のスバルブース

LEXUS レクサス

東1·2·3ホール



伊勢清貴レクサスインターナショナル・プレジデント（左）と豊田章男トヨタ自動車社長（中央）

新たなセグメントに挑戦するレクサスのニューモデルに注目

レクサスは２年前の東京モーターショーで「ニュー・チャプター・レクサス」を宣言し、デザイン、走り、環境安全技術の３本柱で商品に磨きをかける取り組みをスタートした。スピンドルグリルの採用を中心とするデザイン改革やエモーショナルな走りを実現するパワートレインの性能向上、ハイブリッド車（HV）のさらなる充実などで商品を一気呵成に変革してきた。スピンドルグリルを採用したフラッグシップモデル、「GS」「LS」「IS」などは新世代レクサスのエモーショナルな商品力を体現し、顧客の皆様からも高い評価を得ることができた。

2013年は世界規模で展開するブランドキャンペーン「AMAZING IN MOTION」も開始した。さらなる進化の一歩を踏み出したばかりだが、世界規模の販売で過去最高の年52万台を見込んでいる。サスティナブルな成長につながる土台づくりができたと手応えを得ているところだ。

ただ、レクサスの挑戦は始まったばかりだ。今回の東京モーターショーでは、「AMAZING IN MOTION」というブランドスローガンに掲げた使命を果たすべく、その思いを込めたクルマを出展する。コンパクトSUV「LF-NX」と小型スポーツクーペ「RC」だ。「LF-NX」はHVとともに、レクサス初のターボ車を設定したコンセプトモデルだ。新たなセグメントにチャレンジするレクサスのニューモデルとして、自信を持って御紹介したいと思う。

いっぽう、「RC」はデトロイトやパリのモーターショーで高い評価を頂いたデザインスタディモデル「LF-LC」「LF-CC」のコンセプトを採用した第1弾のモデルだ。レクサスを象徴する圧倒的な存在感とともに、官能的なデザインを感じさせるクルマに仕上げることができた。「LF-NX」も「RC」もブランドの新たな一歩を感じてもらえるクルマだ。ぜひ、見て、触って、乗って頂ければと思う。「ニュー・チャプター・レクサス」のさらなる加速に御期待いただきたい。







レクサス初のターボエンジン（2ℓ）を積んだコンパクトSUVのコンセプトカー、「LF-NX」を筆頭に、「LF-CC」などのデザインの流れを汲んだスポーツクーペの「RC」、レクサス車のアイデンティティデザインであるスピンドルグリルを採用した「GS」など、エモーショナルなデザインを体現したモデルがズラリと並ぶ

BMW ビー・エム・ダブリュー

東1·2·3ホール



独ＢＭＷ本社ヘルベルト・ディース開発担当上級副社長

初公開の「i3」「i8」「ニューBMW 4シリーズカブリオレ」の走りに期待を

今回のBMWの東京モーターショーのテーマは「極限におけるスポーティな駆けぬける歓びの魅力」だ。それを具体化したモデルとして、まずは電気自動車（EV）の「ｉ３」とプラグインハイブリッド車（PHV）の「ｉ８」を日本で初めて紹介する。日本のユーザーは最新技術に非常に関心が高いほか、サスティナビリティーに優れたクルマを好むので、必ず気に入ってもらえると自信を持っている。

「ｉ３」は都市ならではの交通、環境問題のソリューションとして開発した車両だ。外観はコンパクト車並みのサイズだが、室内は「3シリーズ」と同等のスペースを確保した。静止から100km/hまで7.2秒という加速性能を実現した。

「ｉ８」は前輪をモーター、後輪を1.5ℓガソリンターボエンジンでそれぞれ駆動するというスポーツ車として革新的なアプローチを実現した。ボディはトップレベルの空力性能を実現、欧州テストモードで2.5ℓ/100km（40km/ℓ）という燃費を達成した。

「ｉ３」と「ｉ８」の走り、燃費性能は、CFRP（炭素繊維複合素材）を本格活用するなどして大幅に軽量化した車体技術の効果も大きい。

そして今回、世界初公開するのが「ニューBMW4シリーズカブリオレ」だ。オープンカーでありながら、高い車体剛性と正確なステアリングを実現した。

このオープン・トップの4シーターの美しく独創的なデザインは、明らかに際立っている。美しいスタイリングだけでなく、先代モデルの「3シリーズ カブリオレ」と比べサイズアップしたボディが、「4シリーズカブリオレ」に表情豊かな存在感を与えている。3分割方式を採用したリトラクタブル・ハードトップは、優れた快適性と実用性を保証する。ハードトップは、閉めた状態からボタン操作ひとつでわずか20秒以内に全開にすることができる。6気筒ガソリンエンジンを搭載する「435ｉ」は、ツインパワー・ターボ・テクノロジーによって最高出力306ps（225kw）を達成した。







BMWブースの目玉はワールドプレミアとなった「4シリーズカブリオレ」に加え、ジャパンプレミアの「コンセプトアクティブツアラー」、そしてBMWが新たに立ち上げたサブブランド、「i」の「i3」と「i8」。この「i3」と「i8」はすでに購入申し込みの受け付けを開始しており、納車は「i3」が来年4月、「i8」は来年夏

MINI ミニ

東1·2·3ホール



3代目となったMINI「クーパー S」(左)とMINI「クーパー」(右)

大幅に進化したワールドプレミア MINI「クーパー」をぜひ自分の目で確かめて

BMW MINIは上級のスモールカーという新しいコンセプトで2001年に投入した。ハッチバックは、世界で250万台を販売しており、なかでも日本には、熱狂的なMINIファンが多い。そうした"大切で口うるさいお客様たち"に向けて、MINIは3代目となるMINI「クーパー」MINI「クーパー S」をワールドプレミアとして公開した。

1.5ℓ直列3気筒ツインパワーターボエンジンを搭載した「クーパー」は、3気筒にダウンサイジングしたことで、燃費を向上しつつ、ツインパワーターボテクノロジーなどBMWの技術を落とし込み、パワフルで快適な乗り味と心地よいサウンドを実現した。

スポーツタイプの「クーパー S」は、2ℓ4気筒エンジンで、最高出力192ps/4700~6000rpmと、最大トルク28.6kgm/1250rpmを発揮。最高速度は235km/hとなっている。

外観は、全長3821mm(「クーパー S」は3850mm)、全幅1727mm、全高1414mm。ラゲッジスペースや室内が広くなった。初代のMINIと比較すると、体格は大きくなっており、"ミニ"とは言い難いかもしれない。ただ、トレッドを拡げたことやダウンサイジングによる軽量化で軽快なドライビングを楽しむことができるだろう。

エクステリアは、前後のライトや足元を引き締めるエッジなど、可愛いだけではない逞しく男性的な新しいMINIの一面を感じることができる。インテリアは、8.8インチの大型ディスプレーを車両の状態によってカラーチェンジするLEDリングが包む。また、ヘッドアップディスプレー(HUD)やネットワーク接続機能「MINIコネクテッド」など先進的なコックピットにクラシカルな外観とのギャップを楽しめる。

東京モーターショーでは、2シーター・オープンカー「MINI ジョン・クーパー・ワークス・ロードスター」、最新の四輪駆動モデル「MINI クーパー・クロスオーバー・オール・フォー」も展示している。成長したMINIたちに会うために、多くの来場者をお待ちしている。







MINIブースの目玉はなんといっても東京モーターショーでワールドプレミアとなった3代目MINI。展示されているのは1.5ℓ直列3気筒ターボを搭載したMIN「Iクーパー」と2ℓ直列4気筒ターボのMINI「クーパー S」。ひと回り大きくなったボディサイズと初代MINIをモチーフにした六角形グリルに注目

KeyWord「枠にはまるな。」

Hondaの閃き(ひらめ)が生んだ、独創のモビリティ。

前例や過去の常識に捉われない斬新な閃きが生んだ独創のモビリティが勢ぞろい。Hondaの思い描くオリジナリティあふれる未来を体感しよう。

Topic 1 ブースステーマは、「枠にはまるな。」



今回Hondaは、出展各社の中で単一ブランドとして最大面積となるブースに、コンセプトモデルを含む、二輪車、四輪車、汎用製品を展示し、オリジナリティあふれる未来のモビリティライフを提案する。2013年は「枠にはまるな。」をブーステーマとして策定。これは、Hondaが挑戦し続ける、これまでにないモビリティ創造の出発点となるHondaスピリットを表現したもの。前例や過去の常識といった「枠」にはまらない発想から生まれたモビリティが、広いHondaブースを熱気とともに埋め尽くしている。

Topic 2 Hondaが提案する、次世代のスポーツモデルとその原点。


次世代スーパースポーツ。
NSX CONCEPT

Hondaブースでまず注目したいのは、Hondaの追求する走りの喜びを体現する次世代スポーツモデル、Honda S660 CONCEPT、NSX CONCEPTの2車種、そしてHonda四輪自動車の原点ともいえるスポーツ360だ。


Hondaの夢を凝縮した
軽オープンスポーツ。
Honda S660 CONCEPT


50年の時を超えて甦った、スポーツ360

Honda S660 CONCEPTは、多くの人にスポーツカーの喜びを新提案する一台。Hondaの情熱と技術を結集し、全身でスポーツカーであることを主張するダイナミックな先進スタイリングや、ドライバー中心の思想を進化させたスーパーコクピットインテリアなど、斬新な試みを随所に行なった軽オープンスポーツだ。

NSX CONCEPTは、走りと環境性能をハイブリッドした、次世代スーパースポーツ。軽量なボディに直噴VTEC V型6気筒エンジンをミッドシップで配置するとともに、走りと燃費性能を両立した高効率・高出力の新開発ハイブリッドシステム「SPORT HYBRID SH-AWD®(Super Handling – All Wheel Drive)」を搭載している。

1962年にHondaが初めて一般に公開した幻の四輪自動車、スポーツ360。2シーターのオープンボディに日本初のDOHCエンジンなど、当時の画期的な技術を結集したスポーツカーを、Hondaは当時の図面や資料をもとに復元。東京モーターショーに展示している。

Topic 3

人に、暮らしに、寄り添う。新たなモビリティ。

人との調和をテーマに開発された「UNI-CUB」は、バランス制御技術や全方位駆動車輪機構により、身体を傾けて体重移動するだけで、人の歩行のような前後左右や斜めへの動きを可能にした新しいパーソナルモビリティ。人の行き交う場所に適応するコンパクトなサイズで人と一体となる美しさと、周囲の空間に溶け込むデザインを追求し、オフィスや商業施設など、モビリティがこれまで入れなかった場所にも、移動の喜びや楽しさを拡げていく。なお、Hondaブースでは試乗もできるという。この機会に、あなたも未来のモビリティを体感してみてはいかがだろう。



Hondaブースで試乗も可能。UNI-CUB β

個性際立つ、モーターサイクルも勢ぞろい。

もちろん、モーターサイクルも個性豊かなマシンが勢ぞろい。若者をメインターゲットとし、通勤、通学時などの「いつも」の便利さと快適性を両立したDunkや、ツーリングの喜びを追求したロードスポーツのフラッグシップモデル、CB1300 SUPER BOL D'OR、スポーティでアグレッシブなスタイリングをめざしたCBR250Rなど、市販予定車を含む多彩なモデルを展示している。

Topic 4



外観を一新したロードスポーツモデル。CBR250R



ロードスポーツのフラッグシップモデル。CB1300 SUPER BOL D'OR



環境性能に優れた新開発水冷エンジン「eSP」を50ccクラスに初採用。Dunk



さらなる熟成を図ったネイキッドスポーツ。CB400 SUPER FOUR

Topic 5

「N」シリーズ第四弾、N-WGNをはじめ、市販車や市販予定車を多数出展。



新たな軽のベーシック、N-WGN

これまでの「軽」というカテゴリーを超えて、新しいカテゴリーへと進化したクルマ、Nシリーズ。N-BOX、N-BOX+、N-ONEに続く第四弾として登場するN-WGNは、堂々としたデザインや、大人4人がくつろげる快適さ、気持ちいい走りと低燃費、数々の安全技術などを備えた、Nシリーズの新たなベーシックとなる存在。このN-WGNをはじめ、市販車や市販予定車も多数出展している。

その他の出展車

- N-BOX
- N-BOX+
- N-ONE
- フィット
- フィット シャトル
- アコード プラグイン ハイブリッド
- フリード
- ステップ ワゴン スパーダ
- CR-Z
- オデッセイ
- CTX700
- CTX700N
- CBR400R
- 400X
- GROM

など

KeyWord「Innovation that excites」

今までなかったワクワクを。

日産が提案する「80年のありがとう」の気持ちを詰め込んだ新しいクルマ達に注目！

80 years of moving people
NISSAN MOTOR CORPORATION

80年のありがとうを、クルマにのせて。



今年12月で創立80周年を迎える日産自動車。今回のモーターショーでは、「80年のありがとう」の気持ちをのせた新しいクルマたちが多数展示されている。

これまでのモーターショーでもゼロ・エミッションリーダーシップを掲げて常に新しい取り組みを示し続けてきた電気自動車。今回は新たな価値を創造する次世代ＥＶ「ブレイドグライダー」を世界初公開する。また、最新の安全技術を搭載した新型車や、注目の自動運転車など、今回の日産ブースは、ドライブがより快適に楽しくなる新しい提案が満載だ。

生活やドライブにワクワクをもたらす新しいクルマ達を、日産ブースで実感してほしい。

Topic 1

「IDx」―みんなが思い描く理想のクルマがここに登場―

この2台のコンセプトカーは「ＩDx」。日産とユーザーが共同でクルマを創るCo-Creationにより誕生した。まったく新しい発想で、新しいアイデンティティをもって生まれたクルマ。

ゲームの中でしか登場しないような疾走感あふれるクルマや、ファッションデザイナーが手がけたようなカジュアルなクルマ。そんなみんなの夢のクルマを実現した。





ＩDx　FREEFLOW
モダンな服のように
あなたを飾る。





ＩDx　ＮＩSMO
ゲームのようにあなたを
夢中にさせる。

Topic 2

「ブレイドグライダー」―新たな価値を創造する次世代EV―







EVのコンセプトカー「ブレイドグライダー」。グライダーと三角翼をルーツに究極まで突き詰めた効率性と高揚感の両立という新しい「グライディング」プレジャーを提供。グライディングを極限まで楽しむ為に、運転席を車体中央に配置し、後席は左右2席という、3シートレイアウトを採用した次世代のEVだ。

Topic 3 「NISSAN Autonomous Drive（自動運転技術）」 ―ちょっと未来のモビリティ社会に向けて日産はもう走り始めている―

クルマが周囲の状況をきちんと把握し、状況を正しく判断する。そしてその判断に従ってクルマを正確にコントロールする。そんな一見遠い未来のことのように思える技術が、既に現実のものとして動き始めている。運転時の人のミスをカバーしたり、人に変わって運転をサポートしたりする自動運転技術。2020年までに商品化を目指し開発が進んでいるこの技術のベースになっているのは、アラウンドビューモニターや新型エクストレイルに搭載されるエマージェンシーブレーキなど、既に市販化されている技術だ。日産の自動運転の実現に向けた第一歩は、すでに始まっている。

西4ホール「スマートモビリティシティ」ブースで体感!

自動運転技術を詳しく知りたい！という方には西4ホール「スマートモビリティシティ」日産ブースへ。この車がどのように状況を認知するのか、デモンストレーションで実際に見ることができる。



Topic 4 絶対に見逃せない新型車が続々! これから発売予定のクルマを多数展示



日産デイズ ルークス
<参考出品車>2014年初頭発売予定
日産デイズシリーズの第2弾モデル。スーパーハイトワゴンタイプの新型軽自動車。



e-NV200
<参考出品車>2014年度中に発売予定
商用車市場に大きな革新をもたらす、100%電気自動車。



新型エクストレイル
<参考出品車>2013年12月発売予定
最強のＳＵＶにふさわしい機能を装備した、新型エクストレイルが、東京モーターショーに登場。



NISSAN　GT-R
新しくなったGT-R。さらに奥の深いスーパースポーツカーとして、東京モーターショーに登場。



新型ティアナ
<参考出品車>2013年度中に発売予定
ティアナのDNAである「おもてなし」を継承しつつ、走行性能を向上した3代目のモデルを先行展示。

日産自動車のモーターショーホームページにアクセス!

日産自動車のモーターショーホームページでは、会場の様子をはじめ、様々な情報を開催期間中、毎日配信しています。様々なニュース、インタビュー、映像が加わって、毎日成長していくホームページにアクセスしてみよう。

● http://www.nissan.co.jp/MS/TOKYO2013/
「日産モーターショー」で検索!

ツイッターで会場の様子やイベント情報も発信しています。
● https://twitter.com/NissanJP
（@NISSANをフォロー）

日産ブースでのトークライブにも注目

日産ブースでは期間中豪華ゲストを招いてクルマについてのトークライブを開催します。テーマや出演者、スケジュールは、こちらからチェックを！

日産モーターショー　検索

KeyWord FUN TO DRIVE,AGAIN

ようこそ。モーターショーになったトヨタウンへ。

クルマの楽しさを追求する未来のモビリティライフを提案

Topic 1 2015年に市販を開始する燃料電池自動車を世界初出展!



TOYOTA FCV CONCEPT
（世界初出展）

実用性の高いセダンタイプの次世代燃料電池自動車（FCV）。航続距離は約700km（JC08モード、トヨタ測定値）。また、水素充填は3分程度とガソリン車並みの短時間で満充填可能。



ブース前面にはTV-CMでお馴染みの「トヨタウン」の世界を再現。「ハイブリッドの樹」やTV-CMの出演者があなたを出迎えてくれる。

Topic 2 コンセプトカーがランウェイ型ステージ上を動いてあなたの近くに!



JPN TAXI Concept
（世界初出展）

みんなが乗りたくなる、そして笑顔になる。日本の街の風景を変え、日本ならではの"おもてなしの心"から生まれた次世代タクシーコンセプト





TOYOTA i-ROAD

超小型パッケージによる、バイク並みの使い勝手とクルマに近い快適性・安定性を両立した、新しい乗り味と楽しさを提供するパーソナルモビリティのコンセプトモデル



FT-86 Open concept
（日本初出展）

コンバーチブルモデルならではの「自然との一体感」を付与するとともに、スポーティカラーの王道であるレッドを進化させたフラッシュレッドをボディカラーに採用

Topic 3 直感で通じ合える未来のクルマ「TOYOTA FV2」



TOYOTA FV2
（世界初出展）

自動車技術が進歩した世界でも「Fun to Drive」が感じられる、未来の「愛車」を具現化したコンセプトカー。ヒトとクルマが「カラダ」と「ココロ」で通じ合うことでクルマに乗ることが楽しくなり、乗れば乗るほど愛着が感じられるパートナー

「TOYOTA FV2専用アプリ」をダウンロードしてトヨタブースに行こう



体重移動によって運転操作を行う「TOYOTA FV2」独自の操作感を体感できるドライビングゲーム（iOS/Android対応）が、公式サイト（http://fv2.jp/）を通じて提供されている。

TOYOTA HEART PROJECT

『ココロが動く、あなたが動く。』をテーマとした、新しいコミュニケーション研究プロジェクト。ロボット宇宙飛行士のKIROBOとMIRATAに宿らせた「かしこい頭とやさしい心」はこの研究の一部です。



Topic 4 「VOXY CONCEPT」「NOAH CONCEPT」が必見! 新型「ハリアー」も展示



VOXY CONCEPT（世界初出展）



NOAH CONCEPT（世界初出展）

家族の夢を丸ごと載せる広々とした室内空間を実現した次世代スペースミニバンコンセプト。クラス初の本格ハイブリッドシステムを搭載した1.8ℓハイブリッド車をラインアップ。日本市場において2014年年初に発売予定



ハリアー

「高級クロスオーバー SUV」として新ジャンルを開拓し、独自のブランドイメージを築いてきたハリアーがフルモデルチェンジ。開発キーワードは「高級・進化・新規」

次世代モビリティで拡がる移動の楽しさ

Topic 5

西棟4Fで開催しているスマートモビリティシティのトヨタブースでは、モビリティが暮らしや社会につながる世界を描き、移動の楽しさの広がり、安全・安心な移動ができる社会を提案する。特に、マルチモビリティステーションでは、様々な利用シーンが想定できる新モビリティ「TOYOTA i-ROAD」や、カーシェアリングなど快適な移動をサポートする新交通システム「Ha:mo」など、これからのモビリティ社会を体感できる。



主催者コア展示ブースでは、パーソナルモビリティ「Winglet」の試乗が可能。



KeyWord Be a driver.

マツダは「走る歓び」で世界へ挑む。

基本がしっかりしているクルマだけが、どんな未来にも走っていける

Topic 1 お客様との間に特別な絆をもった、「プレミアムなブランド」を目指しています。



代表取締役社長兼CEO　小飼雅道氏

変化する時代の要求に、マツダらしいクルマ、「あのクルマが欲しい」と選ばれる商品、実際に運転して感じる優れた走行、安全性能や燃費にもご満足いただけるクルマづくりにマツダは挑戦しています。そしてマツダのクルマを長くお使い頂いて、「やっぱりマツダを選んで良かった」と感じてもらえる、選ばれるブランド、お客様の心の中で特別な存在になれるブランドに成長することを目指しています。

マツダでは「構造改革プラン」を通して、ビジネス構造の改革に取り組み、マツダらしい新型モデルを2016年3月期までに8車種導入する予定です。また、車種や車格を超えて複数のモデルを一括企画し、共通の開発方法や生産プロセスを実現する「モノ造り革新」を通じた開発・生産プロセスの効率化を図っています。

そこから誕生した商品がCX-5やアテンザであり、今年の東京モーターショーで紹介する新型アクセラです。

CX-5は、「世界基準の走りとエコ」を実現した革新的SKYACTIV TECHNOLOGY (スカイアクティブ・テクノロジー) を高く評価いただき、日本カーオブザイヤーを昨年受賞致しました。アテンザは、クルマに命を与えるデザインテーマ「魂動　Soul of Motion」を世界で評価いただき、今年のWorld Car Design of the Year (ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー) で世界のTop 3に選ばれました。

そして、クリーンでダイナミックな走りを体感できるマツダのSKYACTIV-D（クリーンディーゼル燃料エンジン）を搭載したレーシングカーで、アメリカのレースに参戦、今年は2Team合計で9回優勝し、年間クラスチャンピオンを獲得し、マツダの革新的スカイアクティブテクノロジーの耐久性と走行性能が、過酷なサーキットでも通用する優れた技術であることが証明されました。

これからもマツダは挑戦し続けます。　世界中で、お客様の笑顔が見れる、その歓びを胸に。

Topic 2 技術紹介

スカイアクティブ テクノロジーにかけるマツダの想い

もっと走りが楽しくて、更に環境・安全性能に優れたクルマを届けたい。

エンジンの燃焼技術や、クルマの基本技術を、一から徹底的に見直した、マツダならではの「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を、常識を突き抜けて両立させるSKYACTIV TECHNOLOGY (スカイアクティブ・テクノロジー)。　この革新的技術によりマツダは、どんな時代でもワクワクするクルマ創りに挑戦する。

人間であるドライバーを支援することが、大きな安心・安全につながる。それが、マツダの安全思想 MAZDA PROACTIVE SAFETY (マツダ・プロアクティブ・セーフティ)

マツダの先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」のミリ波レーダーやカメラなどを活用することで、ドライバーからは見えない部分も含めた360°の認知をサポート。同時に、これらの情報を運転操作を阻害せずに直感的に理解できるマツダ独自のヒューマン・マシン・インターフェイス (HMI) を組み合わせることで、より高いレベルの安全運転支援を目指している。

今回は先進安全運転支援システムを搭載したマツダアテンザASV-5（先進安全自動車）を参考出品する。　これは、ITS（高度道路交通システム）を活用した、交通渋滞緩和と安全な社会の実現に向け、政府と共に未来を創る技術を搭載している。



2013年9月には世界で初めて、路面電車-自動車間の通信とカメラやセンサー等を組み合わせた先進安全運転支援システムの実証実験を実施。　路面電車と自動車それぞれのメリットを活かしながら、安心して共存していける交通体系を造り上げ、鉄道とクルマとの安全な連携の実現を目指す。

Topic 3

新型アクセラ誕生
～スカイアクティブ・テクノロジーを軸に更なる「走る歓び」を世界に広げる～



SKYACTIV-G
新世代高効率直噴ガソリンエンジン
Highly efficient direct-injection gasoline engine



SKYACTIV-HYBRID
マツダハイブリッドシステム
Mazda hybrid system



MAZDA 3 SKYACTIV-CNG CONCEPT
<参考出品車>
(Reference exhibit)



SKYACTIV-D
新世代クリーンディーゼルエンジン
Clean diesel engine

これまでアクセラは世界120ヵ国を超える市場で熱狂的なマツダファンに支持され、発売10周年を迎える今年は世界販売累計370万台を突破した。オーストラリアでは2011年、2012年の2年連続で販売台数1位となった。

新型アクセラは、日本メーカーで初めてガソリン、ディーゼル、ハイブリッドシステムという3種類のパワートレインを同一車種に設定して日本で発売する。今回のモーターショーでは、圧縮天然ガス（CNG）エンジンを搭載した「MAZDA3 SKYACTIV-CNGコンセプト」を参考出品。　マツダは変化する時代の要求に、マツダらしい発想で、革新的SKYACTIV TECHNOLOGYを軸に、更なる「走る歓び」を世界に広げて行く。

また、時代とともに広がるソーシャルメディアの活用を、スマートフォーンとクルマを連動させて、ナビゲーションルートや多彩なエンターテイメント、Facebook、Twitterや世界4万局以上の中からジャンルを選べるインターネットラジオ、ハンズフリー通話など、クルマとスマートフォーンの連携で広がるインターネットでつながる情報世界が走行中でも安全に楽しめるよう開発されたMAZDA CONNECT (マツダ・コネクト)も採用。　その上で、多量の情報を扱いながらも、正しい姿勢で安全に運転に集中できるヘッズアップコクピットを開発し、マツダらしい「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を、更に体感できるクルマを追求した。是非、会場で、新型アクセラをご観覧いただきたい。



Topic 4

最新のクルマとマツダコネクトの近未来を体感しょう。

マツダブース
（東5ホール）

●新型アクセラのハイブリッドモデルを含め新世代商品を展示紹介。
　アクセラに搭載された「マツダコネクト」を実際に体感できる。

●マツダ公認スマホアプリ「シェイキン・レーサー」を体験できる。
（東5ホール　マツダブース2Fラウンジ）

マツダ公認スマホアプリでレーシングゲームを開催。参加者にはオリジナルスマホカバーや携帯ストラップをプレゼント（数に限りがございます）。





マツダコネクトシアター2020（西ホール4F　SMART MOBILITY CITY 2013）

マツダの新世代カーコネクティビティーシステム「マツダ　コネクト」が目指す世界観を大画面ディスプレイとBOSE社製ノイズキャンセリングヘッドフォンによるクリアで上質なサウンドで体感できる。2020年、クルマとドライバーとが一体となって「走る歓び」がさらに深まる「マツダ　コネクト」の目指す世界観を是非体感していただきたい。

KeyWord 「小さなクルマ、大きな未来。」

人とクルマが主役の未来をご提案します。

スズキブースで、世界でたったひとつのあなたの物語をみつけてください。

Topic 1 ブーステーマは「新しい物語をつくろう。」

スズキは、企業スローガンである「小さなクルマ、大きな未来。」に基づき、いま求められているクルマ、身近になりつつある将来のクルマ、その先にある未来のクルマを多彩に提案する。世界中の人々がワクワクし、感動する『新しい物語』をつくるため、スズキの四輪車、二輪車、電動車両を一堂に出展することで同社の魅力ある商品と独自の先進技術をあますことなく披露する。

出展車両を引き立てるブースデザインは、シンボリックなS字ボーダーが軽やかさと優しさを演出。明るい未来を表現した開放感あふれる構成としている。メーンステージの後方には、3.6m×40mの超ワイドパノラマスクリーンを配置。スクリーンに流れるコンセプトカー紹介映像は、映画監督の岩井俊二氏のプロデュースによるもので、スズキとお客さまの『新しい物語』を、岩井氏ならではの美しい映像表現で紹介する。



超ワイドスクリーンでスズキの魅力を発信する


クロスハイカー


エックス・ランダー


エクストリガー


リカージョン



ハスラークーペ

注目は5台の出展モデル Topic 2

今回の出展で目を引くのが、クロスオーバー系コンセプトカーの充実ぶりだ。前衛的で躍動感あるスタイリングが印象的な「クロスハイカー」をはじめ、卓越した個性が光るハイブリッド本格四駆の「エックス・ランダー」、軽自動車の新ジャンルに挑戦する美しいシルエットの「ハスラークーペ」。いずれもコンパクトながら存在感あふれるデザインはスズキならではのものだ。二輪車ではコンパクトロードスターの「リカージョン」、新感覚の楽しみ方を提案する小型電動バイク「エクストリガー」に注目だ。



ハスラー

アクティブなライフスタイルに似合う新感覚の軽自動車クロスオーバーが「ハスラー」だ。アウトドアイメージを押し出した外観に、広く快適な室内と実用性の高いインテリアを組み合わせた、ＳＵＶ感覚あふれるおしゃれで実用的なデザインを採用している。

「ｉＶ―４」は、ジムニーやエスクードなどのコンパクトＳＵＶで高い評価を持つ同社が、新たに提案する次世代コンパクトＳＵＶだ。エッジの効いたシャープな外観に加え、駆動系には次世代の４ＷＤシステムを採用。より進化したＳＵＶとしての存在感を示している。

市販車では、次世代環境技術「スズキグリーン　テクノロジー」を採用した「アルト エコ」に注目だ。環境技術を磨き上げ、ＪＣ０８モード燃費はガソリン車トップの３５.０㎞／Ｌ（２ＷＤ）を実現。自分のスタイルを大切にする“かしこくステキ”な人たちにぴったりな１台がこのアルト エコといえるだろう。


iV―4


アルト エコ

Topic 3

スズキらしい新しい挑戦も見逃せない


ハヤブサ


バーグマン200


GSR250S


Vストローム1000ABS

Topic 4

世界の二輪車を日本へ。スズキのジャパンプレミアムモデル。

二輪車の参考出品も見所が満載だ。スズキのフラッグシップモデルである「ハヤブサ」の国内導入に向けた日本仕様を初めて公開するほか、同じく国内への投入を予定するスクーター「バーグマン２００」を披露。さらに、２０１２年の発売以来好評のＧＳＲ２５０にハーフカウルを装備した「ＧＳＲ２５０Ｓ」を出品するほか、スポーツアドベンチャーツアラーの旗艦となる輸出モデルの「Ｖストローム１０００ＡＢＳ」を参考出品する。初公開モデルが目白押しの二輪車ブースは、バイクファン必見の価値がありそうだ。

KeyWord PLAY Tomorrow!

スモールカーの新しい可能性!!

明日が待ち遠しくなる遊び心のあるクルマをめざして。あなたにいちばん近いクルマの進化が、あなたのいちばん近い未来を変えるはず!

KOPEN
FUTURE INCLUDED





ボディ骨格



Topic 1

スマホのカバーを着せ替えるように、クルマのボディも着せ替える時代がやってきた!?

今回の東京モーターショーで小さなクルマが持つ楽しさ、可能性の広がりを訴求するダイハツ工業。なかでも目玉となるのが軽自動車オープンスポーツの「KOPEN（コペン）」だ。「新感覚・オープンスポーツ　NEW　FUN+」をコンセプトに、樹脂外板をカバーケースのように自由に着脱できるボディ骨格を採用。ひとつの骨格で複数の外観が楽しめるなど、本来のオープンスポーツとしての走行性能の進化に加え、クルマとしての新しい価値とカタチを提案している。

ブースを飾るのは、スタイリッシュ&エモーショナルで独創的なスタイルの「Rmz」と、異素材質感を組み合わせたタフ&アグレッシブな「Xmz」の2タイプ。会場ではボディの着せ替えがデモンストレーションで分かりやすく披露されるのも楽しみ。今までに経験したことのない、走る楽しさと持つ楽しさを極限まで追求したモデルとして注目だ。

「KOPENオリジナルミニ四駆」プレゼントキャンペーン実施中!!

東京モーターショーブース来場者に抽選で3000名様! WEBからの応募で抽選2000名！に当たるプレゼントキャンペーン実施中。詳しい応募方法は、ダイハツブースで確認してください!!

ダイハツとタミヤがコラボした、限定ミニ四駆
実際のコンセプトカーと同様に、1つのパッケージに2つのボディが入っています。
タイヤもダイハツとタミヤのロゴが入ったスペシャル仕様。※非売品です



DAIHATSU × TAMIYA



PLAY Tomorrow!

もっと軽にできること。

Topic 2 脱日常!軽の新ジャンル「わくわくスーパースペース」



DECA DECA

軽自動車の新たな可能性を追求した、新発想のスーパースペースモデルがこの「DECA DECA(デカ デカ)」だ。全高1850mmというミニバンタイプ登録車に匹敵する見晴らしの良さで開放感と視界性を確保。高いスペースユーティリティーを持つだけではなく、左右両側に採用した観音開きドアにより、これまでの軽では考えられなかった大開口部を実現したのが特徴だ。前席ロングスライドや全席フルフラットなど、多彩なシートアレンジも大きな魅力だ。

Topic 3



FC deck

ダイハツオリジナル! 軽に最適化した燃料電池車

「FC 凸 deck(エフシー デコ デッキ)」は、同社の独自技術である貴金属フリーの液体燃料電池を搭載。液体燃料を使用した燃料電池は、コンパクトで低コストだから軽自動車に最適。また、同じ燃料電池技術を利用した発電機も同時出展。液体燃料から広がる未来の可能性を提案している。



モーターショー スペシャルサイトも要チェック!!



東京モーターショー会期の23日から毎日、ダイハツブースの様子やコミュニケーターたちの笑顔を会場から生配信します!お見逃しなく!
URL
http://www.daihatsu.co.jp/motorshow2013/

KeyWord @earth TECHNOLOGY

すべてはたのもしい走りのために。

あなたがクルマにもとめることって、何ですか。

Topic 1

@earth TECHNOLOGYを搭載した、『たのもしい走り』を実現するコンセプトカー3台を世界初披露。

Concept GC-PHEV



地球上のあらゆる道を、安全、快適に走り抜く次世代ラージSUV

まずその堂々としたボディの大きさに驚かされるこの本格的なオールラウンドSUV。高出力プラグインハイブリッドEVシステムがもたらす優れた環境性能と力強い動力性能。三菱自動車ならではの車両運動統合制御システム「S-AWC」による卓越した操縦安定性と走破性。次世代の安全思想に基づいた先進技術「e-Assist」。そして、先進の情報システムを活用したコネクティッドカー技術など、多様な「@earth TECHNOLOGY」が満載だ。

Concept XR-PHEV

走る歓びの新次元を開くコンパクトSUV

軽量・高効率なPHEVシステム、1.1L直噴MIVECターボエンジン、俊敏な走りを期待させるエクステリア、ドライビングスピリットを刺激するインテリアなど、"走る歓び"を全身感じる一台だ。





ひとりでも、大人数でも楽しめて、使い方はまさに自由。SUVの機動性と心地よく快適な空間、便利な機能の数々が新しい価値を創りだしている。

Concept AR

新発想・新設計アクティブなコンパクトMPV

Topic 2 体感・体験 @earth TECHNOLOGY



三菱自動車のブースコンセプトは、「すべてはたのもしい走りのために @earth TECHNOLOGY」。
「@earth TECHNOLOGY」とは、三菱自動車が目指す「たのもしい走り」を実現する先進技術の総称で、地球環境に配慮しながら、地球上の様々な地域のお客様に“走る歓び”と“確かな安心”を提供するという「Drive@earth」に込めた地球との共生への想いを具現化していくものだ。

ブースにはこの「@earth TECHNOLOGY」を体感できる技術が数多く展示されている。まずは、コンセプトカー「MITSUBISHI Concept GC-PHEV」のインテリアモデル展示。安全性と未知なる楽しさを広げてくれる独自の先進情報システムを活用したコネクティッドカー技術に触れることができる。さらに、走りの楽しさと環境性能を両立させた「アウトランダー PHEV」に搭載している「プラグインハイブリッドEVシステム」のカットモデルでは、アジアクロスカントリーラリーに参戦し、約2,000kmを走破したその信頼性の高さを実証したその仕組みや機能を間近で確認できる。その他にも、次世代の予防安全技術「e-Assist」やクリーンディーゼルエンジンモデルなど、同社のたのもしい走りを支える先進技術が数多く紹介されており、体感して楽しみながら、最先端の技術と「世界に未だない未来」を感じよう。

Topic 3 大空間1BOX 新型eKスペース 2014年初頭デビュー！

スーパーハイトワゴンタイプの新型軽自動車「eKスペース」、「eKスペース カスタム」を参考出品。「従来の軽自動車を超える上質感」と高く広い居住空間が実現されている。





Topic 4 楽しくなる! 元気になる! ワクワクする! オフ・ブロードウェイの世界



前回もステージ演出が好評だった三菱自動車。今年のステージでは、音楽や歌、ダンスなど様々なエンタテイメント要素が組み合わさった演出が、ブース内の様々な場所で繰り広げられる。これはまさに、来場者と近い距離で上映される「オフ・ブロードウェイ」！

三菱自動車のクルマづくりの考え方、方向性が盛込まれた3台のコンセプトカーを紹介するメインステージに加え、2014年初頭デビュー予定の新型eKスペース、三菱自動車ならではの技術紹介ステージなど、様々なステージが用意されている。

Topic 5 東京モーターショー スペシャルアプリ



三菱自動車ブースでは茨城県大洗が舞台の大人気アニメ、「ガールズ＆パンツァー」の主人公西住みほ が２次元コンパニオンとなって、展示車両などを元気に紹介！！

QRコードで今すぐ特設サイトにアクセス！アプリをダウンロードしてたくさん楽しんでください。

Drive@earth

MITSUBISHI MOTORS

Key Word「その先の、安心と愉しさへ。」

SUBARUの魅力を、旅しよう。

5つのゾーンを巡りながら、SUBARUの魅力を体感できる“SUBARU TOURS”。さあ、発見とサプライズに満ちた旅へ出かけよう。

Topic 1 最新のSUBARUを体感できる、“SUBARU TOURS”オープン!



CHECK!!

スバナビ
スバルスターズがブース内をご案内するナビゲートステージを展開!

ステージモデル
3ゾーン限定でモデルポージング!
みんなのお気に入りはどのモデル?

SUBARUが掲げる「安心と愉しさ」の将来像を、楽しみながら体感できるブース“SUBARU TOURS”がついに開幕した。そのメインを飾るのが、ワールドプレミアとなる新型スポーツツアラー「LEVORG<レヴォーグ>」の展示だ。展示車両は3台用意されており、スタイリングを様々な角度から見ることができるほか、じっくり時間をかけて眺められるコーナーも設けられ、混雑の中でもストレスなく回遊できるブースづくりになっている。また、展示車両とリンクさせた迫力の映像の上映や、LEVORGに搭載される「1.6ℓ 水平対向直噴ターボ“DIT”エンジン」の展示も行っており、LEVORGの魅力をたっぷりと堪能することができる。

さらに、SUBARUが描く未来を表現したコンセプトカーや、SUBARU独自の「SPORT」と「UTILITY」が融合した都市型SUVのデザインコンセプトモデル、SUBARU SUVシリーズの新たなラインアップのひとつとして7シーターのクロスオーバーモデルなども展示。ブースの至るところで、未来のSUBARUブランドが提案する価値を感じることができるはずだ。

その他にも、今年のSUPER GTにおいて、デビューからわずか1年で初優勝を果たしたSUBARU BRZ GT300の展示など、SUBARUの魅力が余すところなく詰まったSUBARU TOURS。数々の展示車両や迫力の映像、そしてブース全体から“その先の、安心と愉しさ”を体感してみて欲しい。

SUBARU TOURSの“旅”がもっと楽しくなる、無料のスマートフォンアプリが登場!

アプリを立ち上げて展示車両に近づくとコンパニオンが解説してくれるガイド機能と、ゾーンを巡るごとにもらえるカメラスタンプによって写真編集を楽しめるアプリ。SUBARUブースを訪れる前に、ぜひチェックしておこう。

SUBARU TOURS

http://sp.subaru.jp/appli/subarutours/

スバルツアーズ

ANDROID APP ON Google play

Download on the App Store

Topic 2

新型スポーツツアラー「LEVORG<レヴォーグ>」をワールドプレミア



スタイリッシュで美しいスポーツカーのようなデザインを、SUBARUブースで実際に確認してみよう。（写真はレヴォーグプロトタイプによるイメージ）

いつの時代もクルマの本質を追求し、絶え間ない革新を続けてきた SUBARU。今年、日本国内に向けて新たに提案する新型スポーツツアラーが、東京モーターショーでついに世界初公開となった。優れた環境性能と、心躍る愉しい走りを両立する「1.6ℓ 水平対向直噴ターボ “DIT” エンジン」。すべての性能を進化させ、より高度な運転支援を実現する「アイサイト（ver.3）」。その流麗なスタイリングからは想像できないほど広い空間と、本格ツーリングカーとしての積載性・実用性を備えたユーティリティ。SUBARU の最新技術と感性のすべてを注ぎ込み、スポーツカーやワゴンというカテゴリーを超越した存在、それがリアル・スポーツツアラー「LEVORG<レヴォーグ>」だ。SUBARU はこのクルマから新たな次元の「安心と愉しさ」を提供していく。

また、LEVORG というネーミングは、「LEGACY REVOLUTION TOURING」を組み合わせたもので、『“SUBARU の大いなる伝承” を引き継ぎながらも、次世代に先駆けた変革により新たなツーリングカーの時代を切り拓く』という意味が込められている。

Topic 3

SUBARUの未来像を表現したコンセプトカー





SUBARUブランドを将来にわたって高めていく新デザインを表現。エクステリアとインテリアともに、ダイナミックな走りを予感させるデザインとしている。

日本初公開となる「SUBARU VIZIV<ヴィジヴ> EVOLUTION CONCEPT」は、2013 年ジュネーブモーターショーなどに出展した「SUBARU VIZIV CONCEPT」をさらに進化させたコンセプトカー。1.6ℓ 水平対向直噴ターボ “DIT” エンジンと、フロント 1 モーター、リヤ 2 モーターを組み合わせたプラグインハイブリッドシステムをはじめ、フロントモーターとリヤモーターの協調制御によって 4 輪を緻密にコントロールする次世代 AWD システム、そしてオートパイロットを実現する高度な安全技術など、数々の先進技術を搭載。SUBARU が目指す将来のデザインや技術の方向性が、この一台に表現されている。

Topic 4

大きな進化を遂げた、先進の運転支援システム「アイサイト（ver.3）」

SUBARU が誇る先進の運転支援システム「アイサイト」が刷新され、LEVORG に初めて搭載される。認識範囲の拡大やカラー認識を可能にしたことで、これまでの衝突回避や運転負荷軽減の性能がさらに進化。加えて、車線中央維持や車線逸脱抑制、後退時の踏み間違い抑制制御など、多彩な新機能も搭載し、安全性能の向上と運転負荷のさらなる軽減を実現している。現在、数多くのユーザーから支持を集めているアイサイトのこの大きな進化は、SUBARU が掲げる「事故のないクルマ社会」の実現に向けた、大きな一歩となっている。



ステレオカメラの進化により、より早く、広く対象物を認識することが可能になったほか、ブレーキランプや信号も認識できるようになった。

KeyWord LEXUS AMAZING IN MOTION

期待を越えた驚きと、その先にある感動を。

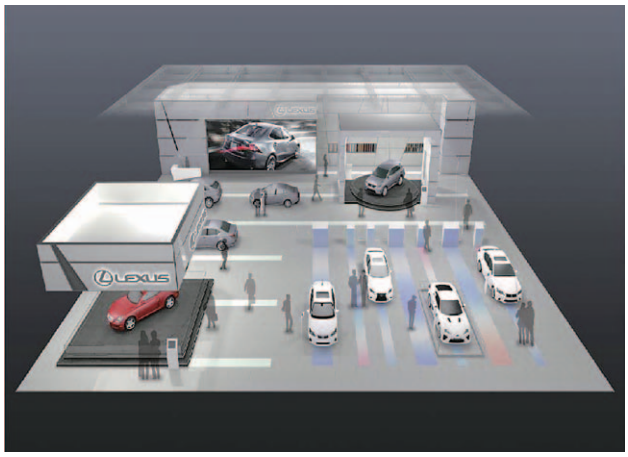
とどまることのないレクサスの創造力。つぎつぎと発想をかたちにしていくことで、あなたの感性を刺激します。

Topic 1

“Progressive Luxury”を具現化したブース

“時代の最先端を創造する、日本発のグローバルプレミアムブランド”レクサス“。
本年初めより、今年のレクサスの方向性を感じさせるブースデザインを
グローバル統一して採用してきましたが、いよいよ東京モーターショーで国内初披露。
白とシルバーで統一されたブースで新しいレクサスの世界観を体感してください。





Topic 2

≪ LEXUS RC ≫
LEXUS の“走り”のイメージを けん引するプレミアムスポーツクーペ



スポーティーでダイナミックなサイドシルエットや、
踏ん張り感を強調したホイールフレアなど、低く構えた
ワイドスタンスで、見る者を一目で魅了するスタイリング。

「LEXUS LFA」や、「LEXUS LF- LC」など、
LEXUSスポーツモデルの意匠をモチーフとしたヘッドランプや、
L字型を強調したリヤコンビネーションなど、
個性を際立たせたLEXUS独自のデザイン要素。

水平基調のインストルメントパネルや表皮一体発泡シートを採用し、
クルマとドライバーの一体感を感じさせるスポーツコックピット。

パワートレーンには3.5ℓガソリンエンジンと、
2.5ℓハイブリッドの2種類を採用し、LEXUSならではの
エモーショナルな走りを実現。

Topic 3

≪ LEXUS LF-NX ≫

新開発ターボエンジンを搭載した 次世代のプレミアムコンパクトSUVコンセプト

フランクフルトモーターショーに出展した「LEXUS LF-NX」に、新たに開発した2.0ℓターボエンジンを搭載。
高い走行性能と優れた環境性能を実現。「凝縮感」と「切れ味」をテーマとし、
引き締まったボディと張り出したタイヤのコントラストで、SUVの力強さと俊敏な走りを表現したエクステリア。
タッチパッド型の新型リモートタッチ採用など、LEXUSの先進性を象徴するインテリア。
東京モーターショー出展車両は、低い構えを表現するフロントアンダースポイラーなど、
ターボモデルならではのスポーティな走りを予感させるデザイン要素を新たに採用。



Topic 4

いくつもの、想像を超える感動を

レクサスの想像力は、クルマを超えてライフシーンへとひろがります。

●CMで御馴染み、レクサスブランドを象徴する“Puppetを特別展示



“AMAZING IN MOTION”をテーマにしたグローバルなキャンペーン
“STEPS”の主役であるパペットを特別に展示。

レクサスの内装素材や外装色を使用して作られた
2体の巨大なPuppetをご覧ください。

●日本の匠とコラボレーション“CRAFTED FOR LEXUS”を特別展示



“日本の匠と共に提案するライフスタイルアイテム”を
コンセプトしたレクサスオリジナルアイテムの数々。
レクサスのクラフトマンシップに共鳴し合った日本各
地の「若き匠」が製作する特別なアイテムを展示。

CRAFTED
FOR LEXUS

●レクサスコンセプトバイク “LEXUS NXB CONCEPT”を世界初披露

LF-NXのデザインコンセプトをモチーフとした、
新ジャンルバイクのコンセプトモデルを世界発お披露目。
レクサスブランドの新たな世界を表現する。



KeyWord Find your e-motion

あなたがまだ知らない驚きが、ここにある。

フォルクスワーゲンのブースにはさまざまな「驚き」が待っている。そのすべてを体感してほしい。

Topic 1 新型ゴルフ ヴァリアントついに日本初登場

4年ぶりにフルモデルチェンジし、日本でも近く導入が予定されている新型ゴルフ ヴァリアントが、第43回東京モーターショーで日本初公開される。

新開発MQBプラットフォームを採用し、最大105kgもの大幅な軽量化を実現。ゴルフ譲りのTSIエンジン×DSGトランスミッションによる低燃費でスポーティな走りも定評のあるところだ。

また、ロングホイールベース化することで、ラゲージスペースは先代モデルから20%容量アップの605ℓを確保し、ひとクラス上のDセグメント並みの広さも実現。さらに、プリクラッシュブレーキシステム“Front Assist Plus”やスマートフォン感覚で操作できるナビ“Discover Pro”も搭載するなど、クラスを超えた先進技術も満載されている。

待望の日本初登場。ぜひフォルクスワーゲンブースにて、新型ゴルフ ヴァリアントのシャープなスタイリングや広い室内、使い勝手のよさなどを体感していただきたい。





Golf Variant

日本初出展 Japan PREMIERE



Golf R



cross up!



The Beetle Racer



The Beetle Cabriolet 50's

日本初公開の個性派モデルたち Topic 2

新型ゴルフ ヴァリアントのほかにも日本初公開モデルが多数登場。本格スポーツのゴルフRや遊び心いっぱいのcross up!、1950年代のアメリカを彷彿とさせるザ・ビートル・カブリオレ50's などバラエティに富んだ車種構成となっている。さらにウェブ限定で予約を受けつけている発売直後のザ・ビートル・レーサーの実車もブースで見ることができる。

冒頭から結論を語るようだが、e-up!の出来には驚きを隠せなかった。11.7kWh／100kmという市販EV随一の低“電費”に加え、キビキビと小気味良い走りが楽しい。D1、D2、D3と3段階で回生ブレーキを調整できるモードを使うことで、スポーティに操ることもできるし、エコ運転に徹することもできる。

いまどき、EVを発売したくらいで驚くほどのものか？ という疑問もあるだろう。e-up!だけなら環境のアドバルーンかもしれないが、フォルクスワーゲンでは、今後、e-モビリティを多くのモデルに展開していく。2014年には115ps／270Nmの強力なモーターを積むe-ゴルフが登場する予定だ。

もちろん、内燃機関の未来も捨てたわけではない。800cc、2気筒ディーゼルとモーターを組み合わせることで111.1km／ℓの低燃費を実現した「XL1」も見逃せない。電化を視野に入れつつ、走る楽しさを次世代につなぐ。そんなフォルクスワーゲンの決意がみて取れる。

（モータージャーナリスト·川端由美）



e-up!


e-Golf


XL1

世界初出展
WORLD PREMIERE

今回、フォルクスワーゲンのブースではワールドプレミアの発表も予定。世界のどこよりも早く日本で公開される1台に注目！

日本初出展
Japan PREMIERE

Topic 3

e-mobilityが切り拓くフォルクスワーゲンの新たな世界

Think Blue.

人とクルマと地球が、いかに共生していくか。フォルクスワーゲンの持続可能なクルマ社会を目指す取り組みが“Think Blue.”。そこから生まれたソリューションのひとつがe-モビリティだ。ハイブリッド車や電気自動車などによる環境に優しいモビリティを提案し、この分野でも世界をリードしていく。

RALLYTHEWORLD.COM
EXCITEMENT WE SHARE





Topic 4

WRC初参戦で3つのワールドタイトルを獲得

フォルクスワーゲンはF1と並ぶ世界最高峰のモータースポーツ、世界ラリー選手権（WRC）に参戦一年目で、ドライバー、コ·ドライバー、マニュファクチャラーズの3つのワールドタイトルを獲得した。その快挙を成し遂げたのは、市販モデルのポロをベースにした「ポロR WRC 2013」。雪や岩、泥に負けない足回り、マイナス30度の極寒地から灼熱のサバンナにも耐えうるパーツ。そして、パワフルな走りと燃費性能を両立したエンジンを搭載し、圧倒的な強さを発揮した。このマシンもブースで見ることができる。

Volkswagen. Das Auto.

問い合わせ・カタログ請求はこちら：フォルクスワーゲン カスタマーセンター 0120-993-199

KeyWord メルセデス・ベンツが示す新たなベンチマーク

2台のワールドプレミアと、先進の安全技術に注目！



S 65 AMG long

Topic 1 テクノロジーとイノベーションの象徴となる展示車に注目

先進装備を満載したフラッグシップ、Sクラスの本格導入が日本でもはじまったメルセデス・ベンツ。今回のモーターショーにはその2ドアクーペとなるConcept S-Class Coupèとシリーズ最上級モデルとなるS 65 AMG longがやってきた。Concept S-Class Coupèは流麗なデザインが魅力的なクルマ。モダンなインテリアデザインとともにまさに世界のセレブリティがその市販化を望んでいるクーペといっていい。ブースではため息が出るほど魅力的な姿をじっくり楽しんで欲しい。

そしてもう一台の注目車、S 65 AMG long。こちらは東京モーターショーがワールドプレミアとなるモデルで、AMG6リッターV12エンジンによる圧倒的な動力性能と、Sクラスの頂点にふさわしい迫力あるエクステリア、贅を尽くし上質を極めたインテリアを備えたまさに世界のトップ・オブ・セダン。今後、世界からハイパフォーマンスセダンのベンチマークとされるクルマといえる。



Concept S-Class Coupè

搭載されるV12エンジンは最新のターボチャージャー、マルチスパークイグニッションシステムを採用し、最高出力630馬力、最大トルク1,000Nmを発揮するとともに燃焼効率の向上と滑らかで上質なエンジンフィールを実現している。またサスペンションは世界を驚かせた「マジックボディコントロール」をベースとしたAMGスポーツサスペンションを装備し、インテリアにはフルレザーインテリアが奢られている。日本市場には2014年年央の導入を予定。

さて、今回のモーターショーは、このS 65 AMG long以外にもう一台ワールドプレミアとなる驚きのモデルが登場。そちらもぜひメルセデス・ベンツブースで実車を見てみよう！



Topic 2 交通事故のない世界への大きな一歩「Intelligent Drive」





世界中の自動車メーカーがいましのぎを削る自動運転。その自動運転を驚くほど高次元に実現したのがメルセデス・ベンツのIntelligent Drive。すでに本国では約100kmにもおよぶテスト走行を安全に走破している。このIntelligent Driveは各種のカメラ、レーダーを駆使したもので、本国では「部分自動運転」、「高度自動運転」、「完全自動運転」の三つの段階に区別され、現在も研究開発されている。このうち「部分自動運転」はすでに新型Eクラスと新型Sクラスで搭載済。ブースでのプレゼンテーションにも注目してほしい。











Topic 3

“つながる・つなげる”「Mercedes-Benz Connection」

メルセデス・ベンツを通したスタイリッシュなライフスタイルを感じることができる新感覚空間「メルセデス・ベンツ コネクション」。現在、東京・六本木と大阪・梅田のグランフロント大阪ナレッジキャピタルにあり、店内ではメルセデス・ベンツの最新モデル展示はもちろん、カフェ、レストラン、グッズショップが併設され連日多くの人で賑わっている。特に東京・六本木のメルセデス・ベンツ コネクションは東京モーターショー開催中、AMGモデルが一堂に揃うサテライト会場になるので、普段なかなか目にすることができないAMGモデルをじっくり楽しめる。東京モーターショー期間中、東京ビッグサイトと六本木のメルセデス・ベンツ コネクションが無料送迎バスで結ばれ、両方を堪能できるので、メルセデス・ベンツの世界をより楽しむなら、ぜひメルセデス・ベンツ コネクションも訪ねてみよう。無料送迎バスの運行は、「実施期間：11月21日～12月1日、運行間隔：60分」。詳細はインフォメーションカウンターまで。





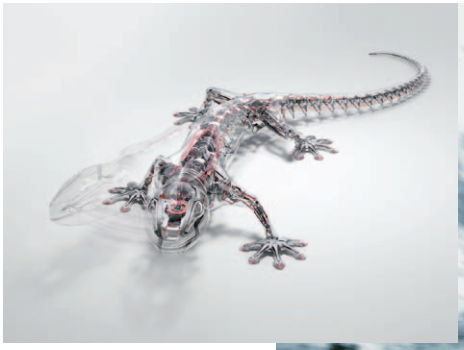
KeyWord Vorsprung durch Technik（技術による先進）

Audiが考える「明日」そして「未来」

革新的技術で自動車社会の明日を切り拓くAudiの最新ラインナップを多数展示









Topic 1 Audiは100年以上の歴史を持つドイツの最も由緒ある自動車メーカーのひとつ。

1899年に創業者アウグスト ホルヒ博士がAudiの前身となるホルヒを設立、1901年に自動車生産を開始した。1932年には、Audi、DKW、ホルヒ、ヴァンダラーの4社でアウトウニオンAGを設立。以来4社の結束を表わしたAudiの象徴である「Four Rings（フォーリングス）」を車両に冠している。

創業者アウグスト ホルヒ博士が唱えた「レースは技術の実験室」という信念の基、Audiの成長と技術革新は、モータースポーツでの成功と共にある。現在のAudiの革新性の礎となっている「quattro®（フルタイム4輪駆動システム）」を始めとしたAudi独自の革新的技術の多くはモータースポーツで生まれ研ぎ澄まされたものであり、その革新的技術が市販車に惜しみなく導入されている。最新のAudi各モデルもモータースポーツのDNAを持った、革新・洗練・かつ躍動感あふれるラインナップとなっている。

次世代のハイブリッド車、最新のジャパンプレミア車を展示。 Topic 2

ステージ上では、ハイブリッド技術「Audi e-tron」を搭載したAudi A3 Sportback e-tronが展示され、来年導入が予定されるAudiブランド旗艦車種Audi S8も顔を揃える。

ブースの手前では、2012年のル・マン２４時間レースにてハイブリッドマシンとして初参戦・初優勝という史上初の快挙を成し遂げた実車「Audi R18 e-tron quattro」が展示されAudiの「技術による先進」の粋を間近で感じられる。そしてル・マン24時間レースや世界ラリー選手権で生まれ、鍛え上げられたquattroをはじめとする革新的技術を搭載したAudiの最高峰車種Audi R8 Spyderおよび最新RSモデル（Audi RS 7 Sportback、Audi RS 6 Avant、Audi RS 5 Cabriolet、Audi RS 4 Avant）ならびにSモデル（Audi SQ5、Audi S3 Sedan）が登場する。



2012年のル・マン24時間レースにおいてハイブリッドマシンで初参戦、初優勝という史上初の快挙を成し遂げた、Audi R18 e-tron quattro 1号車（優勝実車）を展示。
※写真は2013年レースの模様です。

Topic 3 Audi Expertがあなたの疑問にお答えします。

創業者アウグスト ホルヒ博士が唱えた、「レースは技術の実験室」という信念からレースで生まれ、鍛えられた各種技術たちは、Audi独自の4輪駆動システム「quattro®」、軽量化技術「Audi ultra」、ハイブリッド技術「Audi e-tron」へと結実している。それらのテクノロジーを説明するべく、 Audiブースでは「Audi Expert」という専門スタッフを配置。様々な疑問・質問に答えてくれる。

そしてAudiの革新的技術を網羅的に知りたい方には、毎時定期的に行われるAudi Expertによるブース内特別ツアー「Audi Expert Tour」プログラムを。より詳しく革新的技術を知りたい方には、one to oneで質問にお答えする「Audi Expert Consulting」プログラムが用意されている。

（Audiブースにて事前予約制。混雑時にはご予約頂けない場合もございますが、予めご了承ください。）

Audiのブランドバリュー、「革新」「洗練」「スポーティ」を体現した各種プロモーション

2011年の東京モーターショーでも人気を博したAudi Progressive Showが今年はより進化して登場（不定期開催）。また各界の第一人者であるAudi アンバサダーによるトークショーも開催予定（不定期開催）。そしてブースでは、毎日定期的にAudi magazineを配布。誌面にて展示車種の詳細情報・最新技術の詳細を知ることができる。

Topic 4

KeyWord SO ALIVE.

マシンではない、ジャガーという「生き物」

創立者、サー・ウィリアム・ライオンズの信念を体現した、人間に限りなく近いクルマ

Topic 1 フラッグシップサルーンの2014年モデルは全グレードにアイドリングストップ機能を装備

ジャガー XJ Portfolio（2014年モデル）



出展されるポートフォリオは、V6、3ℓエンジン搭載車。340psの出力を発生

2009年にロンドンで公開された4代目XJ。2013年現在、その99%がアルミで作られるボディには、2ℓ直4ターボ、3ℓのV6スーパーチャージャー、5ℓV8スーパーチャージャーの、3つのエンジンが用意される。

10月から受注開始となった高性能モデル「XJR」も魅力だが、2014年モデルとしてもう一つの注目は、2ℓモデルの「LUXURY」。それまでV6、V8エンジン車にのみ搭載されていたアイドリングストップ機能「ジャガー・インテリジェント・ストップ・スタート・システム」が2ℓモデルにも採用され、燃費が大きく向上したからだ。

5ℓモデルの豪快な走りもよし。2ℓモデルのクリーンな走りもよし。XJ2014年モデルが用意する選択肢は多い。

Topic 2 スポーティサルーンXF。その卓越した走りが、より身近になって登場

ジャガー XF2.0 Luxury（2014年モデル）



ショー出展車はグロスブラック仕上げの20インチアルミホイールを装着する

2007年9月のフランクフルトモーターショーで発表されて以来、数々の国際的な賞を受賞してきたスポーティングサルーン、XFも今回の東京モーターショーに出展される。

2013年モデルから全世界的なダウンサイジングの流れとも符合する2ℓ直4ターボ、3ℓのV6スーパーチャージャーエンジン搭載グレードが用意され、新たな境地を開いたXFだが、ジャガーは2013年10月にその2種のエンジン搭載グレードの価格改定を発表。より手が届きやすい価格となった（2ℓモデルで約50万円、3ℓモデルは84万円の定価引き下げ）のが、大きなトピック。この機会にぜひ実車でその価値を確認してほしい。

Topic 3 日本デビュー間もないF-Typeのクーペボディがワールドプレミア

ジャガー F-Type



オールアルミニウム製のボディを持ち、3ℓのV6と5ℓのV8、ふたつのスーパーチャージドエンジンが用意される快速コンバーチブル、F-Type。日本では5月に発表されたばかりで、その興奮もまだ冷めやらぬという感じだが、ジャガーは攻撃の手を緩めない。今度の東京モーターショーに、そのクーペボディバージョンを出展する。コンバーチブルに劣らぬ美しいボディも自慢のF-Typeクーペ。けっして見逃してはいけない一台だ。



右写真からもクーペのボディ形状が確認できる。より詳しくは会場で確認してほしい

KeyWord DRIVEN TO ANOTHER LEVEL

ランドローバー史上、最速のSUVが姿を現す

60年以上の歴史を持つSUVの専門ブランド、ランドローバー。その実力を計るにふさわしい3モデルが登場

Topic 1 パイクスピークのSUVレコードホルダー、日本初登場



レンジローバー スポーツ

3ℓのV6スーパーチャージドエンジン搭載グレード（340ps/45.9kgm）も用意される

レンジローバーに似たスタイルを持ちながらも、よりスポーティな性格を与えられて登場した初代レンジローバースポーツ。その2代目が、今回の東京モーターショーで日本発お披露目となる。

先代よりアグレッシブなスタイルとなった2代目。無論、内包するその性能もより強力になった。その実力は、海抜2862mのスタート地点から標高4301mの頂上まで、一気に駆け抜けタイムを競う「パイクスピーク」で、改造なしの市販SUVモデルとして新記録を打ち立てたことからも、うかがい知ることができる。メーカー自らが謳う「ランドローバー史上最速、最も俊敏、最もレスポンスに優れたモデル」の言葉に偽りはない。

その記録を打ち立てた原動力として、510ps/63.7kgmの出力を発生する5ℓのV8スーパーチャージャーエンジンがあるのは間違いないが、同エンジンを搭載した先代比で約300kgの軽量化が行なわれたことも影響しているのは確実。新型レンジローバースポーツは、一切の妥協を廃して開発された強力なモデルなのだ。

優れたオンロード性能、そしてランドローバーブランド車として欠かせない最高のオールテレイン性能。その2つを兼ね備えた新型レンジローバースポーツ。ぜひ会場で確認していただきたい。





パイクスピークでステアリングを握ったポール・ダレンバック。写真のような過酷な状況のコースを全力で駆け抜ける。タイムは12分35秒61をマーク

そのほかの出展車

スタイリッシュな外観から高い人気を誇るレンジローバー イヴォークの2014年モデルも出展される。トピックはやはりZF社製の9速ATの搭載。240ps/34.7kgmを発生する2ℓ直4ターボエンジンとあいまって、従来モデル以上の軽快な走りを披露してくれる。



レンジローバー イヴォーク（2014年モデル）

ディスカバリー 2014年モデルの最大のトピックは、搭載エンジンが従来の5ℓ V8から、3ℓのV6スーパーチャージドに変更されたこと。またボンネットフードにつくバッジも「Land Rover」から「Discovery」に変更され、ヘッドライトデザインも変更された。



ランドローバーディスカバリー（2014年モデル）

KeyWord 2輪から3輪、そして4輪へ。

広がるパーソナルモビリティの世界を提案

次の時代を見据えて、新しいモビリティ領域に挑戦。ヤマハらしいワクワクを提供します。

Topic 1 YZR-M1のDNAを継ぐ250ccスポーツ新開発2気筒エンジンでついに登場



R25

ヤマハのレースDNAを引き継ぐ250ccスポーツがいよいよ登場する。熱烈なヤマハファンの間でずっと登場が待たれていたモデルだ。

エンジンは新開発水冷4ストローク2気筒FI。250ccクラスのバイクは、手頃なサイズで経済性もいいことから、近年、若者やリターンライダーを中心にその人気が復活している。R25は、まさに旬のモデルということになるだろう。

気になるその特徴は、ヤマハらしい「走る楽しさ」が存分に味わえる仕上がりである。気持ちよく回るエンジンのレスポンスのよさ、高回転域でのパワーなど、ヤマハのレースDNAがたっぷり注ぎこまれている。それでいて、軽い車重や足つき性のよさで、日常のコミューティングからワインディングロードまで、毎日が楽しくなる。体格や経験を問わず乗りやすくなっているのだ。

市販モデルの発表が待ち遠しい1台。

Topic 2 新型3輪や4輪のコミューターで新しいモビリティスタイルを提案する


TRICITY Concept




MOTIV

ヤマハが提案する新しいモビリティを紹介しよう。ひとつ目が、リーニングマルチホイルの「TRICITY Concept」だ。前2輪＋後1輪となっており、スポーティな走りと安定感を両立している。加えて、パワフルな125ccエンジンと軽量な車体により、新感覚のシティコミューターとしてその存在感を発揮する。

そしてもう1台の「MOTIV」は、人機一体感がもたらす、ドライビングプレジャーを追求した新発想のクルマだ。F1思想をベースとした設計にも注目したい。

THE NEW MINI ワールドプレミア
TOKYO MOTOR SHOW 2013で初披露!



WWW.MINI.JP

» 東第2ホールで、展示中!

MINI JAPAN 公式Twitter アカウントはこちら @MINI_JAPAN

MINI JAPAN 公式Facebook ページはこちら www.facebook.com/MINI.Japan

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013
東京ビッグサイト 会場案内図
TOKYO BIG SIGHT MAP



出展者リスト／EXHIBITORS LIST

アール・ダブリュー・シー	P057 **E1001**	イワタボルト	P052 **W1004**	経済産業省 資源エネルギー庁	P054 **SMC26**	スタンレー電気	P056 **E2103**
アイシン・エィ・ダブリュ	P058 **E5203**	インファステック	P054 **W3308**	KTM	P058 **EM01**	スナップオン・ツールズ	P058 **E5003**
アイシン・エーアイ	P058 **E5203**	HKT	P054 **W3407**	ケーヒン	P057 **E1003**	スパル	P057 **EP01**
アイシン化工	P058 **E5203**	AMG	P052 **WP01B**	KEN OKUYAMA DESIGN	P052 **CZ01**	スマート	P052 **WP01A**
アイシン精機	P058 **E5203**	エクセディ	P058 **E5006**	小糸製作所	P056 **E2101**	住友ゴム工業	P058 **E5103**
アイシン高丘	P058 **E5203**	エコモ	P054 **SMC19**	コイワイ	P054 **W3505**	住友電気工業	P056 **E2110**
ITS Japan	P054 **SMC20**	SGモータース	P057 **OE01**	国土交通省 自動車局	P054 **W3202 W3301**	3D Auto Protech	P058 **E5008**
IPF	P054 **W3403**	NOK	P057 **E1002**	国土交通省 道路局	P054 **SMC04**	積水ハウス	P054 **SMC03**
アウディ	P059 **EP13**	NTN	P058 **E5101**	コボット	P054 **SMC16**	ZF Friedrichshafen	P052 **W1001**
曙ブレーキ工業	P058 **E5007**	NTTドコモ	P054 **SMC01**	Continental	P052 **W1101**	全国自動車標板協議会	P054 **W3101**
旭硝子	P054 **SMC14**	大野ゴム工業	P058 **E5008**	Samvardhana Motherson Group	P052 **W1003**	ソニックデザイン	P052 **W1201**
朝日電装	P054 **W3306**	Öhlins Racing	P058 **E5004**	サンデン	P054 **W3002**	大同メタル工業	P054 **W3503**
アステア	P058 **E5008**	オムロンオートモーティブエレクトロニクス	P057 **E1005**	三輪精機	P054 **W3501**	ダイハツ	P056 **EP06**
アスモ	P056 **E2201**	カーメイト	P056 **E2104**	ジード	P054 **SMC12**	大豊工業	P052 **W1002**
アドヴィックス	P058 **E5203**	カワサキ	P058 **EM02**	ジェイテクト	P058 **E5202**	高山自動車	P054 **CZ05**
アルコア・ホイール・プロダクツ・ジャパン	P054 **W3303**	環境省	P055 **SMC27**	Schaeffler	P058 **E6009**	タダノ	P057 **OE01**
アルパイン	P054 **W3004**	カンバーニャモータース ジャパン	P052 **CZ02**	次世代自動車振興センター	P054 **SMC06**	タチエス	P056 **E3011**
アルピナ	P056 **EP05**	九都県市首脳会議	P054 **W3201**	自動車事故対策機構	P054 **W3202**	TUM CREATE	P054 **SMC08**
アンデン	P056 **E2201**	京三電機	P056 **E2201**	シトロエン	P058 **EP09B**	テイ・エステック	P056 **E2107**
イケヤフォーミュラ	P054 **W3001**	京都機械工具	P058 **E5208**	ジャガー	P059 **EP08A**	ディーアート	P054 **SMC17**
イサム塗料	P054 **W3402**	協和工業	P058 **E5108**	ジヤトコ	P058 **E4001**	TPR	P054 **W3506**
いすゞ	P057 **EC02**	極東開発工業	P057 **OE01**	新明和工業	P057 **OE01**	データシステム	P056 **E2106**
今仙電機製作所	P054 **W3404**	クセノ	P054 **W3405**	水素供給・利用技術研究組合	P054 **SMC07**	テスラモーターズジャパン	P052 **WP05**
		クラリオン	P056 **E2202**	須河車体	P057 **OE01**	Terra Motors	P054 **SMC15**
		グロースンドリーム	P054 **SMC13**	スズキ	P058 **EP16**	デルタ工業	P056 **E2010**

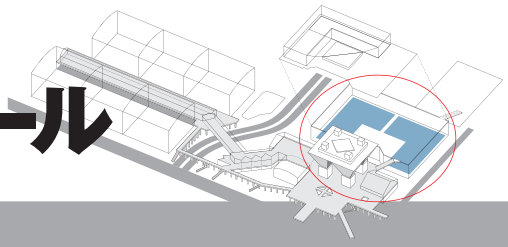


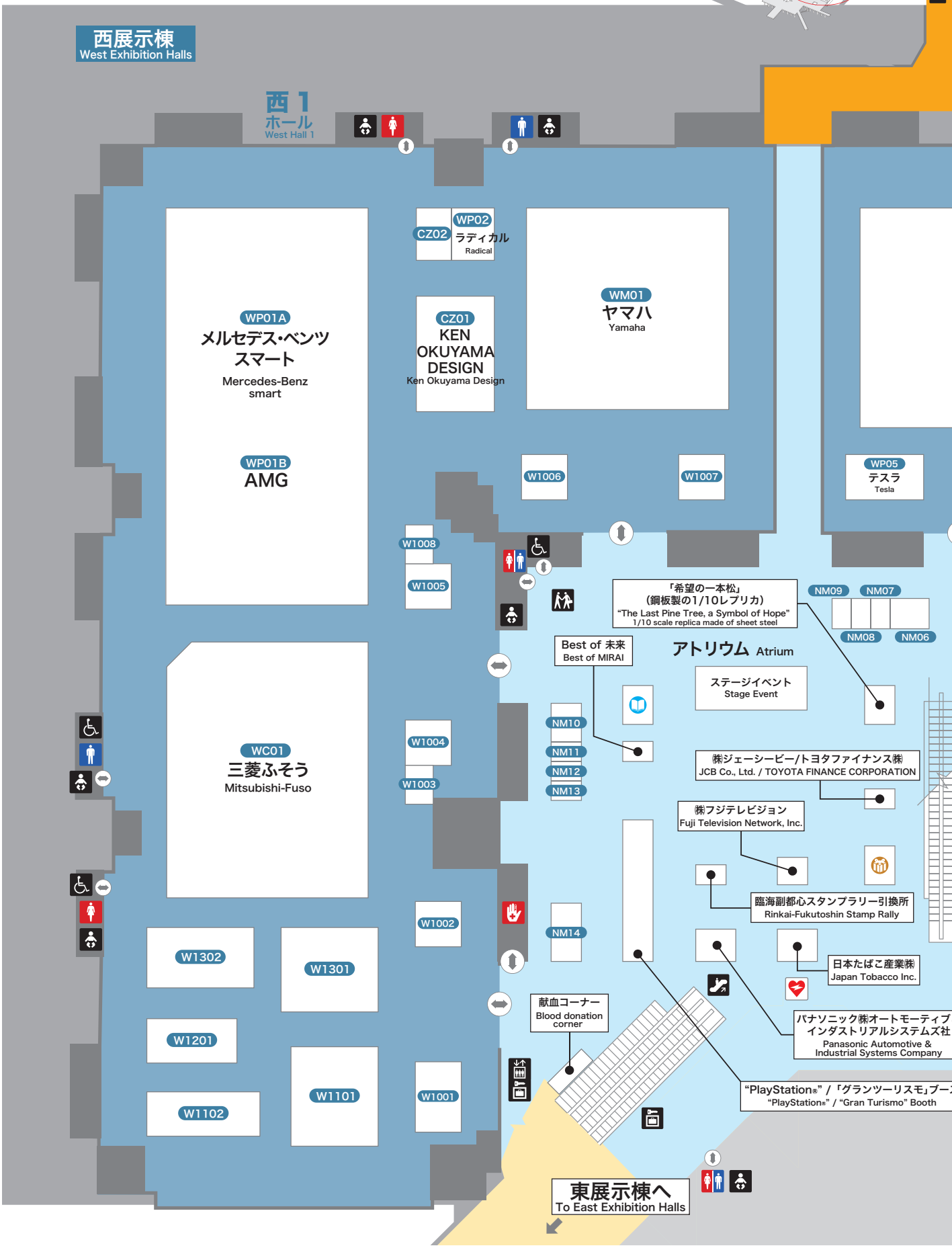
デンソー	P056 E2201 P054 SMC21	日本トレクス	P057 OE01	フォルクスワーゲン	P059 EP12	MINI	P056 EP03
東海ゴム工業	P056 E2109	日本発条	P058 E5102	富士機工	P058 E5107	Militec	P058 E5004
東海理化	P056 E2102	日本ピストンリング	P054 W3507	富士通テン	P054 W3003	メキシコ大使館商務部PROMEXICO	P052 W1008
東芝	P054 SMC03	日本フルハーフ	P057 OE01	藤壺技研工業	P058 E5008	メルセデス・ベンツ	P052 WP01A
東日製作所	P052 W1007	日本サーモスタット	P054 W3406	プジョー	P058 EP09A	矢崎総業	P056 E2007
東邦車輌	P057 OE01	日本自動車体工業会	P057 OE01	ブリヂストン	P058 E5204	八千代工業	P054 W3302
道路交通情報通信システムセンター	P054 SMC05	NATS 日本自動車大学校	P054 CZ04	プロッツァ	P054 SMC18	矢野特殊自動車	P057 OE01
トキコテクノ	P056 E2202	日本自動車部品工業会	P058 E5008	ボッシュ	P052 W1301	やまと興業	P058 E5008
常盤産業	P054 SMC10	日本自動車連盟	P054 W3102	ポルシェ	P059 EP07	ヤマハ	P052 WM01
TONE	P052 W1006	日本大学工学部	P054 SMC11	ボルボ	P058 EP14	ユアサ工機	P054 W3502
トヨタ	P056 EP04 P055 SMC25	日本モレックス	P054 W3305	ボルボ・トラック	P057 EC04	ユーシン	P056 E2009
豊田合成	P056 E3012	浜名湖電装	P056 E2201	ホンダ	P053 WP03/WM02 P054 SMC03	UDトラックス	P057 EC03
トヨタ自動車東日本	P056 EB03	浜名ワークス	P057 OE01	MAHLE	P052 W1302	横浜ゴム	P058 E5105
豊田自動織機	P057 E1004	ビーウィズ	P052 W1102	マーレエンジンコンポーネンツジャパン	P052 W1302	ヨロズ	P058 E5005
トヨタ車体	P057 EB01	BNLジャパン	P054 W3304	マーレフィルターシステムズ	P052 W1302	ラディカル スポーツカーズ	P052 WP02
トヨタ紡織	P056 E3105	BMW	P056 EP03	松井製作所	P058 E5106	ランドローバー	P059 EP08B
トヨタホーム	P055 SMC24	日立オートモティブシステムズ	P056 E2202	マツダ	P058 EP15 P054 SMC02	リケン	P054 W3508
西岡可鍛工業	P058 E5008	日立金属	P056 E2006	丸子警報器	P058 E5008	ルノー・ジャポン	P058 EP10
日産	P058 EP11 P054 SMC23	日立製作所	P056 E2202	ミクニ	P052 W1005	レイズ	P058 E5206
日産車体	P056 EB02	日立ビークルエナジー	P056 E2202	ミツバ	P056 E2108	レクサス	P056 EP02
日信工業	P058 E4002	日野	P057 EC01	三菱	P053 WP04 P054 SMC22	レスク	P054 CZ03
日通商事	P057 OE01	現代(ヒュンダイ)	P057 EC05	三菱電機	P056 E3203	Robert Bosch	P052 W1301
日本グッドイヤー	P058 E5104	Hiriko.JP	P054 SMC09	三菱ふそう	P052 WC01	ワーテックス	P054 W3408
日本精工	P058 E5201	Hirschvogel Holding	P058 E5109	水戸工機	P058 E5207	ワイビーシステム	P058 E5205
日本特殊陶業	P056 E2008	ファインシンター	P054 W3504	ミドリホクヨー	P054 W3401		

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

西展示棟1階 西1・2ホール

WEST1/2 HALLS MAP (1F)





屋外展示場 Outdoor Exhibition Area

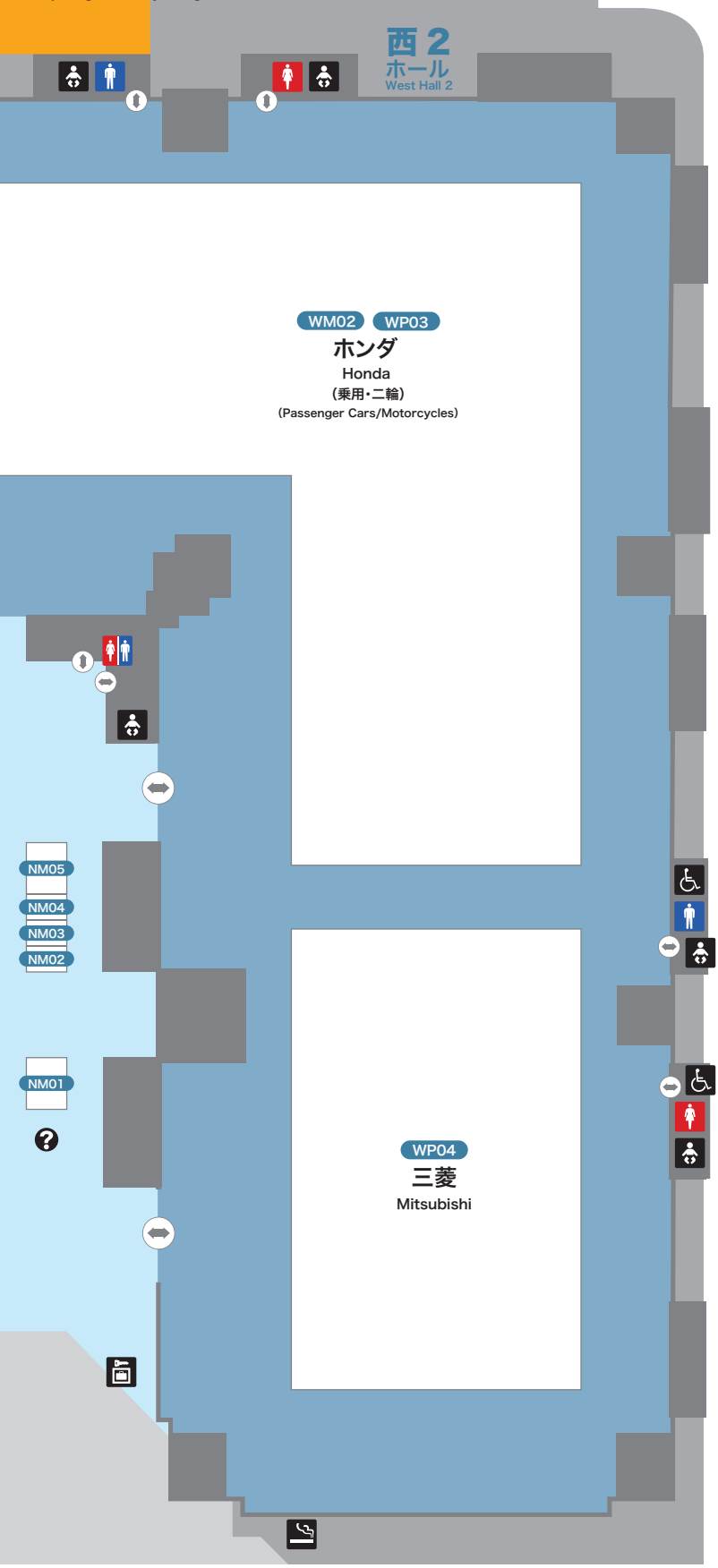
プロの運転による乗用車同乗試乗会
Test ride Program by professionals' driving
11月22日(金)～26日(火) Nov.22(Fri.)-26(Tue.)

二輪車試乗会
Motorcycle test ride
11月28日(木)～12月1日(日)
Nov.28(Thu.)-Dec.1(Sun.)

電動アシスト付き自転車試乗会
Electrically-assisted bicycle test ride
11月28日(木)～12月1日(日)
Nov.28(Thu.)-Dec.1(Sun.)

ワールド フード カップ
World Food Cup
10:00～16:30

営業時間が変更になる場合がありますのでご了承ください
Opening times may change in line with events



インフォメーション Information
待ち合わせコーナー Meeting Point
エレベーター Elevator
エスカレーター Escalator
化粧室 Restroom
身障者用施設 Accessible Facility
乳幼児用施設 Nursery
コインロッカー Coin Lockers
救護室 First Aid
AED 自動体外式除細動機 AED/Automated External Defibrillator
喫煙場所 Smoking Area
レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe, Rest Zone
オフィシャルグッズショップ Official Goods Shop
自動車ガイドブック販売所 Guide Book Stand

■カロッツェリア Carrozzeria

CZ02	カンパーニャモータースジャパン	Campagna Motors Japan

■部品／機械器具 Parts, Machinery and Tools

W1001	ZF Friedrichshafen AG	
W1002	大豊工業(株)	Taiho Kogyo Co., Ltd.
W1003	Samvardhana Motherson Group	
W1004	イワタボルト(株)	Iwatabolt Co., Ltd.
W1005	(株)ミクニ	Mikuni Corp.
W1006	TONE(株)	TONE Co., Ltd.
W1007	(株)東日製作所	Tohnichi Mfg. Co., Ltd.
W1008	メキシコ大使館商務部PROMEXICO	Trade Commission of Mexico in Japan Promexico
W1101	Continental AG	
W1102	ビーウィズ(株)	Bewith Enterprise Japan, Ltd.
W1201	(株)ソニックデザイン	Sonic Design Co., Ltd.
W1301	Robert Bosch GmbH ボッシュ(株)	 Bosch Corp.
W1302	MAHLE GmbH (株)マーレフィルターシステムズ マーレエンジンコンポーネンツジャパン(株)	 MAHLE Filter Systems Japan Corp. MAHLE Engine Components Japan Corp.

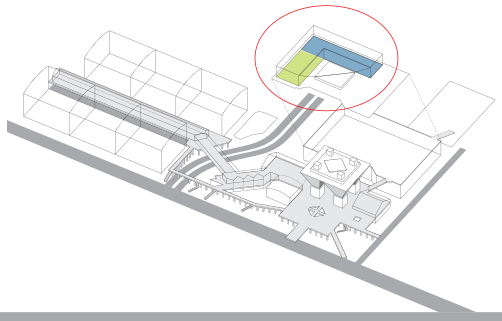
■新聞・雑誌コーナー Newspaper & Magazine Corner

NM01	(株)日刊自動車新聞社	Daily Automotive News
NM02	(株)モーターマガジン社	Motor Magazine Ltd.
NM03	(株)交通タイムス社	Kotsu Times Sha Co., Ltd.
NM04	(株)内外出版社	Naigai Publishing Co., Ltd.
NM05	(株)フォーイン	Fourin, Inc.
NM06	(株)八重洲出版	Yaesu Publishing Co., Ltd.
NM07	(株)交通毎日新聞社	Kotsumainichi Shimbunsha Corp.
NM08	(株)ぼると出版	Porte Publishing Co.
NM09	(株)カーアンドレジャーニュース	Car and Leisure News Inc.
NM10A	(有)三樹書房	Miki Press
NM10B	(株)グランプリ出版	Grand Prix Book Publishing Co., Ltd.
NM11	(株)ニ玄社	Nigensha Publishing Co., Ltd.
NM12	(株)講談社ビーシー	Kodansha BC Ltd.
NM13	(株)ネコ・パブリッシング	Neko Publishing
NM14	(株)三栄書房	Sanei-shobo Publishing Co., Ltd.

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

西展示棟4階 西3・4ホール

WEST3/4 HALLS MAP（4F）



西展示棟
West Exhibition Halls

西4ホール
West Hall 4

SMC03

SMART MOBILITY CITY 2013

パーソナルモビリティ体験走行
Personal mobility experiences

超小型モビリティ体験走行
Micro mobility experiences

電動二輪車試乗会
Electric two-wheeler test rides

11月22日(金)～12月1日(日)
Nov.22(Fri.)-Dec.1(Sun.)

SMC18 SMC19 SMC23
SMC17 SMC16 SMC22
SMC15
SMC14 SMC20 SMC21
SMC02 SMC07 SMC06 SMC26 SMC09
SMC01 SMC05 SMC04 SMC08
SMC10 SMC11 SMC12 SMC13 SMC27

SMC試乗会受付

W3004 W3003 W3002 W3001
CZ05 CZ04 CZ03
W3505 W3506 W3504 W3503 W3507 W3508 W3502 W3501
W3405 W3406 W3404 W3403 W3407 W3408 W3402 W3401
W3305 W3306 W3304 W3303 W3308 W3302 W3301
W3202 W3201 W3102 W3101

西3ホール
West Hall3

トミカコーナー
Tomica Corner

ソープボックスダービー
Soap Box Derby

東展示棟へ
To East Exhibition Halls

自動車技術会
Society of Automotive Engineers of Japan

エレベーター　Elevator
エスカレーター　Escalator
化粧室　Restroom
身障者用施設　Accessible Facility
乳幼児用施設　Nursery
コインロッカー　Coin Lockers
AED 自動体外式除細動機　AED/Automated External Defibrillator
喫煙場所　Smoking Area
レストラン・カフェ・休憩ゾーン　Restaurant & Cafe, Rest Zone



■SMART MOBILITY CITY 2013　Supported by DUNLOP

SMC01	(株)NTTドコモ	NTT DOCOMO, Inc.
SMC02	マツダ(株)	Mazda Motor Corp.
SMC03	積水ハウス(株) (株)東芝 本田技研工業(株)	Sekisuihouse, Ltd. Toshiba Corp. Honda Motor Co., Ltd.
SMC04	国土交通省 道路局	Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
SMC05	(一財)道路交通情報通信システムセンター	Vehicle Information and Communication System Center
SMC06	(一社)次世代自動車振興センター	Next Generation Vehicle Promotion Center
SMC07	水素供給・利用技術研究組合	The Research Association of Hydrogen Supply/Utilization Technology
SMC08	TUM CREATE	
SMC09	(株)Hiriko. JP	HIRIKO JP Co., Ltd.
SMC10	常盤産業(株)	Tokiwa Corp.
SMC11	日本大学工学部	College of Engineering, Nihon University
SMC12	ジード(株)	ZieD Co., Ltd.
SMC13	(株)グロースンドリーム	Growthn Dream. Co., Ltd.
SMC14	旭硝子(株)	Asahi Glass Co., Ltd.
SMC15	Terra Motors(株)	Terra Motors Corp.
SMC16	コボット(株)	KOBOT Co., Ltd.
SMC17	(株)ディーアート	D Art Co., Ltd.
SMC18	(株)プロッツァ	Prozza Corp.
SMC19	(株)エコモ	ecomo Corp.
SMC20	(特非)ITS Japan	ITS Japan
SMC21	(株)デンソー	DENSO CORPORATION
SMC22	三菱自動車工業(株)	Mitsubishi Motors Corp.
SMC23	日産自動車(株)	Nissan Motor Co., Ltd.
SMC24	トヨタホーム(株)	Toyota Housing Corp.
SMC25	トヨタ自動車(株)	Toyota Motor Corp.
SMC26	経済産業省 資源エネルギー庁	Agency for Natural Resources and Energy
SMC27	環境省	Ministry of the Environment

■カロッツェリア　Carrozzeria

CZ03	レスク(株)	Resc, Ltd.
CZ04	NATS日本自動車大学校	Nihon Automobile College
CZ05	(株)高山自動車	Takayama Cars Co., Ltd.

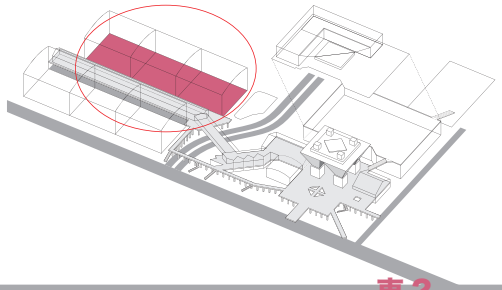
■部品／自動車関連サービス　Parts, Automobile Related Services

W3001	(株)イケヤフォーミュラ	Ikeya Formula, Co., Ltd.
W3002	サンデン(株)	Sanden Corp.
W3003	富士通テン(株)	Fujitsu Ten Ltd.
W3004	アルパイン(株)	Alpine Electronics, Inc.
W3101	(一社)全国自動車標板協議会	National Automobile License Plate Council
W3102	(一社)日本自動車連盟	Japan Automobile Federation
W3201	九都県市首脳会議環境問題対策委員会 大気保全専門部会	9Capital prefecture city Expert committee of the atmospheric environment section
W3202	国土交通省 自動車局 (独)自動車事故対策機構	Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Road Transport Bureau, Engineering Policy Division National Agency for Automotive Safety & Victim's Aid
W3301	国土交通省 自動車局	Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Road Transport Bureau, Engineering Policy Division
W3302	八千代工業(株)	Yachiyo Industry Co., Ltd.
W3303	アルコア・ホイール・プロダクツ・ジャパン(株)	Alcoa Wheel Products Japan Ltd.
W3304	BNLジャパン(株)	BNL Japan Inc.
W3305	日本モレックス(株)	Molex Japan Co., Ltd.
W3306	朝日電装(株)	Asahi Denso Co., Ltd.
W3308	インファステック(株)	Infastech K.K.
W3401	ミドリホクヨー(株)	Midori Hokuyo Co., Ltd.
W3402	イサム塗料(株)	Isamu Paint Co., Ltd.
W3403	IPF(株)	IPF Corp.
W3404	(株)今仙電機製作所	Imasen Electric Industrial Co., Ltd.
W3405	(株)クゼー	Kuzeh Corp.
W3406	日本サーモスタット(株)	Nippon Thermostat Co., Ltd.
W3407	HKT(株)	HKT Corp.
W3408	(株)ワーテックス	Watex Co., Ltd.
W3501	三輪精機(株)	Sanwa Seiki Ltd.
W3502	ユアサ工機(株)	Yuasa Co., Ltd.
W3503	大同メタル工業(株)	Daido Metal Co., Ltd.
W3504	(株)ファインシンター	Fine Sinter Co., Ltd.
W3505	(株)コイワイ	Koiwai Co., Ltd.
W3506	TPR(株)	TPR Co., Ltd.
W3507	日本ピストンリング(株)	Nippon Piston Ring Co., Ltd.
W3508	(株)リケン	Riken Corp.

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

東展示棟1階 東1~3ホール

EAST1-3 HALLS MAP（1F）



東展示棟
East Exhibition Halls

東3ホール
East Hall 3

東2ホール
East Hall 2

EP04 トヨタ Toyota

EP03 BMW（乗用・二輪）(Passenger Cars/Motorcycles) MINI

EP02 レクサス Lexus

EP06 ダイハツ Daihatsu

EP05 アルピナ Alpina

E3203 E3105 E2202 E2106 E2107 E2104 E2103 E2201 E2108 E2109 E2110 E2102 E2101

EB02 日産車体 Nissan Shatai

EB03 トヨタ自動車東日本 Toyota Motor East Japan

E3012 E3011 E2010 E2009 E2008 E2007 E2006

東1階ゲート East Hall 1st floor gate

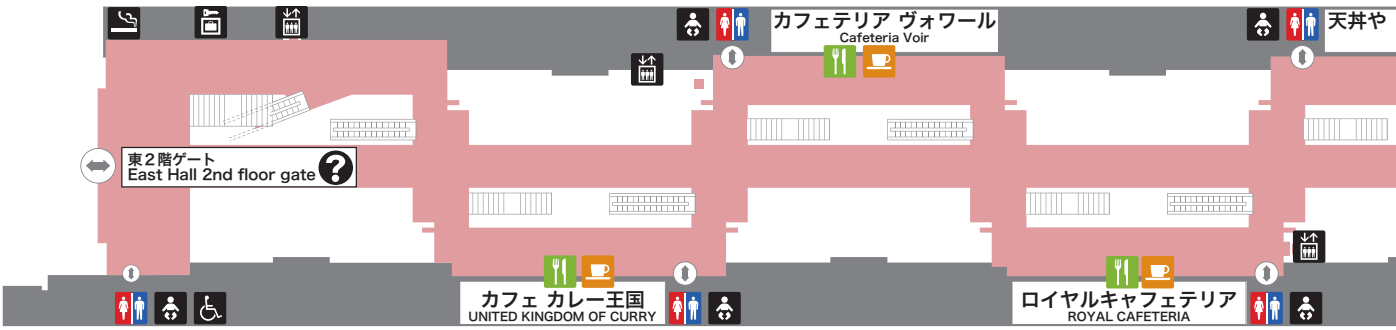
「アサヒドライゼロ」PRコーナー "Asahi DRY ZERO" PR Corner

東6ホール East Hall 6

東5ホール East Hall 5

（ホール内トイレのみ）

東展示棟 2F
East Exhibition Halls



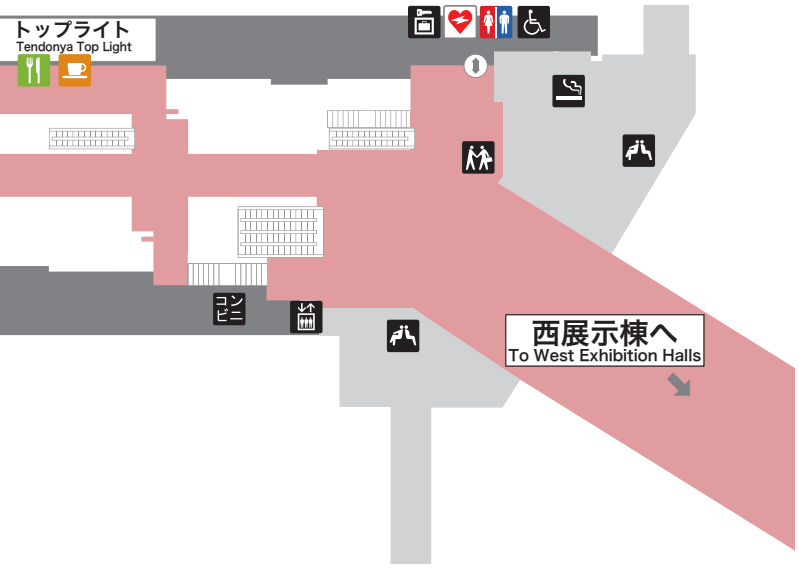
- インフォメーション Information
- 待ち合わせコーナー Meeting Point
- エレベーター Elevator
- エスカレーター Escalator
- 化粧室 Restroom
- 身障者用施設 Accessible Facility
- 乳幼児用施設 Nursery
- 授乳室 Nursery Room
- コインロッカー Coin Lockers
- 救護室 First Aid
- AED 自動体外式除細動機 AED/Automated External Defibrillator
- 喫煙場所 Smoking Area
- レストラン・カフェ・休憩ゾーン Restaurant & Cafe, Rest Zone
- コンビニエンスストア Convenience Store
- オフィシャルグッズショップ Official Goods Shop
- 自動車ガイドブック販売所 Guide Book Stand

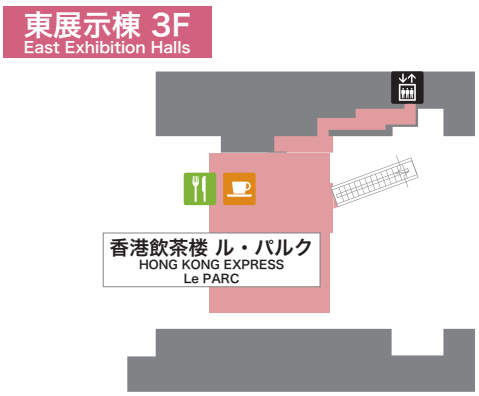
SGモーターズ(株)
SG Motors Co., Ltd.
極東開発工業(株)
Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.
新明和工業(株)
ShinMaywa Industries, Ltd.
須河車体(株)
Sugawa Shatai Co., Ltd.
(株)タダノ
Tadano Ltd.
東邦車輌(株)
Toho Car Corp.
日通商事(株)
Nittsu Shoji Co., Ltd.
日本トレクス(株)
Nippon Trex Co., Ltd.
日本フルハーフ(株)
Nippon Fruehauf Co., Ltd.
(株)浜名ワークス
Hamana Works Co., Ltd.
(株)矢野特殊自動車
Yano Special Purpose Vehicle Co., Ltd.
(一社)日本自動車車体工業会
Japan Auto-Body Industries Association Inc.



■部品　Parts

E1001	(株)アール・ダブリュー・シー	R.W.C. Co., Ltd.
E1002	NOK(株)	NOK Corp.
E1003	(株)ケーヒン	Keihin Corp.
E1004	(株)豊田自動織機	Toyota Industries Corp.
E1005	オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)	Omron Automotive Electronics Co., Ltd.
E2006	日立金属(株)	Hitachi Metals, Ltd.
E2007	矢崎総業(株)	Yazaki Corp.
E2008	日本特殊陶業(株)	NGK Spark Plug Co., Ltd.
E2009	(株)ユーシン	U-Shin Ltd.
E2010	デルタ工業(株)	Delta Kogyo Co., Ltd.
E2101	(株)小糸製作所	Koito Mfg. Co., Ltd.
E2102	(株)東海理化	Tokai Rika Co., Ltd.
E2103	スタンレー電気(株)	Stanley Electric Co., Ltd.
E2104	(株)カーメイト	Car Mate Mfg. Co., Ltd.
E2106	(株)データシステム	Datasystem Co., Ltd.
E2107	テイ・エステック(株)	TS Tech Co., Ltd.
E2108	(株)ミツバ	Mistuba Corp.
E2109	東海ゴム工業(株)	Tokai Rubber Industries, Ltd.
E2110	住友電気工業(株)	Sumitomo Electric Industries, Ltd.
E2201	(株)デンソー アスモ(株) アンデン(株) 浜名湖電装(株) 京三電機(株)	DENSO CORPORATION Asmo Co., Ltd. Anden Co., Ltd. Hamanakodenso Co., Ltd. Kyosan Denki Co., Ltd.
E2202	日立オートモティブシステムズ(株) (株)日立製作所 日立ビークルエナジー(株) クラリオン(株) トキコテクノ(株)	Hitachi Automotive Systems, Ltd. Hitachi, Ltd. Hitachi Vehicle Energy, Ltd. Clarion Co., Ltd. Tokico Technology Ltd.
E3011	(株)タチエス	Tachi-S Co., Ltd.
E3012	豊田合成(株)	Toyoda Gosei Co., Ltd.
E3105	トヨタ紡織(株)	Toyota Boshoku Corp.
E3203	三菱電機(株)	Mitsubishi Electric Corp.

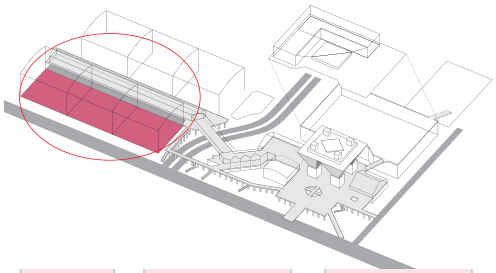




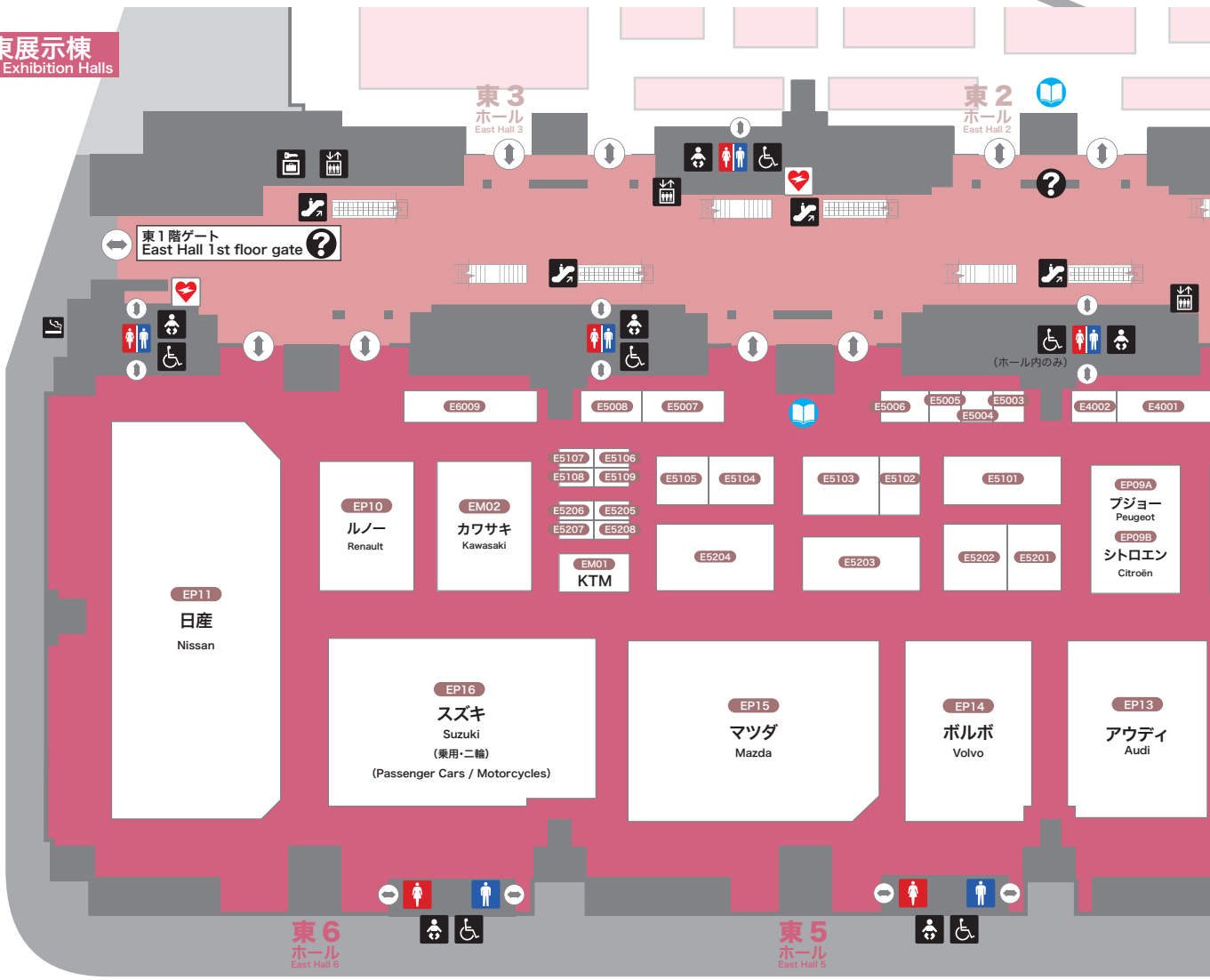
The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

東展示棟1階 東4~6ホール

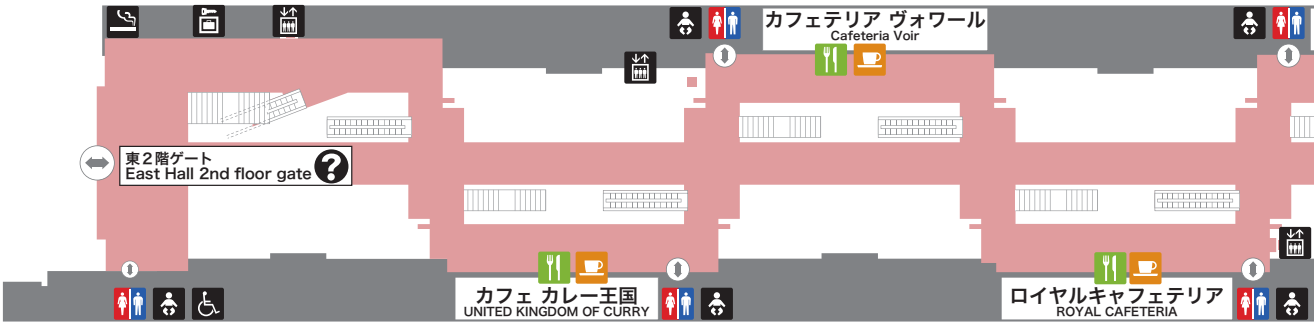
EAST4-6 HALLS MAP（1F）



東展示棟 East Exhibition Halls



東展示棟 2F East Exhibition Halls

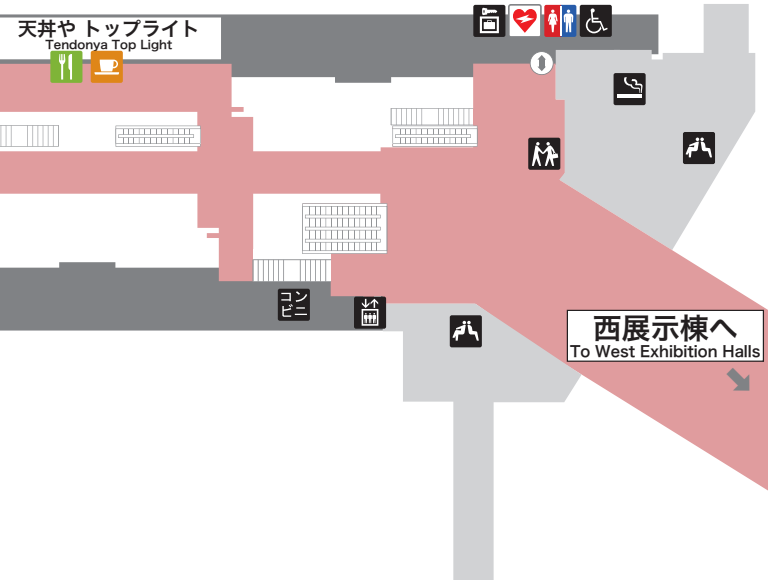


- インフォメーション　Information
- 待ち合わせコーナー　Meeting Point
- エレベーター　Elevator
- エスカレーター　Escalator
- 化粧室　Restroom
- 身障者用施設　Accessible Facility
- 乳幼児用施設　Nursery
- 授乳室　Nursery Room
- コインロッカー　Coin Lockers
- 救護室　First Aid
- AED 自動体外式除細動機　AED/Automated External Defibrillator
- 喫煙場所　Smoking Area
- レストラン・カフェ・休憩ゾーン　Restaurant & Cafe, Rest Zone
- コンビニエンスストア　Convenience Store
- オフィシャルグッズショップ　Official Goods Shop
- 自動車ガイドブック販売所　Guide Book Stand

■部品／機械器具　Parts, Machinery and Tools

E4001	ジヤトコ(株)	Jatco Ltd.
E4002	日信工業(株)	Nissin Kogyo Co., Ltd.
E5003	スナップオン・ツールズ(株)	Snap-on Tools Japan K.K.
E5004	Öhlins Racing AB Militec Corp.	
E5005	(株)ヨロズ	Yorozu Corp.
E5006	(株)エクセディ	Exedy Corp.
E5007	曙ブレーキ工業(株)	Akebono Brake Industry Co., Ltd.
E5008	(株)アステア 大野ゴム工業(株) 3D Auto Protech(株) 西岡可鍛工業(株) 藤壺技研工業(株) 丸子警報器(株) やまと興業(株) (一社)日本自動車部品工業会	Asteer Co., Ltd. Ohno Rubber Industrial Co., Ltd. 3D Auto Protech Co., Ltd. Nishioka Malleable Iron Ind. co., Ltd. Fujitsubo Giken Kogyo Co., Ltd. Maruko Keihoki Co., Ltd. Yamato Industrial Co., Ltd. Japan Auto Parts Industries Association
E5101	NTN(株)	NTN Corp.
E5102	日本発条(株)	NHK Spring Co., Ltd.
E5103	住友ゴム工業(株)	Sumitomo Rubber Industries, Ltd.
E5104	日本グッドイヤー(株)	Goodyear Japan Ltd.
E5105	横浜ゴム(株)	The Yokohama Rubber Co., Ltd.
E5106	(株)松井製作所	Matsui Universal Joint Corp.
E5107	富士機工(株)	Fuji Kiko Co., Ltd.
E5108	協和工業(株)	Kyowa Kogyo Co., Ltd.
E5109	Hirschvogel Holding GmbH	
E5201	日本精工(株)	NSK Ltd.
E5202	(株)ジェイテクト	JTEKT Corp.
E5203	アイシン精機(株) アイシン高丘(株) アイシン化工(株) アイシン・エィ・ダブリュ(株) アイシン・エーアイ(株) (株)アドヴィックス	Aisin Seiki Co., Ltd. Aisin Takaoka Co., Ltd. Aisin Chemical Co., Ltd. Aisin AW Co., Ltd. Aisin AI Co., Ltd. Advics Co., Ltd.
E5204	(株)ブリヂストン	Bridgestone Corp.
E5205	(株)ワイピーシステム	YP System Co., Ltd.
E5206	(株)レイズ	Rays Co., Ltd.
E5207	水戸工機(株)	Mito Tool Mfg. Co., Inc.
E5208	京都機械工具(株)	Kyoto Tool Co., Ltd.
E6009	Schaeffler AG	







KeyWord Going the Extra Mile　その一歩先へ

先進の効率追求は省燃費性能に留まらない

環境性能、燃費性能の追求で世界をリードしてきたUDトラックス。“その一歩先へ”を目指す効率追求の新たな姿が見えてくる。

Topic 1 ARやCGを通して3D展示が楽しめる。





省燃費性能、稼働率の向上、コスト効率にフォーカスした展示内容をわかりやすく、楽しめる内容に工夫されたブース展開が興味深い。環境性能でリードしてきたQuon（クオン）の展示はもちろん、コンポーネント展示では会場に用意されたiPadを使用し、ARやCGを介して低燃費エンジンのメカニズムを紹介。3D仮想ツアーでGH11エンジンの内部を体験できる※。トランスミッションESCOT-V（エスコット-ファイブ）のカット展示も一見の価値があるだろう。またドライバーが使用する“燃費王”（省燃費運転支援システム）を体感できるクオンと、省燃費運転を複数で競うクエスターのゲームが用意され、遊びながら省燃費運転を学ぶことができるのも見逃せない。

※3D仮想ツアーはチケット制など人数制限を行う場合があります。

Topic 2 世界初公開。一歩先のトラックの姿がそこにある



クオンCD。6×2の25トンカーゴトラックをベースに開発された実験車両が、Quon Fuel Demonstrator（クオン・フューエル・デモンストレーター）だ。従来の11リッターエンジンを8リッターにダウンサイジング。主に高速クルージング時の燃費効率を大幅に向上する。専用開発されたエアロダイナミクスパーツの追加は、後輪までフルカバーするサイドスカートデザインが印象的。フロントアンダーも含めて低い位置までフォローしアンダーエアロの向上に大きく貢献。空気抵抗が徹底軽減されている。

さらにADAS（Advanced Driver Assistance Systems）エコ運転支援装置も最新のタイプが導入された。GPSや地図データを活用することで走行ルート上、前方の坂道やカーブを認識し、より積極的に省燃費運転を支援する革新的システムが装備されたのだ。これによってより早いタイミングから燃料カットを働かせ、より長い時間にわたって燃料無噴射の惰力走行を実践でき燃料の使用が徹底的に節約される。

現在は実用実験段階だが、高速道路主体の走りでは、従来モデル比較で約10%以上の燃費率向上を目標としている。今後近い将来、製品への技術転化が期待される。

Topic 4

「ボルボ・トラックなら安心」それを支えるのは先進の安全技術。

1927年スウェーデンで創業されたボルボ・トラックは業界でも一目置かれる存在。そこには企業理念として「品質」、「安全性」、「環境への配慮」を貫き通してきた、常に変わらぬ企業姿勢がある。安全性の追求はもちろん、ホスピタリティ性に富むキャブデザイン等、運転を仕事とするドライバーに対して徹底されてきた“優しい配慮”の数々には高い定評がある。世界的に人気の「グローブトロッター」キャブも一見の価値があるだろう。世界最高水準の安全性と快適性を備えたキャブデザインは見る者を魅了すること間違いない。

展示はFH４×２トラクターを始め、ロールオーバーシミュレーターとセーフティステーションの他、ハイブリッドシステムの技術展示も。UDトラックスやボルボ・トラック以外のトラックグランドを示すボルボグループの展示も見応えがある。

ロールオーバーでは、実物と同じ運転席に着座して転倒の疑似体験ができる。またトランスポーターゲームなども興味深い。タッチパネル式モニターを活用した歴史展示など、ブース展開は楽しめる内容で盛り沢山だ。





Topic 3

話題の新星 Quester（クエスター）日本初披露



UDトラックス初のアジア市場を中心とする新興国向けモデル。今世界が注目する最新の国外生産モデルだ。７種類ものワイドバリエーションに適応する共通プラットフォームを新開発。４×２から８×４まで様々なニーズに対応する。長距離輸送を始め建設現場や鉱山開発など用途は様々。もちろんトラクターヘッドも。

空気力学的に優れる流麗なキャブデザインを始め、省燃費運転支援システムなど最新の技術とノウハウが注ぎ込まれている。経済的な輸送を可能にし、耐久性に優れているのも特徴だ。UDトラックスの製造品質保証と優れたデザインそしてボルボ・グループの実績ある高度な技術のシナジーが生み出した新世代トラックだ。

アフターマーケットステーション

ユーザーのビジネスを支えるサービスの数々を披露。日々の物流を担うトラックを常に最良のコンディションに保ち、高効率輸送を維持していただくために、純正部品の供給や整備に関するサポート及びサービスネットワークを紹介。UDインフォメーションサービスを中心にアフターマーケットソリューションをわかりやすく展示。

KeyWord 「Automotive System Innovation & Synergic Solution」

未来を駆ける次世代モビリティテクノロジー

「環境」「安全」「情報」分野のシステムイノベーションとシナジーソリューションで、グローバルにクルマの進化を支える企業

Topic 1 日立グループにおいてオートモティブシステム事業を推進

日立グループで自動車機器事業を管掌している日立オートモティブシステムズ(株)は、前身である(株)日立製作所の時代から、自動車部品サプライヤーとして80年以上の歴史を有している企業であり、クルマのエレクトロニクス化が進展する中で、そのメカトロニクスの技術力と共に注目を集めている。

同社の事業のコンセプトは「環境」、「安全」、「情報」分野の高度な技術力を結集し、「人・クルマ・社会」に関わる新たな価値を創造しながら、豊かな社会の実現に貢献することを事業コンセプトとしており、「世界から最も信頼されるグローバル企業グループ」をめざしている。

Topic 2 3つの分野で次世代モビリティテクノロジーを牽引

同社は、今後、サステナブルな社会が実現されるためには、新たなモビリティテクノロジーが必要だと考えている。例えば、「環境」分野では、先端電子・電動化技術の高度化により、高効率な内燃機関の実現や、電動車の電費改善。「安全」分野では、従来の衝突安全への要求から、予防安全へのニーズの変化による、ぶつからないクルマの普及。さらに、「情報」分野では、ＩＴによるクルマと社会の融合により、快適、利便性の向上と、クルマの高付加価値化というものだ。

このようなクルマのエレクトロニクス化を進展させる、電子制御、電動化技術といった次世代のモビリティテクノロジーが連携、統合され、クルマのインテリジェント化や、自動走行が実現されると考えているのだ。

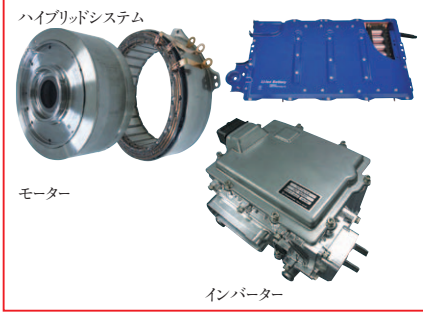
そのような自動車業界の技術動向に対し、日立グループを挙げて対応していくための、事業ポートフォリオに同社は注力している。

「環境」分野の事業では、高効率な内燃機関を実現する、筒内噴射エンジンシステムや、可変動弁システムなどの「エンジンマネジメントシステム事業」に力を入れる一方、電動車両の駆動システムとしては、より電費を改善するモーター、インバーター、リチウムイオン・バッテリーなど「エレクトリックパワートレインシステム事業」に取り組んでいる。

「安全」分野の事業では、走行を安定させるサスペンション、ブレーキなどの電制アクチュエーションや、予防安全に欠かせない車外環境の認識センサーである、ステレオカメラを世界に先駆け市場に広めるなど、「走行制御システム事業」を強化している。

「情報」分野の事業では、車内環境の快適、利便性をより一層高めるために、クルマと生活に必要な情報をITで繋げる車載情報機器、データをサービスするクラウド情報ネットワークサービスなどの「車載情報システム事業」を、グループ会社であるクラリオン（株）を中心に展開している。

日立オートモティブシステムズがグループで取り組む製品の一例

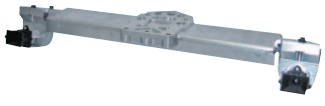


Li-Ion電池
（日立ビークルエナジー）

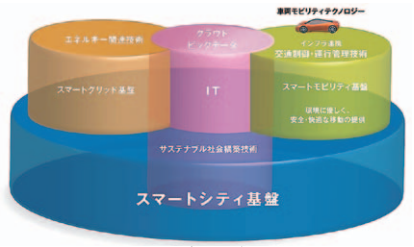

エンジンマネジメントシステム


電動型制御ブレーキ


カーナビゲーション（クラリオン）


ステレオカメラ

Topic 3 システムイノベーションとシナジーソリューションで貢献



日立グループのコア事業領域

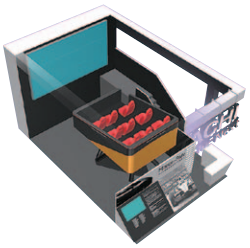
これら3分野の事業において、個々の製品力の強化を図ると同時に、それぞれのキーコンポーネントを、電子・電動制御化し、更にシステムとして最適に連携、統合させるイノベーションにより、エネルギーマネジメントの高効率化や、安全制御、快適・利便性や楽しさの大幅向上を図り、クルマの価値向上を図っていけるところが、同社の優位性につながっている。

同社の次世代モビリティテクノロジーは、日立グループの、スマートシティ基盤のコア技術であるIT、またスマートモビリティ基盤のインフラ・先端技術、スマートグリッド基盤のエネルギー関連技術といった、キーテクノロジーと融合させることで更にその価値が高められるという。

日立グループは、これらのキーテクノロジーとノウハウを繋ぎ合わせたシナジーソリューション提案を通じて、人・クルマ・社会が最適に繋がるスマートシティに融合する次世代車両づくりへの貢献をめざしており、コングロマリットプレミアムとしての価値提供に期待したい。

Topic 4 「体感」「実感」の展示ブース


モビリティテクノロジー車両


モーションライドシアター



HITACHI TEAM PENSKE

今回、展示される「モビリティテクノロジー車両」は、同社が手がける3分野の事業の幅広い製品、システムを搭載しており、個々のシステムについては、前面の大型透過パネルに投射されるバーチャルな演出映像によって、わかりやすく紹介されている。

また、前回ショーでも人気の高いアトラクションとなった「モーションライドシアター」が、今回は倍以上の9名が搭乗できるドライビングシミュレーターと共にブースに設置されたのは、体感できる来場者にとって嬉しいかぎり。より大型となった前方180インチスクリーンの映像に同期した疑似ドライブ体験によって、同社の走行制御システムの機能をより深く理解できそうだ。また、コンテンツの中には、同社がスポンサーをしているインディレーシングカー、HITACHI TEAM PENSKE（ヒタチ チーム ペンスキー）の実際のレース映像も含まれており、さらにエキサイティングなアトラクションとなっている。

「シナジーソリューション展示」では、社会イノベーション事業で貢献を図る、日立グループの幅広い業容の中で、「スマートモビリティ基盤」の一翼を担う、車両向け「モビリティテクノロジー」として、日立オートモティブシステムズ(株)とグループ会社である、クラリオン(株)、日立ビークルエナジー（株）のシステムイノベーションと、シナジーソリューションを中心に展示されている。クラリオンのセンシング技術に、日立オートモティブシステムズの車両制御技術を融合した注目の技術「自動駐車システム」もここで紹介されている。

また、インフラ連携としてスマートモビリティに貢献するグループ会社、トキコテクノ(株)が手掛ける、クリーンエネルギーステーションの、電気、水素、圧縮天然ガスなどのディスペンサー技術も紹介されている。

さらに、クラウドやビッグデータ利活用技術を有する日立製作所の情報・通信システム事業におけるクルマ向けITサービス・ソリューションも解説されている。

これは、日立が、電子地図データの加工・配信サービス、プローブ情報データ処理などで培ってきた技術と、クルマから取得できる情報やソーシャル・ネットワーキング・サービスにて収集したロケーション情報を組み合わせて、快適・利便な移動を実現するための新たな「クルマ向けスマートモビリティサービス」であり、このような未来のクルマの価値を高めていくシナジーソリューションを、日立グループブース（東2ホールE2202）で実感しよう。

Topic 5 実車でEV制御技術を体感

東京モーターショーと併催される「お台場モータフェス」の、11月30日と12月1日の両日に、お台場のメガウェブで開催される「モビリティジャム」において、同社の電気自動車システムを試験的に搭載した車両の展示およびデモ走行が行われる。

市販車を改造し、同社のコンポーネントを搭載した試験的EVだが、電動ならではの機敏さと滑らかさに加え、操りやすさを向上するため、最新の制御技術が投入されており、実車体験できるイベントとして注目したい。



市販車改造の試験的EV

KeyWord 豊かなクルマ社会の実現をめざして

お客様ニーズに応えた「もっといいクルマ」づくり

トヨタのミニバン・商用車・SUVの企画から開発・生産を担うトヨタ車体

トヨタのミニバン・商用車・ＳＵＶの企画から開発・生産を担うトヨタ車体のブースでは、「ＶＯＸＹ ＣＯＮＣＥＰＴ」「ＮＯＡＨ ＣＯＮＣＥＰＴ」をベースにした車いす仕様車の参考出品車をはじめ、上質な車室内空間とスタイリッシュな外観を融合したハイエースのカスタマイズ車を出展する。

さらに、昨年フルモデルチェンジした１人乗りの超小型ＥＶ「コムス」と、国土交通省の超小型モビリティ認定制度に対応した２人乗り「コムス」の参考出品車も出展。合計６台を出展する。

いいクルマづくりを通じて豊かなクルマ社会の実現をめざすトヨタ車体。ぜひ、ブースで体験してほしい。



超小型EV「コムス」T-COM（2人乗り）


◀VOXY CONCEPT 車いす仕様車

▶ハイエース カスタマイズ車


Continental コンティネンタル

西1ホール

KeyWord A Day in a Driver's Life

次世代の自動車の姿を提案する

あるドライバーの一日、という設定で見せる先進技術の数々

ドイツの自動車部品大手サプライヤーであるコンティネンタル。乗用車・モーターサイクルタイヤなど幅広い製品ポートフォリオを持つ「タイヤ部門」に加え、ESC（横滑り防止装置）やドライバー支援システムなどの「シャシー＆セーフティー」、ガソリン／ディーゼルの燃料噴射システムやハイブリッドシステムなどの「パワートレイン」、メーターや多機能ディスプレイ、マルチメディアなどを手がける「インテリア」の3部門がオートモーティブグループとして、自動車を多方面から支えている。

そのコンティネンタルの今回のキーワードは“A Day in a Driver’s Life”。「ドライバーの、ある一日の生活」をテーマとして、ドライバーが車で家を出かけるところから用事を済ませて帰宅するまでのさまざまなシチュエーションにおいて、コンティネンタルの先進技術がいかにアシストしているかを紹介する。たとえば「48Vエコドライブ」は、48Vの小型リチウムイオン電池とスターター・ジェネレーターを用いるシステム。モーター始動と発進、スタートストップ、回生など、多くの走行シーンにおいて、低コストで多くのメリットを得ることができる。もちろん自動運転システムも展示。コンティネンタルがESCで培ってきた「確実に車を止める」技術の次なるステージを、最新デバイスとともに展示する。




ESC／ABS、燃料噴射システム、情報システムなど、クルマの高度化に大きく寄与するコンティネンタル。今回のスペシャルトピックが自動運転システム。

電子マネーは クイックペイ QUICPay™!

クイックペイ4つの特長

- チャージ(入金)がいらない!
- 小額利用でもポイントやマイルの対象に!
- クレジットカードと同様に補償の対象!
- ご利用実績の管理も簡単!



キューペイ

▼こんなところでご利用できます▼



コンビニ　スーパー　ドラッグストア　ガソリンスタンド　タクシー

ピッという間にお買い物。 QUICPay

■QUICPayとは?

お店のQUICPay端末にカードや携帯電話をかざすだけでお支払いができる、サインや事前のチャージ(入金)がいらない「簡単・スピーディー・おトク」なポストペイ(後払い)型のサービスです。クイックペイのご利用代金は、お持ちのクレジットカードのご利用代金とあわせてお支払いとなるので、クレジットカードのポイントもたまります!

おトクなキャンペーン情報

9日はQUICPayの日! キャンペーン

毎月9日にクイックペイを利用すると、抽選で、のべ100名につき1名様の割合でキャッシュバック!

■対象日:4月9日(火)～2014年3月9日(日)までの毎月9日

当選発表 当選分のキャッシュバックは、「カードご利用代金明細」でご案内します。

※ご利用1件ごとに抽選し、当選分のご利用金額をキャッシュバックします。
※クイックペイ1回あたりのご利用上限金額は2万円です。

▶ **その他キャンペーンも実施中** 詳しくはhttp://www.quicpay.jp/をご覧ください。

Speedpass+ とは



ガソリンスタンドはもちろん、コンビニ、レストランなど、さまざまな場所でのお支払いがこれひとつで可能です。端末にかざすだけであっという間にお支払い完了。QUICPayが使えるお店で利用できます。



クイックペイ　検索

http://www.quicpay.jp/

お申し込みはこちら

※一部ご利用になれない機種があります。

スマートフォンの方　スマートフォン以外の方

クイックペイは、第43回東京モーターショー2013にも出展しています

SMART MOBILITY CITY 2013

Supported by DUNLOP

KURUMA NETWORKING くらしに、社会に、つながるクルマたち



クルマと社会の明日を体験するもうひとつのモーターショー

安全・安心、便利で楽しい移動手段として、また確かで効率的な輸送手段として、人々のくらしを、産業を、社会を支えてきたクルマ。このクルマの役割と価値は、これからも変わることはないでしょう。しかし、地球環境及び資源に対する国際的な関心の高まりや情報通信環境の高度化、ライフスタイルの変化など、社会では様々なそして大きな変革が起きています。この時代の潮流の中、これからのクルマは、クルマ単体で存在するのではなく、環境・エネルギー技術や情報通信技術などによって、住宅をはじめとする私たちのくらしや社会と“つながり”、新しい役割と価値を持つと考えます。そしてクルマは、私たちにとってもっと大切な友達として、そして社会の重要な一員となっていくことに違いありません。走る、曲がる、止まる…そして“つながる”クルマへ。クルマの未来が、そして暮らしや社会の夢がここにあります。

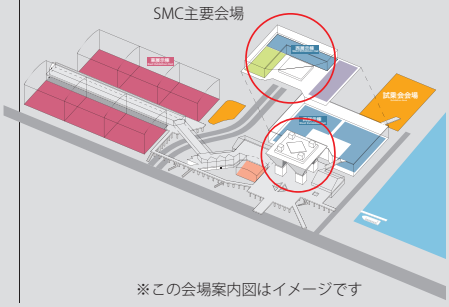
エキシビション

次世代自動車が暮らしを、街を、社会を変える。国内外の多彩な企業が先進技術を、製品を携え、一堂に集う。

自動車メーカーはもとより、情報通信や電子機器、住宅、素材などの異業種、研究機関などが、それぞれの視点や技術、システムから“クルマと暮らしの明日”を提案します。展示ゾーンは、「先進技術・製品展示ゾーン」と「コア展示ゾーン」で構成され、先進技術・製品展示ゾーンでは、情報通信、環境・エネルギー関連の企業・団体・行政などの出展による最先端の製品/技術/システム/サービスのプレゼンテーションが行われます。コア展示ゾーンでは、主催者による「次世代自動車とそれを取り巻く先進の社会システム」を疑似体験する体感型展示となっており、“つながる”クルマがもたらす暮らしや社会への夢を体験できます。

SMC TOURS（主催者展示）

コア展示では、クルマ型のミニシアターに乗ってSMART MOBILITY CITYの6つのシーンを探訪。クルマの明日をバーチャル体験しましょう。



※この会場案内図はイメージです

①つながると安全
○歩車間通信、車車間通信、路車間通信、安全運転支援システム(DSSS)○夜間検出、ASV

②つながると快適
○ACCやCACC、隊列走行、協調走行

③つながると楽しい
○ITSスポット○最新のナビゲーションシステム○テレマティクス

④つながると安心
○防災システム/災害支援システムなど○プローブ情報システム

⑤つながるとスマート
○スマートハウス/スマート家電/HEMSとつながるクルマ○デマンドレスポンス/外出先から機器の操作○停電時におけるセルフエネルギーマネジメント○様々な次世代自動車、EV用充電ターミナル、水素ステーションなど○地域のエネルギーコントロールセンター（地域EMS）など○メガソーラーシステム/洋上風力発電システムなど

⑥つながると自由
○夢の乗り物、楽しいモビリティなど

詳しくはＳＭＣ専用Ｗｅｂサイトをご参照下さい。http://smc.tokyo-motorshow.com/

テストライド
スマート・ドライビングを体験しよう!

西4ホールのコア展示やトラックヤードでは、今話題のパーソナルモビリティや超小型モビリティ、電動二輪車の体験走行が行われます。屋上展示場では自動運転のデモンストレーションのほか、高度運転支援システムやEV・PHVの体験会が予定されるなど、最新のモビリティを体感できるまたとないチャンスです。

参加メーカー

スズキ、スバル、ダイハツ、トヨタ、トヨタ車体、日産、フォルクスワーゲン、ホンダ、マツダ、三菱、メルセデス・ベンツ、ジード、グロースンドリーム、Terra Motors、常盤産業、プロッツァ

協力大学・企業

金沢大学、東京農工大学、ゼットエムピー

パーソナルモビリティ体験走行

新しい移動手段として生まれた一人乗りのビークル。ますます便利さと楽しさを拡大します。

開催期間:11月22日(金)～12月1日(日)
場所:コア展示(西4ホール内)



ホンダ
UNI-CUB



トヨタ
Winglet

超小型モビリティ体験走行

コンパクトで地域の手軽な移動の足となる、1～2人乗りの新しいビークルです。

開催期間:11月22日(金)～12月1日(日)
場所:コア展示(西4ホール内)
＋トラックヤード(屋外)



日産
New Mobility CONCEPT

電動二輪車試乗会

電気モーターを動力源とする二輪車のエコで快適な乗り心地を体験して下さい。

開催期間:11月22日(金)～12月1日(日)
場所:トラックヤード(屋外)

充電インフラ、EV・PHV体験会

電気自動車、プラグインハイブリッドの試乗会、ならびに、急速充電の体験もできます。

開催期間:11月27日(水)～12月1日(日)
場所:屋上展示場(屋外)
主催:一般社団法人 次世代自動車振興センター



フォルクス・ワーゲン **e-up!**

高度運転支援システム試乗会

衝突回避ブレーキなど、安全&安心を支援する機能はここまで進化しています。

開催期間:11月22日(金)～12月1日(日)
場所:屋上展示場(屋外)



スバル
レガシィ ツーリングワゴン



ダイハツ **タントカスタム**



メルセデス・ベンツ **E 250 アバンギャルド**



スズキ **ワゴンR**



三菱 **アウトランダーPHEV**

自動運転デモンストレーション

ICTや新しい道路インフラを利用することで、自動運転の技術は大きく進んでいます。

開催期間:11月25日(月)、26日(火)
場所:屋上展示場(屋外)

カンファレンス
クルマが“つながる”と未来はどう変わるの?

自動運転をはじめとした先端技術の開発動向や、明日の社会とその移動の可能性について、国内外の自動車メーカー、IT企業、および第一線の知識人による国際シンポジウムを開催するほか、出展者による先進技術セミナー、次代を担う子供たち向けのワークショップも実施します。

国際シンポジウム

「安全・安心へ、つながるクルマ ～高度運転支援システムの可能性～」

11月25日(月)　10:30－16:50
会議棟6階 605-608会議室
高度運転支援システム(ADAS : Advanced Driver Assistance Systems)は、クルマをより安全、快適にするために人、道路、都市機能などにつながり、一部は基本搭載機能になりつつあります。この新たなる人とクルマとの関係を様々な視点から議論し、その将来的可能性を探ります。

「未来社会と未来の移動」

11月28日(木)　11:00～16:45
会議棟7階 国際会議場
クルマが社会、まち、人と“つながる”と、私たちの暮らしは一体どうなっていくのか?「未来社会と未来の移動」について、技術的視点はもとより社会的視点・文化的視点など多様な視点から議論し、その具体的方向性を探ります。(特別協力　トヨタ自動車)

「次世代モビリティがもたらす未来の暮らし」

11月24日(日)　会議棟6階 605-608会議室
午前の部　「超小型モビリティデザインコンテスト表彰式」
10:30～12:00
(共催　電気自動車普及協議会、読売新聞社)
午後の部　シンポジウム「次世代モビリティがもたらす未来の暮らし」
13:00～16:00
(共催　国土交通省、読売新聞社)

アドバンス・テクノロジー・セミナー

「燃料電池セミナーin東京」

11月28日(木)　13:30～16:40
会議棟6階　605・606会議室
燃料電池自動車の市場投入に向けた自動車メーカー各社の研究開発状況や、水素ステーションの整備に向けた取り組みを紹介します。
実施団体　経済産業省資源エネルギー庁

キッズ・ワークショップ
楽しみながらクルマの魅力を学ぼうよ!

次世代を担う子供たちに向けて、楽しみながらクルマについて学び、クルマを好きになってもらえるワークショップを実施します。地球環境の大切さ、モノづくりへの関心、これからのクルマ社会への理解など、遊びながら学べる体験型のプログラムが用意されています。

日産 わくわくエコスクール



開催日時:11月23日(土)①10:30～11:30 ②13:00～14:00　③14:30～15:30　④16:00～17:00 ／ 11月24日(日)①10:30～11:30 ②13:00～14:00　③14:30～15:30
開催場所:東京ビッグサイト　会議棟1階102会議室
参加条件:各回30名。小学校4年生～6年生対象、児童のみで参加できます。(保護者の見学は1名様まで)
参加申込方法:事前予約制(e-tix)
(規定人数に達しない場合、当日受付も可)

エコモ カーデザインパーク「“クレイ”でカーデザイン体験」



開催日時:11月23日(土)　14:00～16:00
11月24日(日)　14:00～16:00
11月30日(土)　14:00～16:00
12月 1日(日)　14:00～16:00
開催場所:東京ビッグサイト 西展示棟西4ホール SMC2013内キッズエリア
参加条件:各回15名。 高校生以下対象、小学生以下は親子参加が条件
参加申込方法:会場にて先着順受付、規定人数に達し次第締め切ります。

パナソニックキッズスクール ハイブリッドカー工作教室



開催日時:11月23日(土)①10:20～12:40 ②13:50～16:10 ／ 11月24日(日)①10:20～12:40　②13:50～16:10
・ハイブリッドカー工作教室(約80分)
・SMC2013見学会(30分)
開催場所:パナソニックセンター東京1F ホール／ SMART MOBILITY CITY 2013 会場内
参加条件:各回親子30組60名。小学校4年生～6年生対象(親子2名一組)
※親のみ、お子さまのみの参加、人数追加はいずれも不可
参加申込方法:事前予約制(e-tix)

マブチモーターで動く“木のクルマ”を作ろう!



開催日時:
11月24日(日)①10:30～　②11:30～
11月30日(土)①10:30～　②11:30～
12月 1日(日)①10:30～
開催場所:東京ビッグサイト　西展示棟1階アトリウムステージ
参加条件:各回40名。小学生以下のお子様とその保護者の方
参加申込方法:開催日の午前10時より開催場所にて参加券(各回40枚)を配布します。

〔事前予約について〕東京モーターショーオフィシャルWebサイトの「オンラインチケットサービス(e-tix)」にて販売。但し定員になり次第販売を終了します。参加費:参加無料＋東京モーターショー前売り入場1,300円(中学生以下無料)

KeyWord もっとスマートに、もっと自由に。

住まいと家電とクルマがつながる、新しいくらし。

積水ハウス、東芝、Hondaの3社が業界の枠を超えてコラボレーションし、新しいスマートライフを提案。

Topic 1 エネルギーを使うくらしからエネルギーを創るくらしに。

我慢しながらエコをするのではなく、快適に自由にくらしながらエコをする。このようなくらしをかなえる、エネルギーを効率よく使う家やクルマをはじめ、ガスを活用するコージェネレーションシステムや、家庭用水素ステーションなどで、「家でエネルギーを創る」くらしを提案。また、電気をコミュニティ単位で管理するスマートグリッドに、クルマをエネルギー源として使う取り組みも紹介している。



Topic 2 スマートコミュニティ内近距離移動を想定した超コンパクトEV《MC-β》も世界初登場。

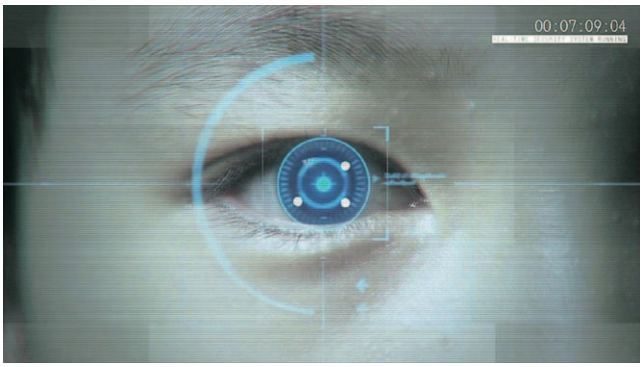
超小型サイズでありながら、後席の座席位置を運転席とずらしたオフセットシートレイアウトを採用することで、大人２人が快適に座れる空間とユーティリティースペースを確保。環境や交通事情に配慮した超コンパクトパッケージの電気自動車だ。



Topic 3

センシング技術で見守る安全・安心なくらし。

エネルギーとともにスマートライフを支える情報・通信技術によって進化しているセンシング技術。超小型化した生体センサーを搭載したウェアラブルデバイスによる健康管理をはじめ、空調センサーによって温度管理された快適な空間づくり、顔認証によるセキュリティなど、センシングで見守ることによって安全・安心なくらしを実現するスマートへの取り組みを紹介。また、３社の考える202X 年のそう遠くない未来のくらしをご提案するシアターでは、「家」が情報を集中管理し、快適なくらしをサポートする「ホームAI」も登場する。シアター後のブースガイドツアーでは、ウェアラブルデバイスを実際に装着してのデモも実施している。



Topic 4

人・クルマ・家、そしてエネルギーがつながる未来のくらし。

積水ハウス、東芝、Honda の３社が考える、スマートで快適・便利なくらしを、キッチン、ベッドルーム、リビング、ガレージと、くらしのシーンに合わせて提案する。冷蔵庫の中を画像で確認できるスマート冷蔵庫や、排気ガスを出さないＥＶや燃料電池電気自動車だからこそ実現できる、趣味の空間としても使えるインナーガレージ。さらに室内でも使えるパーソナルモビリティを最大限に使える空間など、業種を超えた３社ならではの取り組みと、新しいくらしを提案している。



KeyWord 「あなたと、つぎの景色へ」。一人ひとりを支え続ける——

大切な環境と資源を次世代に引き継ぐために

タイヤ業界のリーディングカンパニーとして、ブリヂストンが取り組んでいかなければならないテーマに向き合いました。

Topic 1

CO_2削減のために、ブリヂストンが“いま”貢献できること——

CO_2を減らす



ECOPIA



ECOPIA with ologic



ブリヂストンの強みは、確かな技術に支えられた豊富な製品の数々だろう。そしてブリヂストンがいまもっとも力を入れているのが、環境技術への取り組みだ。

なかでも「ECOPIA」は、高性能な低燃費タイヤとして広く知られる製品である。タイヤに求められる安全性能や操縦性能をスポイルしないで、転がり抵抗を低減させ、燃費性能アップを実現している。現在では乗用車のみならず、トラックやバスといった幅広いラインアップをそろえ、社会全体のCO_2排出量削減に貢献している。

今回の展示では、市販のECOPIAに加えて、「ECOPIA with ologic」も登場。こちらは、これまでのタイヤとは全く異なる狭幅・大径サイズのタイヤだ。タイヤの大径化によってタイヤが路面と接地する部分の変形を抑制するのに加え、タイヤの狭幅化を通して空気抵抗を低減し、転がり抵抗を大幅に低減させている。さらに、新開発の専用パタン技術やコンパウンドの採用で、ウェットグリップ性能の向上も実現させている。ECOPIAコーナーにて、国際的なソーラーカーレース「Bridgestone World Solar Challenge 2013」の出走車両に装着した「ECOPIA with ologic」が展示される。



Topic 3



タイヤ談義を楽しもう! タイヤカフェ、あります。

テレビCMでもお馴染みの「TAIYA CAFE」がブリヂストンブース内に登場する。タイヤをこよなく愛する店長の熱いこだわりが魅力なカフェだ。残念ながら店長は不在とのことだが、店長に負けない熱いブリヂストン社員との楽しいタイヤ談義や、コンパニオンとの写真撮影などが楽しめる。ぜひ立ち寄ろう。

Topic 4



Topic 2 限りある資源を大事に使いたい。ブリヂストンの描く次世代タイヤは形や原材料に独創性あり

資源を大切に使う

将来、地球上の資源について世界中でますます議論が高まりそうである。そんな中、ブリヂストンでは、この問題にいち早く取り組んでいる。

そのひとつが、「非空気入りタイヤ(エアフリーコンセプト)」だ。タイヤ側面に張り巡らせた特殊形状スポークで荷重を支え、空気を充填する必要がないデザインになっている。また、原材料にリサイクル可能な樹脂を使うことで、限りある資源を有効に使えるよう提案する。さらに、独自技術により優れた低燃費性能を追求し、CO_2排出量削減にも貢献する技術だ。今回はこのタイヤを装着した超小型EV「コムス」を展示する。

また、2050年を見据えた目標「100%サステナブルマテリアル化」の達成に向け、「100%サステナブルマテリアルコンセプトタイヤ」を準備している。「サステナブル」＝「持続可能」という意味だが、タイヤの原材料を再生可能資源に換えることで、タイヤの新しい将来像を提案する。





エアフリーコンセプト



100%サステナブルマテリアルコンセプトタイヤ



3D映像に加え、風や振動でさらにリアルに体感できる4Dシアターコーナー

ブリヂストンの代表的なタイヤの特長を体験できるのがこのコーナー。ヘッドマウントディスプレイを装着し、迫力の3D映像だけでなく、風や振動を使ってさらにリアルな感覚が体感できるしくみになっている。ECOPIA、RFT、POTENZA、BLIZZAKといった製品の性能を、実際に路上を走るクルマに乗っているような感覚で体験できるブースなのだ。

ステージでは、ブリヂストンのこだわりが伝わる楽しいイベントが用意される。なかでも、力が入っているのが、モノづくりに対する情熱や製品・技術の特徴をダンスで表現しようというもの。技術の説明っていうと、難しくて興味のない人には面白くないことが少なくないが、ダンスで表現することで、分かりやすく楽しくしようってことが狙い。どんな内容なのか、本番をお楽しみに！

「タイヤセーフティ動画コンテスト」表彰式開催！

ブリヂストンブースでは、11月24日（日）13時から、「タイヤセーフティ動画コンテスト」の表彰式が開催される。交通安全やタイヤの日常点検の推進につながる動画作品のコンテストで、11月5日に一般投票が締め切られた。ストーリー動画部門の最優秀賞には、賞金50万円と副賞が贈られる。当日は、映画監督の大林宣彦氏や映画コメンテーターのLiLiCoさんらが、表彰式に参加する。
参考URL＝http://tiresafety-contest.jp/



Topic 5 モノづくりの情熱や技術がよくわかるステージイベント

KeyWord 100年目の約束、世界初!※ 化石資源使用“ゼロ”のタイヤをいよいよ発売

タイヤにできることを! もっと!!

その技術(おもい)は未来のために。

1913年、日本で初めて自動車用のタイヤを生産したダンロップ。
それから100年の間、常にトップランナーとして高い技術力と優れた開発力でタイヤが社会に、環境に、未来に貢献できることは何かを考え続けています。



代表取締役社長
池田育嗣氏

Topic 1 「自動車タイヤ 国産第一号」出展! 100年の歴史で 培われたダンロップの 最先端環境 テクノロジーを体感!

ダンロップは、「原材料」、「低燃費」、「省資源」をキーワードにした環境テクノロジーで地球環境に貢献している。その最先端環境テクノロジーを、最新の映像装置や展示で分かり易く、楽しく、体感出来る。今回は、2012年に国立科学博物館から「未来技術遺産」に登録された100年前に生産された「自動車タイヤ国産第一号」の展示やこれまでの東京モーターショーでその挑戦と進化を常に発表してきた「100%石油外天然資源タイヤ」の市販モデルが展示される等、話題のタイヤが盛り沢山! また、100年、100%、100人等、100をテーマにした様々な展示にも注目だ。



自動車タイヤ国産第一号



「原材料」でできる事をもっと!

~世界初!※「100%石油外天然資源タイヤ」いよいよ発売~

Topic 2

「自動車タイヤ国産第一号」からちょうど100年目の2013年、ダンロップは、将来枯渇する可能性のある石油や石炭等の化石資源の使用をゼロにした、「100%石油外天然資源タイヤ」を世界で初めて発売する。2011年の東京モーターショーでのプロトモデルの発表が大きな話題を巻き起こした事は記憶に新しいが、今年は実際に車に装着して使用する事ができる市販モデルとして登場! 一般的なタイヤでは、石油由来の原材料が約60%も使用されていると言われているが、これらの原材料を全て、天然素材へと置き換えることに成功。

その原材料とは?
そのテクノロジーの秘密とは?





※合成ゴムが主流になって以降(ダンロップ調べ)

Topic 3
「低燃費」でできる事をもっと!
～「50%転がり抵抗低減タイヤ」プロトタイプ発表～

自動車の燃料消費抑制に大きな貢献をするタイヤの低燃費性能。世界的な環境意識が高まる以前より、タイヤの低燃費性能によるエネルギー使用量の節約を重視して取組んできたダンロップ。

2015年には「50%転がり抵抗低減タイヤ」を発売することを約束しているが、今回そのプロトタイプタイヤを発表する。一般的にタイヤの転がり抵抗が10%低減されると燃費が2%向上されると言われているので、このタイヤならばなんと「10%」も燃費が向上するはず。

前回の東京モーターショーで発表した、ナノレベルの材料開発技術「4D NANO DESIGN（フォーディーナノデザイン）」を駆使して、タイヤに必要な安心感のあるグリップとウェット性能は維持したまま、転がり抵抗を大幅に低減する事を可能にする材料を開発した。

その材料とは？ ナノレベルでの機能とは？



4D NANO DESIGN

Topic 4
「省資源」でできる事をもっと!
～次世代新工法『NEO-T01（ネオ・ティーゼロワン）』が実現「プレミアムランフラットタイヤ」～

次世代のタイヤに求められる「高機能」「高精度」を追求した次世代新工法「NEO-T01」によって、開発された「プレミアムランフラットタイヤ」。「NEO-T01」の、高い真円性を実現する「メタルコア工法」や強靭な材料の採用を可能にする「高剛性構造」、タイヤの製造工程の精度と省スペース化を行う「全自動コントロール」と言った特徴により、「プレミアムランフラットタイヤ」が生み出された。

安心感の高い快適な操縦安定性能と共にスペアレス（省資源）だけではない新たな環境性能も実現している。

その新次元の性能とは？

新たな環境性能とは？

NEO-T01

Topic 5
未来へできる事をもっと!
～3年連続低燃費タイヤ販売No.1の使命～

人と地球にベストアンサーを。ダンロップは、低燃費性能を追求しながら安全性も両立した低燃費タイヤを、あらゆる車種の様々なお客様のニーズに対応してフルラインアップで展開し、地球環境保全に貢献するべく取組んでいる。

タイヤによる地球環境保全への貢献だけではなく、未来の地球のために、直接的な環境保全活動も実施している。

2009年にスタートした「チーム・エナセーブ」活動では、森を再生するためにタイやインドネシアにマングローブの苗木を植樹し、その植樹が109万本にまで達している。

更に2013年にはその活動を日本国内にも拡大し「チーム・エナセーブ未来プロジェクト」を公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働事業でスタート。日本各地で失われつつある文化や自然環境の保護を目的とした「未来遺産運動」のサポート等を実施していく。

2010年 販売本数 No.1
2011年 販売本数 No.1
2012年 販売本数 No.1

ダンロップ 低燃費タイヤ
3年連続!
No.1
全国カー用品量販店
上位2社での販売本数
（㈱日本能率協会総合研究所調べ）

「チーム・エナセーブ 未来プロジェクト」
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
私たちは、未来の子どもたちのための活動を始めます。

どんな未来が来てほしい？ みんなで決めよう！

Best of 未来
ベスト・オブ・みらい

「Best of 未来」は、会場に来たみなさん1人1人に
いちばん「未来」を感じたクルマ、バイク、モノ、展示を選んでもらうイベント。
20世紀生まれの人と21世紀生まれの人に分かれて投票してもらい、
その結果はWebサイトやラジオ、新聞で発表します。
書いていただいた賞状はすべて、世界にまだない未来をつくった
メーカー各社にお届けします。ぜひご参加ください！

投票のやり方

①会場をまわって、表彰したいものをえらぶ

クルマ、バイク、ブース、その他何でもかまいません。未来を感じたものを、ひとつえらびましょう。

②書く

表彰状に「一番未来を感じたもの」「未来を感じた理由」「日付」「ニックネーム」を書いてください。
自由に色をぬったり、絵を描いたりしてください！

③投票する

西ホールアトリウムにある「Best of 未来」ブースと、会場内3か所にあるインフォメーションにポストが置いてあります。
2000年より前に生まれた人は「20世紀生まれ」のポストに。
2001年生まれより若い人は「21世紀生まれ」のポストに入れてください。

主催：ベストオブ未来実行委員会（㈱エフエム東京 ㈱フジテレビジョン 読売新聞社）

東京モーターショーならではの楽しいイベントが盛りだくさん!

ワールドフードカップ in 東京モーターショー2013

・開催期間
11月23日(土)～12月1日(日)
10時00分～16時30分予定
・会場:屋外展示場

・内容:前回の東京モーターショーに続き、フジテレビ「めざましテレビ」が応援する世界の食の祭典「ワールドフードカップ」が登場!世界8ヶ国の美味しいグルメが大集結!国毎で人気を競い合います。皆さんの投票でNo.1が決定。さらに、今回は新たな試みも…。詳しくは、ワールドフードカップ会場へ!
・出店予定国:インドネシア(初登場)、スペイン(初登場)、タイ、トルコ、ナイジェリア(初登場)、日本、メキシコ、ロシア(初登場)

次世代ユニットX21 スペシャルステージ

・開催日時
11月25日(月)13時00分～13時30分予定
・会場:アトリウム ステージ
・出演者:次世代ユニット X21



・内容:第13回全日本国民的美少女コンテストのファイナリスト21名で結成!リーダーの吉本実憂を中心とする平均年齢14歳のガールズユニットがステージに登場。第43回東京モーターショー2013サポーターファミリー「車家の人々」で次女、車奈々花(くるまななか)を演じる小澤奈々花は同ユニットの副リーダー。21名でステージを盛り上げます!

中嶋一貴 スーパーフォーミュラ ～激闘の2013シーズンを振り返る～

・開催日時
11月26日(火)13時00分～13時30分予定
・会場:アトリウム ステージ
・出演者:中嶋 一貴「2012フォーミュラ・ニッポンチャンピオン」。1985年1月11日愛知県生まれ

・内容:2012年、自身初の全日本戦タイトル、国内最高峰のレース「フォーミュラ・ニッポン」の年間チャンピオンを獲得した中嶋一貴選手が東京モーターショーのステージに登場!
今年は、新しく生まれ変わった「スーパーフォーミュラ」にディフェンディング・チャンピオンとして参戦。激闘の2013シーズンを今だから話せるマル秘エピソードを交えてファンと共に振り返ります。また2014年に導入される話題のニューマシン「SF14」の先行情報もたっぷりお届けします!



アイドリング!!! スペシャルステージ

・開催日時
11月26日(火)12時00分～12時30分予定
11月27日(水)13時00分～13時30分予定
・会場:アトリウム ステージ
・出演者:アイドリング!!!(出演メンバー未定)

・内容:フジテレビのアイドル育成番組から生まれたアイドルグループ"アイドリング!!!"前回の東京モーターショーにも登場した彼女達が、再びこのステージに登場! 彼女たちが繰り広げるパワフルなステージは必見です!!

フジテレビ"プレミアの巣窟"公開収録

・開催日時
11月28日(木)13時00分～13時40分予定
・会場:アトリウム ステージ
・出演者
天野ひろゆき 小島瑠璃子 篠宮暁(オジンオズボーン)
・進行:生田竜聖(フジテレビアナウンサー)

・内容:毎週月曜日、フジテレビにてオンエア中のエンタメサーチバラエティ「プレミアの巣窟」がステージに登場!天野ひろゆきをメインMCに、いま人気急上昇中の小島瑠璃子、新世代のデキるアナウンサー生田竜聖、そして…自称・最新エンタメ情報を網羅する謎のスーパーコンピューター・調べるんぞう! 以上の番組メンバーに加え、ゲストも登場しての公開収録を行います。



第43回東京モーターショー2013 サポーターファミリー "車家の人々" スペシャルステージ

・開催日時
11月29日(金)11時30分～12時00分予定
・会場:アトリウム ステージ
・出演者:車家の人々(予定)

・内容:「第43回東京モーターショー2013サポーターファミリー」として、ミニドラマやイベント出演等を通じて東京モーターショーを盛り上げてきた"車家の人々"が遂にステージへ登場! ぜひ、ステージを見る前に"車家の人々"公式ホームページでミニドラマ全10話をチェック!
ステージが100倍、面白くなります!!
<車家の人々 公式ホームページ http://www.kurumake.jp/>



今話題のEV・PHVと最近街中に増えてきた充電器を、体験してみよう!

体験会の参加時間は、
わずか6分! この機会に、
チョイ乗り体験してみませんか!?

無料!

皆さまの声
EV・PHVって、馬力が弱いんじゃないの?

皆さまの声
充電の仕方が、よくわからないから不安。

体験するなら、今でしょ!!

EV・PHV試乗のポイント

1. トルクやステアリングの軽さを体感する。静かな挙動、確かな加速を感じる。
2. 全国に普及する充電器を見てみる。いざという時に、スマートに充電ができるように体験してみる。

一般社団法人 次世代自動車振興センター 充電インフラ部(充電インフラ整備補助関係)
〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目6番12号 大手町建物虎ノ門ビル
TEL:03-5501-4412 FAX:03-5501-4421 URL:http://www.cev-pc.or.jp/

充電インフラ、EV・PHV体験会

【会場】西展示棟 屋上展示場
【日時】11月27日[水]～12月1日[日] 10:00-16:00

※当日の天候または車両の都合により、中止となる場合がございます。

【参加資格】 1)普通免許証を携帯している方。
2)日本語が理解でき、国際免許証を携帯している方。

【参加方法】 西展示棟4階のロビーにある受付で、お申し込みください。
試乗券は無くなり次第、終了となります。

【試乗車両】


トヨタ自動車
プリウスPHV


日産自動車
リーフ


本田技研工業
アコードPHEV


マツダ
デミオEV


三菱自動車工業
アウトランダーPHEV


フォルクスワーゲン
e-up!


プロッツァ
Pecoto (ペコロ)

【充電器】


日産自動車


デンソー


豊田自動織機


トヨタメディアサービス


ハセテック

レスポンス10周年記念アプリ

emerging media Response.

かざして モーターショー

東京モーターショーを100倍楽しむ スペシャルアプリ!

モーターショーが手の中に!

ニュース速報配信

会場マップ スケジュール

オリジナル限定壁紙

ブース・製品情報取得



1 まずはアプリをダウンロード

かざしてモーターショー 検索

2 ブースを回って限定アプリゲット!



3 イベント情報や出展社情報チェック!



イベントスケジュールや会場マップなど、東京モーターショーをより楽しむ事ができます。
そして、各ブースに置いてあるTAPボードにスマートフォンをかざすと、出展社のアプリ・情報をゲット!

アプリ制作：株式会社coromo・・・「人が一日の中で最も見る」ホーム画面をジャックすることで、全く新しいメディアを生み出すスマートフォンホーム画面のプラットフォーム構築、及びそれに伴うコンテンツ提供を行っております。

株式会社イード (IID, Inc.)　〒164-0011　東京都中野区中央一丁目38番1号住友中野坂上ビル1階・16階

JOURNALIST **VOICE**

世界のジャーナリストが感じた東京モーターショー2013

海外ジャーナリスト編

世界から注目される東京モーターショーには海外のプレスがたくさんやってくる。
彼らの目には東京モーターショーはどう映っているのだろうか?

1 充実した軽自動車に感嘆



「ワッツカー(WHAT　CAR)」オンライン編集者
ナイジェル・ドネリーさん◉イギリス

初めて東京モーターショーに参加したけど、見るものがたくさんあって楽しい。ジャーナリストのなかで噂になっていた軽自動車を見ることができてよかった。軽自動車の充実したラインアップは東京ならではだと感じた。
試乗エリアが外に設けられていて、東京の景色を見ながら運転できるのはいいアイディアだね。ほかのモーターショーは室内だからつまらない。並ばずに乗れるなら、ぜひすべてのクルマに試乗したかったよ。

2 ハイブリッドの時代を確信しました



「アウトスポルトTV」テレビリポーター
レナータ・デ・カルバロさん◉ブラジル

日本のブースを中心に回っているけど、誰もが思いつかないような、現実ではありえない乗り物が見たかった。でも、トヨタの「ＦＶ２」だけはクルマが表現する未来を体現していると感じた。
日本にきて再確認したけど、やっぱりこれからはハイブリッド車が主流になってくると思う。ブラジルではまだハイブリッド車は少ないけど、燃費がよく、環境に優しいイメージが強い。ガソリン車に加えてハイブリッド車という選択肢が一つ増えれば、クルマ選びも楽しくなるはず。

3 もっと英語が話せる人を



「レゼコ(Les　Echos)」(日刊紙)記者
ナリア・ベイラーさん◉フランス

東京モーターショーはとてもよく組織されていて、進行がスムーズなのがよかった。でも英語を話せる人がもっといて欲しかった。今回は日本のエコカーの技術に注目して見にきた。フランスではエコカーは値段が高く、マーケティングも上手くいっていないから人気がない。でも環境対応車はもっと増えていくべき。今、フランスの経済はあまりよくないけど、自動車業界はフランスでとても大きな市場だから、マーケティングを徹底させ、景気がよくなれば一気に売れると思う。

4 赤いレクサスハイブリッドに驚嘆



「フロンティア・プロダクション」(ビデオ制作会社)カメラマン
リチャード・コロンボさん◉アメリカ

日本のコンセプトカー、ラグジュアリーカー、スポーツカーはいままでは他国に劣っていたが、今回はとてもよかった。特にデザインがかっこいいものが多かった。赤いレクサスのハイブリッド車のプレゼンテーションには度肝を抜かれたよ。
クルマの未来を考えたらＥＶが重要な立ち位置になってくる。トヨタの「ＦＣＶ」も素晴らしい発想だ。本当に３分間で充電ができて、500kmの走行が可能なら、それはとても理想的だね

5 バラエティー豊富、毎年開催してもいいくらい



「トーキョー・カーパレード」(オンライン)編集
イヴァン・コローシンさん◉ロシア

東京に移住した1990年代から毎回来ているけど、小規模なわりにはバラエティに富んでいて、いろんな人にアピールできるクルマが多い。マニア向けから、生活手段の一つとしてクルマを使う人にも楽しめる内容になっている。毎年開催してもいいくらい。2009年から段々とよくなってきているし、今回は海外からの注目度も高く、外国人プレスが多いように感じた。でも、ロサンゼルスのモーターショーと日程がかぶっているから、クルマが少ないのかな。

6 最高にナイス!「GT-R」、未来がわかる「FCV」



「イル・ソーレ・24・オレ」(経済紙)記者
マリーナ・テルポリーリさん◉イタリア

日産「GT-R」が最高にナイスだった。とてもスポーティで、実際に乗ることを考えたらワクワクするわ。これはヨーロッパの市場に非常にマッチしてると思う。爆発的な人気が出るはずよ。
あと気になったのはトヨタ自動車の参考出展の「ＦＣＶ」。水素電池を採用したことがとても面白い。これはトヨタというブランドが自動車の未来をどういうふうに見ているかがよくわかった。今年で４回目の東京モーターショーだけど、少しずつ規模感が大きくなっている印象を受けたわ。

7 心に語りかけてくるクルマ「S660」



「ルブログオート(leblogauto)」(週刊誌)編集者
ベルナルド・フォーノルさん◉フランス

今回は各社のオリジナリティ溢れるコンセプトカーを楽しみにきたよ。特に日産の「IDx」はびっくりしたよ。1970年代の日本車の人気が最高潮のときだった頃を、もう一度解釈しなおして形にしたクルマだ。ヨーロッパでは韓国車のシェアが大きい。日本は過去に受け入れられたものをもう一度刷新してクルマの開発に向き合う必要がある。そうするとよいものが生まれるよ。
欲しいのはホンダの「S660」だ。とても小さいけど、自分の心に語りかけてくる何かがあるよ。

8 着せ替え可能なクルマに胸躍る



「オートダイアリー(Autodaiary)(オンラインマガジン)」編集長
オージョン・フンさん◉韓国

今回注目したのはダイハツの「コペン」。機能は他と比べて秀でている部分はないかもしれないが、洋服を着せ替えることができるように、クルマを着替え可能なのに胸が躍ったよ。あとカワサキの「ニンジャ」だね。一度は乗ってみたいよ。名前も気に入った。
会場を回ってて一際目立ったブースはマツダだ。赤いクルマを生かすためにブースを作ったんだとすぐにわかったよ。クルマをかっこよく見せる工夫も大切だね。

PS3

15TH ANNIVERSARY

GRAN TURISMO® 6

THE REAL DRIVING SIMULATOR

2013.12.5 debut

www.gran-turismo.com



CERO A 全年齢対象

POLYPHONY DIGITAL

SONY COMPUTER ENTERTAINMENT

©2013 Sony Computer Entertainment Inc. Manufacturers, cars, names, brands and associated imagery featured in this game in some cases include trademarks and/or copyrighted materials of their respective owners. All rights reserved. "GT" is a trademark of Sony Computer Entertainment Inc.

JOURNALIST **VOICE**

日本のジャーナリストが感じた東京モーターショー2013

日本人ジャーナリスト編

東京開催となって2回目となる今回の東京モーターショー。見どころ満載のなかで クルマに精通したモータージャーナリストはどこに注目したのだろう?

1



日産と三菱の展示内容に、未来への意気込みを感じた

自動車評論家
舘内端さん

今回のショーの見どころは未来に向かってのやる気を見せているかどうか。ということで、一押しは日産のブース。ニュル量産車最速記録をマークした「ニスモGT-R」の展示も秀逸だが、これだけでは現代の自動車メーカーとしては失格。そこにデルタウイング型をしたスポーツEVを加えて21世紀への日産の取り組み姿勢を鮮明にしている。いっぽう三菱がアンベールしたのはすべてPHEV。これは「三菱はPHEVでいくぞ」と決意表明したわけで、これも未来への気概を感じる。

2



広い展示スペースで出展コンセプトが明確に。じっくり見学できる

モータージャーナリスト
川上完さん

今年のショーは絶対的にスペースがゆったりしていたことが大きな美点。それは裏を返せば展示車両や展示アイテムが少なかったということだが、これは決して悪いことではない。各メーカーや出展者のコンセプトが明確になり、見る側としてはひとつひとつの展示車両や展示アイテムについて、じっくりと見たり聞いたりできるのだから。

バブル景気が絶頂の頃は、あまりに全方位的な展示で、ショーを見終わった後、自分の記憶に何も残っていないようなこともあったくらいだ。

3

FCVやハイブリッドもいいがシンプルに魅力的なモデルがいい

自動車評論家
伏木悦郎さん



直観的に刺さるクルマはシンプルに姿形で惹きつける。日産のコンパクトFRスポーツクーペコンセプト「IDx FREEFLOW」は、オールドファンには懐かしく、若いジェネレーションZ世代には未知の新しさと映る。ホンダの「S660コンセプト」とダイハツ「コペン」は、いわゆる『軽自動車』とは違うマイクロスポーツの魅力で迫り、軽の世界観をグローバルに発信する勢いがある。マスプロではないが、ケン・オクヤマの「KODE9」にも大注目。気持ちが形に表れたクルマがやっぱりいい。

4

環境・安全技術の今、スペシャルティカーが見せる夢に会える場所

自動車生活ライター
飯田裕子さん



“最新”と“夢や期待”の二面でクルマを楽しめるのがモーターショー！ 「よかった」ポイントは3つです。一つは軽自動車やエコカーの“今”を直接見て知ることができる。二つ目はオープンカーやクーペなどスペシャルティカーの復権!? コンセプトカーを含め、美しく優雅でスタイリッシュなモデルを見るのは楽しいです。最後は西展示棟のSMART MOBILITY CITY 2013。高度運転支援システムの試乗や自動運転のデモ見学など、安全と環境の“今”をわかりやすく紹介しています。

5



手が届きそうな軽自動車のスポーツたちにワクワクさせられる

自動車評論家
竹岡圭さん

個人的な注目車は、日本車勢ではダイハツ「コペン」とホンダ「S660」。遊び心いっぱいのスポーツカーが、軽自動車カテゴリーから提案されると「日本が元気になってきたゾ～！」という勢いが伝わってくるし、「自分にも手が届きそう」なんて想像もできて、スーパーカーを眺めるのとはまた違うワクワクがありますよね。輸入車勢では新型MINI。世界中で大人気を誇るモデルのフルモデルチェンジが、日本のモーターショーでワールドプレミアされたということに感動しました。

6



活気がある今回のモーターショースバルの「レヴォーグ」に注目だ!

モータージャーナリスト
斎藤聡さん

遠い未来のコンセプトカーは少なかったけれど、ごくごく近い未来に登場するであろうコンセプトカー（？）や、ワールドプレミアなどが用意されており、前々回、前回のショーと比べると、ずいぶん活気があるのがうれしい。個人的に刺さったのはスバルの「レヴォーグ」だ。「インプレッサ」と「レガシィ」の間を埋める車種として開発されたといわれており、先々代「レガシィ」の正常進化版はこっちか？ と思えるような絶妙のサイズ感。性能面でも期待できそう。

7

トヨタが提案する新しいタクシー。こういう車両が普及すれば……

モータージャーナリスト
石井昌道さん



日頃からなんとかならないものかと感じていたタクシー車両。古いメカニズムからくる乗り味や雰囲気は昭和の香りさえ漂い、自動車先進国の日本らしくないからだ。そこに一筋の光明を見せたのがトヨタの「JPN TAXIコンセプト」。5ナンバーサイズながらちょっと背が高めで室内は広々。床は低くフラットで座面を跳ね上げれば車いすもそのまま入る。スライドドアも便利かつ安全でいいね。LPGハイブリッドなので環境にもいいだろう。東京オリンピックまでの普及を期待したい。

8

ブース全体を北欧の雰囲気でまとめたボルボに感心しました

モータージャーナリスト
鈴木直也さん



まず、ワールドプレミアの多さに驚かされました。特にMINIの新型が日本で発表されたことに、東京モーターショーに勢いが戻ってきたと思わされましたね。

ブース的に感心したのはボルボ。ブース全体が北欧家具調の雰囲気でまとめられていて、日本市場での好調さがうかがえました。日本車ブースではスバルでしょうか。ワールドプレミアの「レヴォーグ」に、早くも乗り込めるようにしていたのには驚き。やはり勢いを感じましたね。

KeyWord Driving Mobile Media Solutions

カーライフの未来価値を創造する

お客様の安全で快適なカーライフを目指して、アルパインは“人とクルマの関係”の進化を創出してまいります。

Topic 1 「人とつながるコックピット」を目指して



アルパインは、激動の時代をリードする先進性、人々に感動と喜びをもたらす新しい価値の創造を企業使命とし、1967年の創業以来、世界中のドライバーと多くの自動車メーカーから高い信頼を集めてきたモービルメディアの革新企業である。

こうした同社が、今回の東京モーターショーで展開するブースでは、ドライバーの視線や動きを読み取り、必要な情報をコントロールすることで、安全で快適、かつ今までにない楽しいドライブを提供する近未来のコックピット「Infomation Management Cockpit」と、同社が国内市販で展開する車種専用コンセプトをもとに、子育て家族がクルマに求める楽しみやこだわりを形にすることで生まれた「Alpine Style」を、３つのステージプレゼンテーションと実機体験コーナーで紹介し、同社がめざす次世代のカーライフをあますことなく紹介する。

なかでも注目したいのが、同社が誇る最新のセンシング技術と情報コントロール技術を駆使したInfomation Management Cockpitの提案だろう。ドライバーの意思にコックピットが応える“夢のコックピット”ともいえるInfomation Management Cockpitは、スマートフォンを利用したワイヤレス接続や充電をはじめ、車載カメラ認識HMIによるドライバーのジェスチャー操作（行動予測）やタッチ補助操作（視線認識）、さらにはドライバーの状態やドライブシーンに応じた最適な情報表示など、ドライバーの「きもちに、こたえる」未来のコックピットを具現化している。

同社のInfomation Management Cockpitが人とクルマの関係を、より“感覚的”に進化させる姿を、ブースでぜひ体感してもらいたい。

Topic 2 車種専用がもたらす美しく、快適で安全なカーライフ「Alpine Style」

「あなたのクルマのために、生まれてきた。」―。市販車載器ブランドでいちはやく車種専用設計の思想を採り入れ、大ヒットを生み出したアルパイン。そのアルパインが提唱する「Alpine Style」の中心となる車種専用・大画面カーナビが「ビッグXシリーズ」だ。

なかでも「ビッグXプレミアムシリーズ」は、純正コンソールとの一体化をめざして操作キーやパネルなどを車種専用にデザイン。車室内に溶け込む美しい装着を実現するとともに、現在地や視聴中のＡＶメディアの音量調節、操作系メニューなど使用頻度の高いキーの使いやすさを両立している。

車種ごとに徹底的に作り込み、究極のマッチングを実現した「Alpine Style」。その精巧なチューニングによるパーフェクトフィットは、見る人に新たな感動を与えるだろう。





熟練のサウンドマイスターが車種ごとの音響特性を細かくチューニング。より高音質で表現力の高いサウンドを実現している。



ビッグXシリーズの9型/8型の大画面は、スーパークリアパネルLED WVGA液晶を車種ごとにチューニング。常に最適で高画質な画面表示を実現。


後退時は、実車計測でチューニングされたカメラガイド線で、より安全に駐車できる。これも車種専用設計がもたらすベネフィットだ。

Topic 3 子育て家族の楽しいドライブをサポート


後席で映像が楽しめる「リアビジョン」は、今やミニバン家族の定番だ。



前席は音楽、後席はＤＶＤでアニメなどが個別に楽しめる「ダブルゾーン」機能。家族ドライブの楽しさをより広げてくれる。



「まっぷるマガジン」（昭文社）約100冊分をはじめとした豊富なおでかけ情報をスマートフォンでナビとリンクできる。

今やファミリードライブの必需品ともいえる後席用モニター「リアビジョン」。シアター気分で映像が満喫できるだけでなく、アルパイン製カーナビと組み合わせれば「リアビジョンリンク」の多彩な機能が楽しめる。

このほか、旅先でも家族がよく行くチェーン店をすぐに探し出すことができる「お気に入り周辺検索」、人気旅行雑誌等の情報をまるごとスマートフォンのアプリに収録したオリジナルの「家族でおでかけ検索」など、子育て家族のドライブを応援する機能が満載されているのも大きな魅力だ。



ドライブ先で立ち寄るなら、いつも行くチェーン店が安心。家族に人気の店をアイコン設定しておけば、お気に入りの店がすぐ検索できる。

KeyWord Link to Happiness

“つながる”技術による近未来の車社会がここに!

人とクルマと社会を結び、ひとりひとりのカーライフに合わせた新しい可能性と楽しさを創造

Topic 1 「つながること」で生み出される新たな“Happiness”を体感しよう

富士通テンは「Link to Happiness」をテーマに、大型ビジョンに映し出す映像と、コンパニオン・MCによる動きを交えた躍動感のあるプレゼンステージを2部構成で行う。

パート1ではICT（情報通信技術）を活用して、ドライバー個人の特性や車の状態を理解し、最適な情報を最適なタイミングでドライバーに提供するなど、個々人にとって心地良く、安心・快適なドライブをサポートする「近未来のドライバーサポートコンセプト」を、パート2では知りたい情報を会話で簡単に検索できる対話型エージェント機能をはじめとする、安全性と使いやすさを追求したECLIPSEの最新ナビを紹介する。



Topic 2 会話で最新情報を検索できるイクリプスの最新カーナビを体験しよう

ECLIPSE2013カーナビゲーション タッチ&トライコーナー

ECLIPSEの最新カーナビを展示し、「使いやすいナビ、イクリプス」をアピールする。会話で検索できる「対話型エージェント」など、コンパニオンがわかりやすく説明し、ステージ映像だけでは伝えきれない、新感覚の“使いやすさ”が体験できる。



「対話型エージェント」



ECLIPSE 9型大画面ナビ「AVN−ZX03i」


7型ワイドナビ「AVN−Z03iW」


7型ナビ「AVN−Z03i」

東京モーターショー特別サイト開設

今回の出展に合わせて特別サイトを開設中。テーマである「Link to Happiness」に込めた思いや、出展ブースの見所紹介はもちろん、ここでしか見れないブースの裏側なども紹介。また会期中も様々な最新情報を発信するなど、富士通テンブースの魅力満載の内容となっている。

●東京モーターショー特別サイト

http://www.fujitsu-ten.co.jp/motorshow2013/

お待ちしております!



KeyWord 地球と生命を守り、次世代に明るい未来を届けたい。

地球に優しく、安心・安全なクルマ社会を目指して…

技術力の高さだけではない。ドライバーやクルマ社会のあるべき姿を真摯に見つめる姿勢が伝わってくる。



各技術を扱うパートと、それらを統合した体験型コクピットで構成され、さまざまな角度からデンソーの技術が理解できるようにスペーシングされている。

<デンソー東京モーターショー 2013特設サイト>
http://www.globaldenso.com/en/newsreleases/events/tokyomotorshow/2013/booth/

Topic 1 将来のクルマ社会への想いが伝わる展示

「地球と生命を守り、次世代に明るい未来を届けたい」というスローガンを掲げるデンソー。環境ゾーンではガソリン、ディーゼル、HV/EVといったすべてのパワートレインのCO_2排出低減に貢献する技術力をアピールする。また安心・安全ゾーンには、フロントガラスに必要な情報を映し込むヘッドアップディスプレイ、複数のセンサーを組み合わせた予防安全システムパッケージ、無線通信を利用して交通の円滑化と事故の低減を図るインフラ協調システムなども披露。技術で、環境に優しく、安心・安全なクルマ社会を実現するという強い想いと、着実な取り組みが伝わってくる。

Topic 2 一度は体験したい近未来の対話型コクピット



インタラクティブ・コミュニケーション・コクピット。コミュニケーションロボット“Hana”の定位置はダッシュボード左端。

デンソーが取り組んでいる安心・安全なクルマの実現に向けた様々な技術を搭載し、近未来のコクピットを提案したのが、「インタラクティブ・コミュニケーション・コクピット」だ。まずステアリングには生体計測モニターが設置されており、ステアリングを握るだけで脈拍や心電などの健康状態がチェックできる。そして視線をそらすことなく情報を確認できる大型ヘッドアップディスプレイは、２m先に17インチの画像を映し出すワイドバージョン。これに画像処理技術を組み合わせて後方からの危険を知らせてくれる電子ミラーやインフラ協調システム、予防安全システムパッケージなどが加わり、走行時における安全性が大幅に高められている。

またダッシュボードに配置されているのが、コミュニケーションロボット“Hana”。この“Hana”が走行状況に応じて必要な情報を提供する。対話方式でより安全で楽しいドライブをサポートしてくれるとともに、人格を感じさせ、ドライバーとの信頼関係を生む効果を狙ったアイデアだ。このコクピットに座れば前方のスクリーンにはリアルなCGの街並みが映し出され、ドライビングシュミレーターとして近未来のストリートをドライブ体験できる。まるでSF映画のコクピットのようだが、けっしてそうではない。ブースに展示されているデンソーの革新的な技術力を見せられると、近い将来、このようなコクピットに座ってドライブする日が来ることを確信させるものがあるからだ。

スマートフォンでHanaと遊ぼう

コミュニケーションロボットの“Hana”と遊びたいのなら無料のスマートフォンアプリ“Hana AR Viewer”をダウンロードしよう。スマートフォンのカメラと連動したビューアによって“Hana”の可愛らしい仕草やお話が楽しめる。

<Hana AR Viewer>
http://www.denso.co.jp/ja/news/event/tokyomotorshow/2013/booth/ar/index.html



“Hana”は音声だけでなく、腕や顔が動く。頬が赤く染まる。眠くなったらクイズも出題してくれる賢いロボット。

KeyWord 未開拓の利用シーンと利用者を切り拓く

NTNの技術を詰め込んだQ'moⅡ

インホイールモータならではの“その場回転”“横方向移動”といった特徴的な動きはそのままに、公道走行を可能にする機能を実現



マルチドライビングシステム(MDS)
前輪2輪と後輪2輪それぞれに新開発のステアリングシステムを装備して、前後輪の一対のインホイールモータの転舵を連動させて制御できるようにした次世代EVシステム。

インホイールモータシステムの特長
・その場回転・横方向移動が可能
・車内の空間スペース有効利用・設計自由度の向上
・各タイヤの駆動力を制御することによる走行安定性の向上

Topic 1 「Q'moⅡ(キューモツー)」

前回のモーターショーで注目を集めた2人乗り電動コミュータ「Q'mo(キューモ)」が大きく進化を遂げ、「Q'moⅡ(キューモツー)」として帰ってきた。

ホイール内に配置したモータユニットで直接タイヤを動かす「インホイールモータシステム」によって先代のQ'moが示した“その場回転”や“横方向移動”といった特徴的な動きを維持しつつ、「マルチドライビング・システム(MDS)」という新機構の採用により、時速約60kmで公道を安全に走行できるようになった。ブース内でQ'moⅡのデモ走行を行うほか、抽選で試乗もできる。今年の東京モーターショーもNTNブースから目が離せない!

Topic 2 実用化に向けたインホイールモーターシステムの公道実証事業

インホイールモータシステムの実用化に向け、NTNは後輪2輪にインホイールモータを組み込んだ小型EVを開発し、次世代車の開発・事業化で先行する日欧両市場の公道で実証事業を行っている。

■コンバートEV
2011年10月 静岡県磐田市
磐田市と連携し、コンバートEV(改造EV)を用いて実証事業を実施。

■小型EVコミュータ
2013年6月　フランス アヌシー市
超小型EVをアヌシー市に公用車として貸与し、世界初の登録車両での実証事業を開始。

2013年8月　静岡県
国内で初めてインホイールモータ搭載小型EVとして軽自動車登録し「富士山EVフェスタ」でお披露目。実証事業開始。

2013年10月　三重県伊勢市
「超小型モビリティ認定制度」に対応した超小型モビリティ(インホイールモータ搭載車では初認定)を貸与し、実証事業を開始。

こうした実証事業を通じ、インホイールモータがEVに採用される日が目前に迫っている。


フランスアヌシー公用車

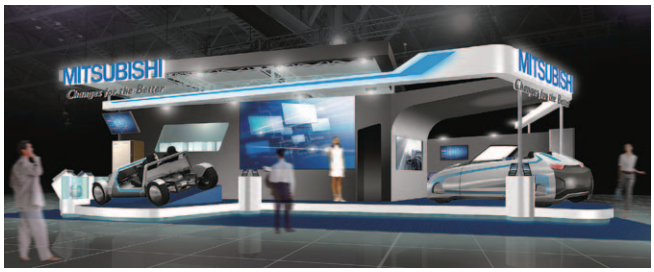

富士山EVフェスタ


伊勢市公用車

KeyWord ～Feel the EMIRAI～ワクワクする未来を感じよう

電機メーカーが進化させる未来のクルマ

斬新な自動車機器が支える明日のクルマ社会が見える



Topic 1 クルマ社会を支える最先端技術 未来のクルマ社会を見に行こう！

家電を始め総合電機メーカーとして知られる三菱電機。自動車関連事業も既に80年もの歴史と伝統を誇る。数多くの機器や製品を手掛け、オルタネータやスタータ等のエンジン電装品、ETCやカーナビ製品に止まらない。省エネ追求にはもはや不可欠な電動パワーステアリング用モータやハイブリッド車用のモータ駆動ユニット、高精度な回転角センサ等は業界屈指の高い評価を得ている。

運転支援に関わる各種センシング技術を始め、制御装置、そして情報表示の仕組みにおいても、独自の技術力が見逃せない。そこには監視カメラやオーロラビジョンなど、様々な分野で活躍する先進機器を培ってきた総合電機メーカーならではのシナジー効果が生きているのだ。

会場でスマホアプリを使って EMIRAI 2を体験しよう

右のQRコードから入れるサイトには三菱電機ブースの情報が満載！コンセプトカー「EMIRAI 2」のデモを手元で疑似体験できるARアプリの情報も掲載している。(11月22日公開)

Topic 2 最先端のモータ制御技術とヒューマンインターフェースが融合したコンセプトカー「EMIRAI 2」



運転支援系コンセプトカー
EMIRAI 2 xDAS

最先端のEVコンセプトカー「EMIRAI 2」(イーミライツー)を2台展示。見て触れて、体感できるブース展開には、ワクワクしながら未来を知ることができる楽しい仕掛けがいっぱいだ。近い将来のクルマ社会の在り方をリアルな形で知ることができるだろう。

2台のコンセプトカーの内、1台はEVの主要なコンポーネントであるモータやインバータ等のパワートレイン系の製品を搭載したものだ。より快適な走行のためのモータ制御技術やEVならではの環境技術を知る事ができる。

もう1台では次世代の運転支援機能に触れることができる。例えばマルチディスプレイには、次世代インパネの在り方が表現されている。複数のディスプレイを連携させ、必要に応じて様々な情報表示をおこなう。シンプルなスピードメーター表示はもちろん、停車時にはエンタテイメント画面へも切り替わる「インテリジェントパネル」には注目だ。さらにヘッドアップディスプレイとARを用いてドライバーに危険を知らせる安全・安心機能も搭載されている。これらの技術は会場で実際にコンセプトカーに乗り込んで体験する事もできる。

パワートレイン系コンセプトカー
EMIRAI 2 xEV



最先端の技術と融合する事でクルマはますます賢くなる。そんな未来のクルマをぜひ体感してほしい。

臨場感溢れる DIATONEサウンド

高音質カーナビとして高い評価を得ている「DIATONE SOUND. NAVI」の臨場感ある感動音質を体感する事ができる。



KeyWord 未来のドライビング：電動化、自動化、ネットワーク化

さまざまな分野から現代の車を支える

自動車のメガサプライヤーの一員であるボッシュ。彼らの最先端技術は、クリーンで快適、そして安全な自動車を実現している。

Topic 1 マグネトーから自動運転へ、ボッシュ127年のロングドライブ。



ボッシュの最初に成功した製品が発電機（マグネトー）。エンジンにとって電気が不可欠なのは、いまも昔も変わらない。ボッシュのCIはこのマグネトーの形状を模式化したものである。



ボッシュの最新技術を使って実現しようとしている自動運転。現在ドイツとアメリカで公道を使った試験走行がスタートしている。

ボッシュの創立は1886年のこと。自動車大国ドイツ・シュトゥットガルトにおいて、ロバート・ボッシュによって興された会社である。自動車の歴史は1885年のダイムラー・トライサイクルが始祖とされているから、自動車の長い進化とともに歩み続けている長い歴史を持つ。創業者ロバート・ボッシュが最初に成功した製品は、自動車用の発電機（マグネトー）。ご存じ、自動車は機械の集合体であるとともに、電気の力を得ないと動くことができない。彼は早くからその重要性に着目し、ボッシュはつねに重要な役割を担ってきたのだ。

歴史を重ねるとともにボッシュの扱う品目はどんどん増え、クルマにおける重要度もそれに連れてどんどん増していった。バッテリー、点火プラグ、スターターモーターなどの電装品、燃料噴射システム、排出ガス後処理装置などのエンジン機能部品、ステアリングシステム、ハイブリッドシステム、ABSやESCなどの車両制御システム、自動緊急ブレーキなどのドライバー アシスタンス システム――すべてをここで挙げるのは難しいほど、製品の幅は多岐にわたる。これら多くの部品とシステムを高度に機能させ、ボッシュは現代の自動車を高効率に動かしているのだ。

そして、彼らの考える最新技術を使って実現しようとしているのが自動運転である。動力源のひとつであるマグネトーから始まったボッシュ。127年後のいま、いかに自動車を自律的に効率良く動かすかというところまで視野は広がっているのである。

Topic 2 自動運転を中心に、未来のドライビングを描くボッシュの提案。



東京モーターショー2013ではボッシュの最新技術の数々を展示。「このシステムが私をどのように幸せにしてくれるのか」が分かりやすく提案されている。

ボッシュの考える3つの大きな柱「クリーン&エコノミカル」「セーフ」「コンフォータブル」。東京モーターショー2013では、ボッシュの提唱するシステムを、これらのテーマに沿って展示する。たとえば「セーフ」ゾーンではドライバー アシスタンス システムを理解するためのデモンストレーターを配置。ボッシュの考えるドライバーアシスタンスの技術を、クルマ型の体験型シミュレーターで、楽しく理解することができる。「コンフォータブル」ゾーンでは自動駐車システムを展示。だれもが苦手とする縦列駐車を、ドライバーの操作なしにクルマが勝手に停めてくれるという、不思議で愉快な提案だ。「クリーン&エコノミカル」ゾーンは、低燃費を追求する最先端のパワートレインシステムを紹介。ガソリン直噴エンジン、ディーゼルエンジンやプラグイン ハイブリッドシステムを模したディスプレイにコンポーネントを配置し、システム全体で燃料消費量とCO_2排出量をどれだけ低減できるかわかりやすく解説している。

そして、今回の展示の最大のトピックが自動運転。クルマが自動的に動くというと不安を覚える方もいらっしゃるだろう。しかし、交通事故の90%以上は人為的なミスに起因すると言われている。自動化により交通事故が減少し、その上渋滞での運転も格段に楽になる。自動運転をリードするボッシュの取り組みに期待したい。

左のQRコードから入れる特設サイトではボッシュの出展概要が紹介されており、「DTM観戦ツアー」プレゼントにも応募できる。



安全体験デモンストレーターでは衝突予知緊急ブレーキシステムや車線変更支援などの運転支援機能を体験できる。

KeyWord Driven by performance

MAHLE is more than pistons

Topic 1 MAHLE + Behr = Mehr（More）



マーレとベーア、二つの自動車部品サプライヤーが、ひとつになる。マーレといえば、エンジンシステムズ&コンポーネンツ事業とフィルター&エンジンペリフェラルズ事業を通じて、自動車・エンジンメーカーのトップ3をなすサプライヤー。2014年、そのマーレのビジネスユニット「サーマルマネージメント」の傘下に、車両空調機器とエンジン冷却システムの世界リーディングOEMサプライヤーのベーアが入り、部品供給の効率化をさらに推し進めることになる。

また、マーレは自動車業界以外のフィルター、サーマルマネージメント、大型エンジン部品を扱う産業用機材事業や、OEM製品と同等品質のメンテナンス・補修用部品を提供するアフターマーケット事業のグローバル展開を強化。



部品・モジュール開発・製造以外に、エンジニアリングサービスも力を入れているマーレがレンジエクステンダを開発。

2014年には世界140ヶ所の生産・営業拠点と10カ所のテクニカルセンター、従業員数約65,000名、売上高も約100億ユーロを見込むメガサプライヤーとなる。



マーレのインテークマニフォールドに、ベーアのインタークーラを内蔵。ベーアがマーレ傘下になり、マーレとベーアのノウハウを融合して、今後最新の革新的ソリューションを提供。



2006年に中国、上海にテクニカルセンターを開設し、2012年に拡張。



タイでの生産拠点を2012年に拡張。

Topic 2 Growing with Asia

アジアへの初進出は1968年、日本のイズミ工業株式会社との鋳造および軽金属ピストンの製造・販売に関するライセンス契約にはじまる。このイズミ工業に投資し、2003年にはマーレグループ傘下に入る。現在は「マーレエンジンコンポーネンツジャパン株式会社」と社名を変更し、商用車向ディーゼルエンジン用ピストンのアジア最大メーカーとして知られるようになった。また、インド、中国、韓国などにおいても、合弁会社の設立以外にも自社工場の設立、テクニカルセンターの開設、新規法人の立ち上げなど、多角的な活動によって積極的な投資を行っている。

この数十年間、マーレは一貫して日本をはじめアジアでの事業展開を強化し続け、30か所以上の生産・営業拠点、4か所のテクニカルセンター（日本・川越、桶川、中国・上海、インド・プネ）を整えた。未来に向けたアジア市場のポテンシャルをいち早く見抜いたマーレは、アジアの自動車産業に欠かせない存在となりつつある。

KeyWord Connect to the Future ～ つなぐその先に ～

クルマ社会の未来を見据えた矢崎のつなぐ技術

矢崎は、クルマの中、クルマと人、クルマとくらしを「つなぐ」技術で、クルマ社会の未来に貢献します。

矢崎ブースのコンセプトは「つなぐ」

矢崎総業のブースコンセプトには、クルマ社会の未来を見据え、「クルマの中」「クルマと人」「クルマとくらし」をつなぐ意味が込められている。同社が世界トップクラスのシェアを誇るワイヤーハーネスはクルマの中の機器をつなぎ、クルマと人をつなぐインターフェイスであるメーターも同社の主力製品である。そして、同社が世界に先駆けて発売した電気自動車・プラグインハイブリッド車用充電コネクタは、クルマとくらしをつなぐ核となる製品である。こうした多様な先進技術を有機的につなぐことで実現される豊かで快適なクルマ社会を、東京モーターショーで提案する。



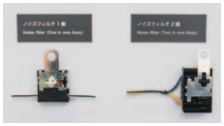
ブース外観

Topic 1 クルマの中を「つなぐ」


ステージに展示される車両モック


車載用光通信コネクタ

中央ステージに同社のクルマをつなぐ技術を模式した車両モックを展示。従来の12V系通常ワイヤーハーネスに加え、電気自動車やハイブリッド車に不可欠なオレンジ色の高電圧系ワイヤーハーネスと関連部品を分かりやすく説明。将来のクルマに同社の高い技術がどのように生かされていくのかをスクリーン映像とともに解説する。


高性能ノイズフィルタ

Topic 2 クルマと人を「つなぐ」

TFT液晶スクリーンを使用した2台のフルグラフィックメーターが目を引く。同社が持つ最先端のヒューマン・マシン・インターフェイス技術と加飾部品を融合し、従来にない表現を実現したメーターは、機能性と美しさを高次元で両立している。


トヨタプリウス用メーター


ボルボV40用フルグラフィックメーター

Topic 3 クルマとくらしを「つなぐ」

重さ2トンのクルマが踏んでも壊れないほどの高い耐久性をもつ充電コネクタを展示。このほか、自動配車システムなどの近未来のタクシーシステムのあり方を提案する「次世代タクシーメーター」にも注目したい。


次世代タクシーメーター


急速充電コネクタ

矢崎グループ概要

矢崎グループは1941年設立の矢崎総業を中心とした企業グループ です。ワイヤーハーネスを中心とした自動車部品をはじめとして、生活環境機器など幅広い製品やサービスを提供しています。

KeyWord GLOBAL BRAKE EXPERTS

高性能ブレーキ開発への挑戦

マクラーレンP1へのブレーキシステム供給。この経験を次の製品にも生かし、さらなる飛躍を期す。

Topic 1 高性能ブレーキ開発から得られた大きな財産とは?

ディスクブレーキパッドの純正装着において、約40%の国内シェアを誇る曙ブレーキ工業。その曙ブレーキブースの今年の見どころは、マクラーレンの超高性能ロードカー、「P1」に採用されたブレーキシステムだ。

マクラーレンP1は、エンジン＋モーターで916psという性能を持つハイパフォーマンスモデルだけに、曙ブレーキもロードカーに採用するのは初となるカーボンセラミックディスクローターを用意。強力なブレーキシステムを作り上げて搭載した。

むろん初めての事例となるだけに、開発の苦労は並みではなく、開発を担当したVCETの山口崇氏によれば「新たなチャレンジの連続だった」という。

その成果として低温からしっかり止まりながらも、耳障りな鳴きは皆無。ロードカーに必要な性能を備えながら、サーキットに行けばスポーツ走行を支える強力な制動力や冷却性能を発揮するなど、相反する要素を高い次元で両立する高レベルなカーボンブレーキシステムを作り上げることに成功した。

山口氏は、このブレーキシステム開発の経験は、今後の一般的なクルマ用の製品開発にも多角的に大きな影響を与えるという。ますます飛躍する曙ブレーキ工業から目が離せない。



マクレーレンとの関係はF1マシンへの供給を発表した2007年から続いている



見た目の美しさも要求されたというマクラーレンP1のブレーキ開発



マクラーレン P1

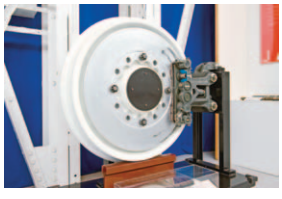


ハイパフォーマンスブレーキの開発を担う「VCET（Vision Creative Engineering Team）」の山口崇氏

クルマだけじゃない 新幹線にも曙ブレーキ

「ブレーキエキスパート」を名乗る曙ブレーキ工業だけに、その製品はクルマ用のものだけではない。鉄道車両用のブレーキも手がけている。日本の高速輸送の要、新幹線用のディスクブレーキも当然、例外ではない。
右上写真はJR東日本の新型新幹線E5系「はやぶさ」に装着されている等面圧ディスクブレーキライニング。この製品はディスクローターにライニングを均一な力で押しつける機構を備えた、新タイプのライニングだ。日本の新幹線の「安全・安心」の一翼を、曙ブレーキ工業は担っている。





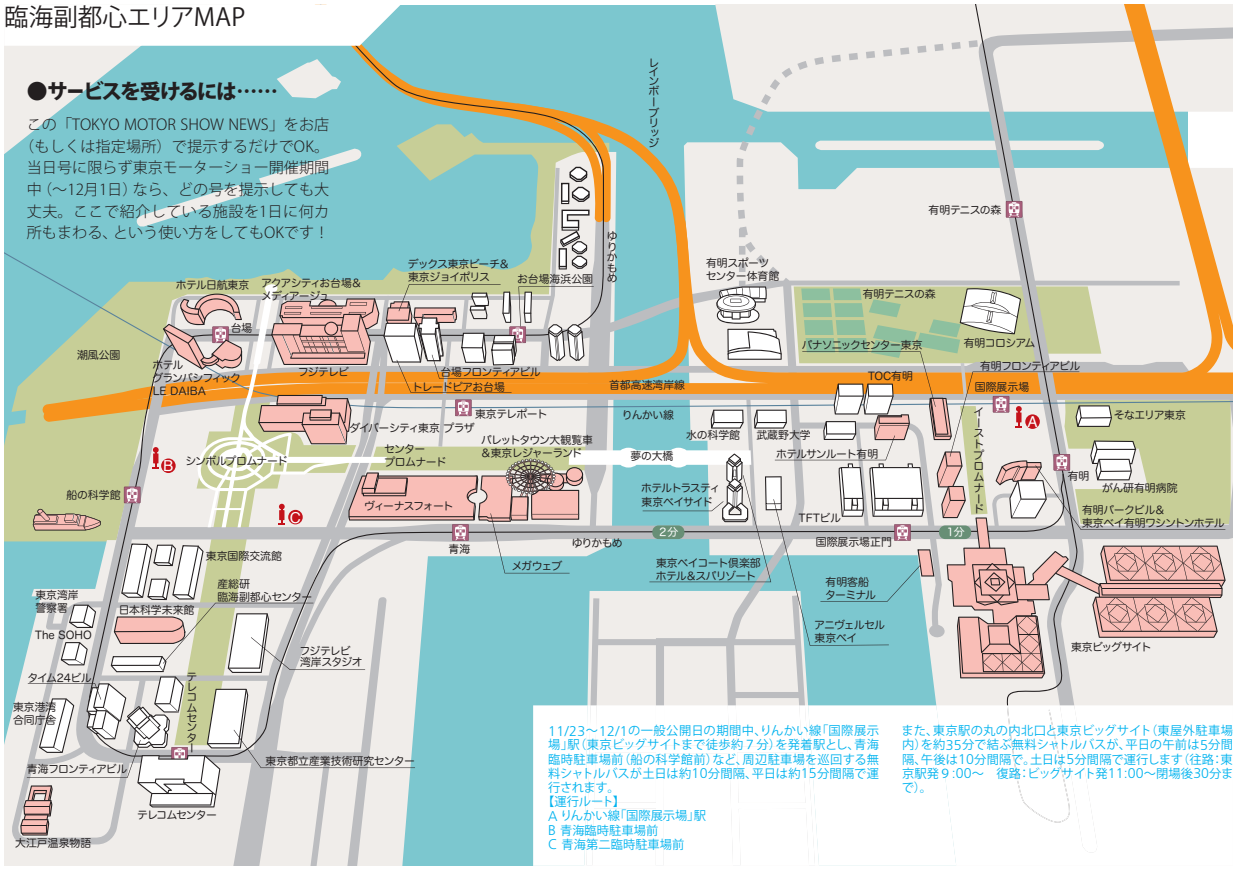
ライニングには分割した焼結合金を使用。時速300kmを超える高速度から、安定したブレーキ性能を発揮してくれる

東京モーターショーと併せて満喫したい、お得なサービス

臨海副都心エリアを楽しもう

東京モーターショーに協賛している20の施設では、本誌を見せるだけで多くのお得なサービスが受けられます

臨海副都心エリアMAP



は、93ページ「臨海副都心スタンプラリー」のためのスタンプ台が設置してある場所を示しています。（りんかい線「東京テレポート」駅にもスタンプ台があります）

魅力あふれる街、「東京臨海副都心」にはお楽しみがいっぱい！

東京モーターショー会場、東京ビッグサイトのある「東京臨海副都心」エリア。鎖国を続ける江戸幕府に、開国を求めて迫った黒船に対抗するため、建設された砲台をその名の由来とする「台場」地区を含むなど、その歴史は案外古い。

11基の建設が予定されていた台場（＝砲台）のうち、第三台場と第六台場は現在でも当時の面影を残した状態で存在していて、第三台場は「台場公園」として一般に公開されている。

1991年にフジテレビ本社機能の移転が完了し、1999年に石原慎太郎氏が都知事に就任するとこのエリアの開発が加速。現在の大規模なアミューズメント施設やショッピング施設が並ぶ、ファッショナブルなイメージのあるエリアになった。2020年に開催される東京オリンピックにおいても、重要な役割を果たすことになる東京臨海副都心エリア。その東京臨海副都心エリアにある20の施設では、東京モーターショー 2013に協賛し、訪れた来場者のためにお得なサービスを用意、皆さんの来場をお待ちしている。

この冊子を見せるだけでそのサービスが受けられるので、東京モーターショーを満喫したあとは、ぜひここで紹介している施設に足を運んでみては？　満足すること確実！



1 ホテル日航東京 レストラン・バー、ホテルショップご利用10%オフ!

台場駅直結でリゾート感覚あふれる全室バルコニー付きのホテル日航東京。ホテル内にはレインボーブリッジや、東京タワーなど、" The 東京" の景色を一望できるレストラン・バーが揃います。そのホテル日航東京内のレストラン・バー全10店でのご飲食が、本誌を提示することで10%オフで楽しめます。ぜひホテル日航東京で、優雅でラグジュアリーな時間をお過ごしください。




営業時間 ランチ11:30~14:30　ディナー17:30~21:30
ホテルショップ10:00~20:00
※一部店舗により異なります

交通手段 ゆりかもめ「台場」駅直結
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩10分

※ホテルショップの商品は一部割引対象外

2 アクアシティお台場 館内施設で使えるクーポンプレゼント

お台場海浜公園に隣接し、自由の女神とレインボーブリッジ越しに都心を望める絶好のロケーションにある大型ショッピングセンター「アクアシティお台場」。モーターショー期間中に３Ｆのインフォメーションで、入場券もしくは本誌を提示すると、館内66店舗で使える『ナイスクーポン』がプレゼントされます（引き換え時間11:00~21:00）。都心の真ん中にあるリゾート、"東京リゾー島（とう）"をお楽しみください。




営業時間 物販・サービス・フードコート11:00~21:00
飲食11:00~23:00（一部店舗により異なります）

交通手段 ゆりかもめ「台場」駅徒歩1分
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩6分

3 デックス東京ビーチからは「DECKS プレミアム カード」をプレゼント!

東京ジョイポリスや、日本初上陸のレゴランド、マダム・タッソー東京などエンタメゾーンが充実。またレインボーブリッジや東京タワーが目の前のシーサイドレストランでのお食事やショッピングなど、1日楽しめる要素が集まった複合施設。シーサイドモール3Fのインフォメーションカウンターに本誌をお持ちいただくと、館内約60店舗でお得な特典が受けられる『デックスプレミアムカード』がプレゼントされます。




営業時間 11:00~21:00　飲食店11:00~23:00（5F）/11:00~24:00（6F）

交通手段 ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅徒歩2分
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩5分

4 ホテル グランパシフィック LE DAIBA お食事ご利用10%オフ!

「Vacance et Elégance（ヴァカンス＆エレガンス）」をコンセプトに、フランス風のエレガントを感じさせる、ホテル グランパシフィック LE DAIBA。最上階の地上30階にあるダイニング＆バー「スターロード」で、本誌をご提示いただくと、お食事ご利用10%オフ（８名様まで）という特典が受けられます。レインボーブリッジやライトアップされた東京タワーを見ながら、優雅なディナーをどうぞ。




営業時間 ディナータイム17:30~21:00

交通手段 ゆりかもめ「台場」駅直結
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩10分

5 フジテレビ　球体展望室 「はちたま」入場料20%オフ

フジテレビ本社屋25階にある球体展望室「はちたま」。地上123.45mに位置するこの展望台からは臨海副都心を270度見渡せる大パノラマが楽しめます。また『めざましテレビ』とカフェが連動した「めざましスカイ」では、番組内で使われているセットも公開。生出演したゲストのサインボードなども展示されているので、ぜひ本誌を提示して、お得にその絶景と展示内容をお楽しみください。




営業時間 10:00~18:00（めざましスカイは17:00まで）
月曜日をのぞく毎日開館

交通手段 ゆりかもめ「台場」駅徒歩3分
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩5分

6 台場フロンティアビル2F 「クルックスカフェオ」でモヒートを!

「クルックスカフェオ」は16世紀に「知の交差点」と呼ばれたギリシャの美しいエーゲ海をコンセプトとしたヨーロピアンリゾートカフェ。そのクルックスカフェオで東京モーターショーニュースを提示するとモヒート（ラムベースのカクテル。通常600円）が2杯目から半額で楽しめます。幅広い年齢の方に人気の欧風カレー（700円）やマルゲリータ（390円）といった軽食もあるので、あわせてお楽しみください。





営業時間 平日7:30~19:00　土曜12:00~18:00
（日・祝は休業。結婚式二次会や忘年会の貸切受付中）
※詳しくはホームページでご確認下さい

交通手段 ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅徒歩2分
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩2分

7 ダイバーシティ東京 プラザが 「お得クーポン」をプレゼント!

建物正面に屹立する実物大ガンダム立像（全高18m）が目を引くダイバーシティ東京 プラザは、アパレルショップ、エンターテインメント施設、レストランなどの飲食店が多く入った複合商業施設。３階の総合案内所に本誌を持参すると、館内のショップやレストランなどで、お得な特典やサービスが受けられる「お得クーポン」がプレゼントされます（受け付け時間10:00~21:00）。このチャンスにぜひ！




©創通・サンライズ

営業時間 ショッピング・サービス10:00~21:00　フードコート10:00~22:00　レストラン11:00~23:00
※店舗により異なります

交通手段 ゆりかもめ「台場」駅徒歩5分
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩3分

8 ホテルサンルート有明「創菜Patio」 ランチ・ディナーの飲食代が10%オフ!

東京ビッグサイトからもほど近い好立地に位置するホテルサンルート有明。そのなかで真心を込めたサービスと体に優しい和洋創作料理、そして横浜の工場直送の手造りビールを自慢としているのがレストラン「創菜Patio」です。その創菜Patioで本誌を提示すると、モーターショー期間中、ランチ・ディナータイムの飲食代が10%オフ！　ランチはビュッフェスタイルなので、アナタのお腹も大満足！




営業時間 朝食6:00～10:30（LO10:00）　ランチ11:30～14:30（LO14:00）　ディナー17:00～22:30（LO21:30）

交通手段 ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩3分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩3分

9 パナソニックセンター東京 ソフトドリンク１杯プレゼント!

パナソニックセンター東京では、快適な生活を提案する製品や、発売前の新製品が楽しくご体験いただけます。また、理数の魅力とふれあうための体感型ミュージアム「リスーピア」やカフェ「E-FEEL」なども併設しています。モーターショー期間中にカフェ「E-FEEL」で本誌を提示すると、ソフトドリンク（コーヒー/紅茶/あずき茶/オレンジジュース/野菜ジュース）が1杯プレゼントされます。ぜひご利用ください。




営業時間 10:00~18:00（リスーピア最終入場は17:00）
月曜休館

交通手段 ゆりかもめ「有明」駅徒歩3分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩2分

10 ヴィーナスフォート 「グルメクーポン」プレゼント

17~18世紀の南フランスや北イタリアのような魅力的な街並みのなかに多くのショップやレストランが並ぶハイブリッド型ショッピングモール、ヴィーナスフォート。そのヴィーナスフォートの2階、インフォメーションで本誌を提示すると、カフェ＆レストランで使える「グルメクーポン」がもらえます（受け付け時間11:00~21:00）。ぜひご利用ください。３階のアウトレットもおすすめです。





営業時間 ショップ11:00~21:00　レストラン11:00~23:00（LO22:00）

交通手段 ゆりかもめ「青海」駅直結
りんかい線「東京テレポート」駅徒歩3分

※Ⓢは、211ページ「臨海副都心スタンプラリー」のためのスタンプ台が設置してある場所を示しています

11 東京ベイコート倶楽部 ホテル＆スパリゾート “RISTORANTE OZIO”で使える割引&サービス!





完全会員制ホテル「東京ベイコート倶楽部」内にあるイタリアンレストラン“RISTORANTE OZIO”で本誌を見せると、①ランチコース（3000円、5000円、7000円）20% OFF、②デザートブッフェ（2000円）でノンアルコールカクテル１杯プレゼント、③ディナーでグラスシャンパン１杯プレゼントの割引＆サービスが受けられます。有効期限は2013年12月20日（金）まで。ご利用の際は事前予約をお願いします。

営業時間 朝7:00～10:30（LO）、昼11:30～14:00（LO、土日は14:30）、デザートブッフェ（平日のみ15:00～17:00）、夜17:30～21:30（LO） ※要予約

交通手段 ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩約６分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩約10分

※表示価格は消費税を含んでおり、別途サービス料10%を頂戴いたします。

12 ホテルトラスティ東京ベイサイド “ラウンジクオーレ”のランチ&ディナー20%OFF!





「東京ベイコート倶楽部」と同じくリゾートトラスト（株）が運営する「ホテルトラスティ東京ベイサイド」の“ラウンジクオーレ”は、広い空間でゆったり寛げ、また、スタンディングスタイルのカウンターもある大人なお店。それでいてランチコースは1300円からとリーズナブルな価格なのが嬉しいところ。本誌を見せれば、そのランチ＆ディナーを20%OFFでご利用いただけます！

営業時間 ランチタイム11:30～14:00、ディナータイム17:00～23:00（22:00フードラスト、22:30ドリンクラスト）

交通手段 ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩約６分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩約10分

13 TFTビル（ワンザ有明ベイモール） 1ドリンクサービスなどなど





●「のもくお」生中、サワーまたはウーロン茶●「鮒忠」「雷うさぎ」「ほおずきや」グラスビールまたはソフトドリンク●「翠苑」生中またはソフトドリンク（18:00までに入店の方）●「長寿韓酒房」「チャオ」ソフトドリンク★「竹籬輔工房」では18:00以降アルコール注文の方に、えびせんサービス（20:00まで）。「プロント」17:30以降（パータイム）アルコールご注文の方に枝豆プレゼント。疲れも吹っ飛びますよ。

営業時間 ランチ11:00～15:00　ディナー17:00～23:00
※各店により異なります。

交通手段 ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩1分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩5分

14 有明フロンティアビル お得に飲食できるチャンス!





東京ビッグサイトからも近い有明フロンティアビルでは以下のサービスが！　●居酒屋「チムニー」6名様までワンドリンクサービス（お一人様2500円以上ご利用の場合限定/ドリンクサービスは中ジョッキまで）●コンビニエンスストア「サンクス」コーヒー 100円商品（オリジナルテイスト、アイスコーヒー）20円引き※先着1000名様●中華「春華秋實」18:30までにご入店のお客様は、飲食料金から10%オフ！

営業時間 ●「チムニー」平日ランチ11:30～15:00　ディナー15:00～23:00 祝日16:00～23:00●「サンクス」24時間●「春華秋實」ランチ11:30～15:00 ディナー17:00～22:30

交通手段 ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩２分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩３分

15 東京ベイ有明ワシントンホテルで ディナータイムのお会計が10%OFF!





モーターショー会場となる東京ビッグサイト真正面に位置する東京ベイ有明ワシントンホテルのレストランで割引サービスが受けられます。１階“ジョージタウン”はステーキ＆お寿司など20種以上のメニューが90分食べ放題。20階“チャイナグリル・マダムシェンロン”はニューヨークスタイルで中国料理を楽しめるお店。どちらもディナータイムのお会計時に10% OFF！　ショー帰りにぜひご利用下さい。

営業時間 ジョージタウン（１階）17:00～21:30（最終入店 21:00）
マダムシェンロン（20階）17:00～22:00（LO 21:30）
※マダムシェンロンの食べ放題プランは適用外となります。

交通手段 ゆりかもめ「国際展示場正門」駅徒歩２分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩２分

16 有明パークビル 17:00以降１ドリンクサービス





同ビル内にある次の飲食施設で本誌を提示すれば、１ドリンクサービスが受けられます。●「田久井」生ビールまたはソフトドリンク●「楽苑」グラスビールまたはアイスウーロン茶●「中村孝明ARIAKE」「まはらに」「アルポルト」グラスビールまたはソフトドリンク●「メヒコ」ソフトドリンク。またファミリーレストランの「ココス」では小学生以下のお子様ならドリンクバーが無料で利用できます。

営業時間 ランチ11:00～15:00　ディナー17:00～23:00
※各店により異なります

交通手段 ゆりかもめ「有明」駅徒歩2分
りんかい線「国際展示場」駅徒歩2分

17 アルポルト東京ビッグサイト店 ディナータイムに１ドリンクサービス





片岡護シェフプロデュース。西麻布の人気店がビッグサイト８階に!!　ランチはもちろんのこと、ベイエリアの夜景を眺めながらのお食事やパーティーにご利用いただけるアルポルト東京ビッグサイト店では、本誌をご持参のお客様を対象に、ディナータイムでの１ドリンクサービスが行われます。ぜひ一度、アートのように美しいイタリアンをご賞味ください。モーターショー期間中、秋のお勧めワインフェアも実施中！（11/12～11/30）

営業時間 ランチ 11:00～16:00（LO15:00）
ディナー 17:00～22:00（LO21:00）
※上記時間はモーターショー期間中のみの営業時間です

交通手段 東京ビッグサイト内会議棟８階
（1階エレベーターからお上がりください）

18 日本科学未来館の常設展示入館料を 割引サービス!





宇宙飛行士の毛利衛氏が館長をつとめる日本科学未来館は、先端の科学技術をわかりやすく学べる科学館。各種企画展やイベント、プラネタリウムの上映などにより、科学と一般社会をつなぐ施設で、大人も子どもも楽しめます。本誌を見せると入館料（常設展示見学可）が大人600円から480円、18歳以下200円から160円に割引に（土曜日は18歳以下無料）。なお、ほかの割引券との併用はできません。

営業時間 10:00～17:00（最終入館は閉館30分前）
休館日：火曜日

交通手段 ゆりかもめ「船の科学館」駅徒歩５分、「テレコムセンター」駅徒歩４分、りんかい線「東京テレポート」駅徒歩５分

19 大江戸温泉物語 入館料割引サービス実施!





日本初の温泉テーマパークとして2003年に開業した「大江戸温泉物語」。地下1400mから汲み上げられたナトリウム-塩化物強塩温泉が、神経痛、筋肉痛、関節痛、疲労回復、冷え性などに効きます。その大江戸温泉物語から、大人200円割引クーポン、小人（4才～小学生）600円割引クーポンがプレゼントされます（期間：11月23日～12月1日まで）。1日の終わり、疲れを温泉でユックリと癒してみては？

営業時間 11:00～翌朝9:00（最終入館受け付け7:00）
※深夜割増（午前2:00～）1700円

交通手段 ゆりかもめ「テレコムセンター」駅徒歩2分

20 テレコムセンタービル 展望台&レストランでサービス





東西ふたつのタワーから成り立つスタイルが特徴的なテレコムセンタービルでは、●21階「展望台」入場料100円引き（他の割引との併用不可）●レストラン「Precious Tokyo Bay」ファーストドリンク１杯サービス●カフェテリア「アイハウス」①ランチ：お好きな小鉢1品サービス②夜：グラスビール1杯サービス、といったサービスが受けられます。ぜひ足を延ばしてみてはいかがでしょうか。

営業時間 ●「展望台」火～金15:00～21:00 土日祝11:00～21:00
●「Precious Tokyo Bay」17:30～22:00（日月休）●「アイハウス」ランチ11:30～13:30　夜17:30～21:00

交通手段 ゆりかもめ「テレコムセンター」駅徒歩1分

※Ⓢは、211ページ「臨海副都心スタンプラリー」のためのスタンプ台が設置してある場所を示しています

トミカ

トミカとまわる、臨海副都心。

東京モーターショー2013

臨海副都心スタンプラリー

開催期間 11/23(土)▶12/1(日)

トミカオリジナルスタンプを集めて賞品を手に入れよう！



© TOMY 「トミカ」は株式会社タカラトミーの登録商標です。

参加賞

スタンプを3個集めて賞品引換所へ行くと「トミカオリジナルクリアフォルダ」がもれなくもらえるよ！

先着10,000名様



Wチャンス賞※

さらにステキな賞品が100名様にあたる！（1等から5等まで）

そろえたビンゴラインの数によりWチャンスの抽選ができるよ！

1等 高速道路ぐるぐるインターチェンジ



2等 ハイパーグリーン



3等 レンジャー1号 レンジャータンサー でるでるバケツ



●「ハイパーグリーン レンジャー1号 レンジャータンサー」にはプラキッズは付きません。
●「高速道路ぐるぐるインターチェンジ」と「でるでるバケツ」にはミニカーは付きません。

※臨海副都心エリア施設の発行する1,000円以上のレシートの提示が必要です。
●内容・期間は予告なく変更になる可能性があります。 ●参加賞、Wチャンス賞は賞品がなくなり次第終了ですが、期間中スタンプラリーは実施します。 ●賞品の画像は全てイメージです。



スタンプラリー台紙

※スタンプはどこからスタートしても OK です。

Honda VFR 白バイ

① アクアシティお台場
① デックス東京ビーチ

トヨタ クラウン パトロールカー

② フジテレビ
② ダイバーシティ東京 プラザ

日野 セレガ

③ ホテル日航東京
③ ホテル グランパシフィック LE DAIBA

Honda VFR 白バイ

④ 船の科学館
④ 日本科学未来館

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

⑨ 東京モーターショー会場
西アトリウム 1F

日野 セレガ

⑤ パレットタウン・ヴィーナスフォート
⑤ 大江戸温泉物語

Honda VFR 白バイ

⑥ 有明フロンティアビル
⑥ りんかい線 東京テレポート駅

トヨタ クラウン パトロールカー

⑦ パナソニックセンター東京
⑦ 有明客船ターミナル

日野 セレガ

⑧ 東京ベイ有明ワシントンホテル
⑧ ホテルサンルート有明

楽しみ方は下の説明を読んでね！

スタンプラリーの楽しみ方

① このスタンプ台紙にある、臨海副都心エリアの17箇所に設置してあるスタンプラリーポイントに行こう！

② 9種類中、3種類のスタンプを集めて、ビンゴラインを1本揃えると「トミカオリジナルクリアフォルダ」をプレゼント！（先着10,000名様）

③ Wチャンスとして、揃えたビンゴラインの数に応じてスロットゲームに挑戦！さらにステキな賞品を手に入れよう！
（Wチャンスは臨海副都心エリア施設にて発行する1,000円以上のレシートの提示が必要です。）

賞品引換所は、「東京モーターショー会場（東京ビッグサイト・アトリウム内）」と「デックス東京ビーチ」の2箇所になります。
（「東京ビッグサイト」の賞品の引換時間は10:00～20:00です。但し日曜日は18:00まで／「デックス東京ビーチ」の賞品の引換時間は11:00～20:00です。）

※スタンプ台紙はおひとり様1枚となります。※Wチャンスのスロットの回数は、ビンゴライン：1ライン1回・2ライン2回・3ライン3回・4～7ライン4回・8ライン5回となります。また、回数に関わらず当たりが出次第終了とさせていただきます。
※応募用紙の引換は、ご本人様のみとさせていただきます。
※スタンプの設置時間は各施設の営業時間に準じます。また、施設の休館日はスタンプが押せませんのでご了承ください。
※スタンプは台紙内の指定の場所に押してください。異なる場所に押されている場合は無効になります。※小さなお子様は大人の付添人と参加してください。※参加中のケガや事故につきましては責任を負いかねますので、ご了承ください。

係員チェック欄 参加賞 Wチャンス賞



The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013
2013年11月22日[金]→12月1日[日] 東京ビッグサイト

【東京モーターショー開催時間】
月～土曜日 10:00～20:00
日曜日 10:00～18:00

協力 臨海副都心まちづくり協議会

競い合い高めあって生まれる「世界にまだない未来」を体験しよう。

東京モーターショーイベントマップ

お台場モーターフェス、プロの運転による乗用車同乗試乗会や二輪車試乗会、自動車ジャーナリストと巡る東京モーターショーなど、見ると元気になる、体験すると笑顔になるイベントが盛りだくさん。

1 あこがれのあのクルマ、あのバイクを体験してみよう

東京モーターショーで人気の体験イベント、「同乗試乗」です。国産車のみならず輸入車の、それも滅多にお目にかかれないスポーツカーなどの最新モデルを日本モータースポーツ推進機構の運営協力により、プロの自動車ジャーナリストが運転することで、そのクルマの性能を存分に引き出し体験できるのが「乗用車同乗試乗会」です。国産・輸入車の最新モデルが揃う「二輪車試乗会」もあります。国内外の様々なメーカーの乗用車・二輪車がここまで一堂に集まる試乗会は東京モーターショーならではのもの。ぜひご参加下さい。

●プロの運転による乗用車同乗試乗会

11月22日(金)~26日(火)

クルマ本来の性能を体感して頂くため、特設コースにおいて、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）の会員とインストラクターが運転する各メーカーの最新モデルに同乗し、その性能を体験かつクルマの特徴などの解説も聞ける乗用車の同乗試乗会です。参加方法は当日受付です。

試乗車両（乗用車）

スズキ	スイフト XD-DJE	ワゴンRスティングレー T
スバル	BRZ tS	FORESTER 2.0XT EyeSight
トヨタ	86	クラウン マジェスタ
日産	フェアレディ Z　NISMO	フェアレディ Z　NISMO
ホンダ	FIT RS	
マツダ	アテンザ セダン XD L Packge	アテンザ ワゴン XD L Packge
三菱	アウトランダーPHEV	デリカ D:5
レクサス	IS350 “F SPORT”	IS300h “F SPORT”
アウディ	A3 Sportback	RS6 Avant
シトロエン	CITROEN DS3 Cabrio（MT）	CITROEN DS4 Sport chic（MT）
ジャガー	Fタイプ	XJ
BMW	523d	ActiveHybrid 3
フォルクスワーゲン	Golf GTI	Polo BlueGT
プジョー	PEUGEOT RCZ（LHD/MT）	PEUGEOT 208GTi（MT）
ポルシェ	Cayenne S Hybrid	
ボルボ	V40 CROSS COUNTRY T5 AWD	V40 T5 R-DESIGN
MINI	MINI COOPER S CROSSOVER ALL4	MINI COOPER PACEMAN
メルセデス・ベンツ	CLA 250	SLK 200（M/T）
ランドローバー	レンジローバー	レンジローバー イヴォーク
ルノー	ルーテシア	ルーテシア ルノー・スポール
テスラ	モデルS（11/22,25,26のみ）	
合計39台		

●二輪車試乗会

11月28日(木)~12月1日(日)

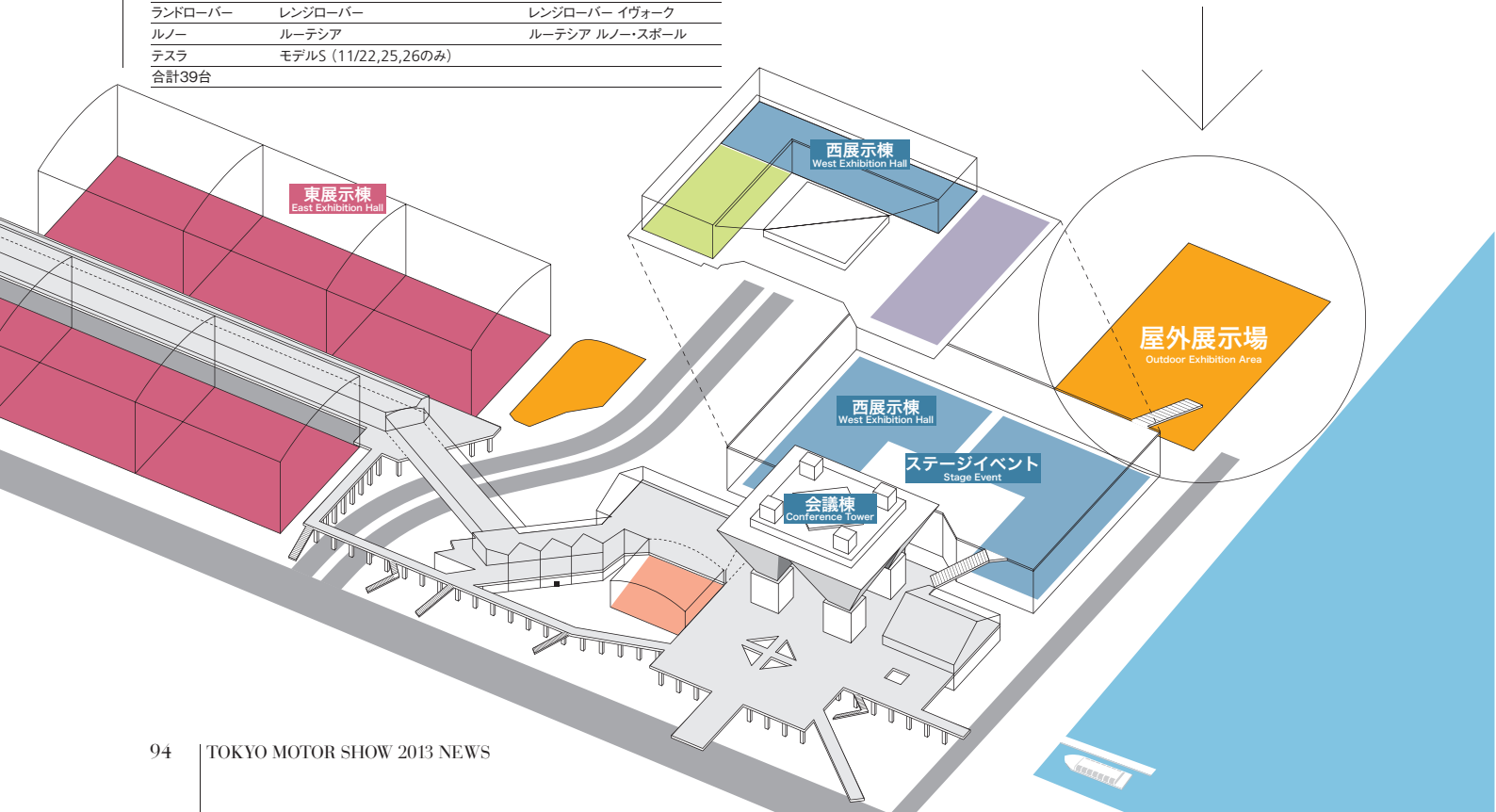
特設コースにおいて行われる二輪車の試乗会は、ご自身でハンドルを握って、各メーカーの最新モデルを試乗し、その性能を体感して頂くことができます。また、試乗会場にはビギナー向けの専用コースも設けていますので安心して試乗できます。参加方法は当日受付です。

試乗車両（二輪車）

カワサキ	ZRX1200 DAEG、W800、Ninja400、Ninja250、Z250
スズキ	GSR250、グラディウス 400 ABS、スカイウェイブ 650LX、V-Strom650 ABSほか
ホンダ	ゴールドウイングF6B、CBR400R<ABS>、グロム、ジョルノ、ズーマー、クロスカブほか
ヤマハ	VMAX、TMAX、ドラッグスター、SR400、tricker XG250、シグナスX XC125SRほか
KTM	390DUKE、200DUKE、125DUKE
BMW	F700GS、F800GT、S1000RR、R1200GS、K1600GTLほか
合計41台	







2 注目のステージが目白押し ステージイベント

西展示棟1階のアトリウムステージではフジテレビやTOKYO FMによるライブパフォーマンスなどをお楽しみ頂けます。



●11月23日（土） 11：00-12：00 トークイベント「第8回 みんなで考えようクルマの税金」
●11月23日（土） 13：30-16：00 「2013-2014日本カー・オブ・ザ・イヤー最終選考会・表彰式」「おぎやはぎの愛車遍歴」トークショー
●11月24日（日） 10：30-12：30 ／ 30日（土）10：30-12：30 ／ 12月1日（日）10：00-11：30 「SMCキッズ・ワークショップ・マブチモーターで動く“木のクルマ”を作ろう!」
●11月24日（日） 13：30-15：00 「綾戸智恵トーク＆ライブ」
●11月25日（月） 13:00-13:30（予定）「次世代ユニット X21 スペシャルステージ」／ 11月26日（火）12:00-12:30（予定）、11月27日（水）13:00-13:30（予定）「アイドリング!!!スペシャルステージ」／ 11月26日（火） 13:00-13:30（予定）「中嶋一貴 スーパーフォーミュラ ～激闘の2013シーズンを振り返る～」／ 11月28日（木）13:00 ～ 13:40（予定）「プレミアの巣窟」公開収録／ 11月29日（金）11:30-12:00（予定）「第43回東京モーターショー2013 サポーターファミリー “車家の人々”スペシャルステージ」
●11月25日（月）～ 28日（木） 15：00-17：00「TOKYO FMによる公開生放送」
●12月1日（日） 12：00-13：00 ／ 15：00-16：00「エコドライブに関するステージ」

3 クルマのある生活を考えてみよう シンポジウム／カンファレンス

クルマを取り巻く様々な興味深いテーマを採り上げるのが、会議棟で行われる「シンポジウム」です。会議棟の6階で行われる主催者特別企画の「東京モーターショーシンポジウム2013（TMS）」と、主催者テーマ事業「SMART MOBILITY CITY 2013（SMC）」の「カンファレンス」として、会議棟の1、6、7階やパナソニックセンター東京などで行われる国際シンポジウムなどを開催します。

参加無料（東京モーターショー入場券が必要です）の「東京モーターショーシンポジウム2013」では、事前登録者優先のシンポジウムを主体に、自動車安全や飲酒運転防止、カーたび、ITSなど7テーマを予定。「SMART MOBILITY CITY2013」のカンファレンスでは国際シンポジウムやアドバンス・テクノロジー・セミナー、キッズ・ワークショップなど8テーマが組まれています。



11月23日（土）・24日（日） ▶10:20-16:10
SMCキッズ・ワークショップ〔パナソニックセンター東京1階〕
パナソニックキッズスクール
ハイブリッドカー工作教室
パナソニック
〔参加申込：※事前予約制〕

11月23日（土） ▶10:30-17:00
SMCキッズ・ワークショップ〔102会議室〕
日産 わくわくエコスクール
日産自動車
〔参加申込：※事前予約制〕
11月24日（日）▶10:30-15:30にも開催

11月24日（日） ▶10:30-16:00
「次世代モビリティがもたらす未来の暮らし」〔605～608会議室〕
電気自動車普及協議会・読売新聞社（午前の部）
国土交通省・読売新聞社（午後の部）
〔参加申込：読売新聞・WEBにて告知予定〕

11月25日（月） ▶10:30-16:50
SMC
国際シンポジウム・プログラム①〔605～608会議室〕
「安全・安心へ、つながるクルマ ～高度運転支援システムの可能性～」

11月26日（火） ▶13:00-16:30
TMSシンポジウム〔605・606会議室〕
「第8回 日本ITS推進フォーラム Open ITS to the Next」
特定非営利活動法人 ITS Japan
〔事前登録者優先〕

11月26日（火） ▶13:30-16:30
TMSシンポジウム〔607・608会議室〕
「未来の輸送ビジネスが始まる。“安全・安心×ヘルスケア×ICT連携の新たなビジネスストリーム”」
国土交通省 自動車局

11月27日（水） ▶13:30-17:00
TMSシンポジウム〔605・606会議室〕
「ITSセミナー in 東京 2020年、東京の都市交通を考える～ITSの未来」
ITS Japan、東京大学ITSセンター
〔事前登録者優先〕

11月28日（木） ▶11:00-16:30
SMC
国際シンポジウム・プログラム②〔国際会議場〕
「未来社会と未来の移動」
特別協力 トヨタ自動車
〔参加申込：※事前予約制〕

11月28日（木） ▶13:00-15:30
TMSシンポジウム〔607・608会議室〕
「飲酒運転防止についてのシンポジウム」
一般社団法人 日本自動車工業会
〔当日現地受付先着順〕

11月28日（木） ▶13:30-16:40
SMC
アドバンス・テクノロジー・セミナー〔605・606会議室〕
「燃料電池セミナーin東京」
経済産業省資源エネルギー庁

11月29日（金） ▶14:00-17:00
TMSシンポジウム〔605・606会議室〕
「女性視点が次世代のクルマ社会を創る ～わたしとクルマのイイ関係～」
経済産業省、一般社団法人 次世代自動車振興センター、ピンク・ホイール・プロジェクト〔事前登録者優先〕

11月30日（土） ▶15:30-17:30
TMSシンポジウム〔605・606会議室〕
「クルマで歩こう ～今日からあなたもカーたびスト～」
カーたび（自動車旅行推進機構）
〔事前登録者優先〕

12月1日（日） ▶13:00-16:00
TMSシンポジウム〔605・606会議室〕
「第14回 自動車安全シンポジウム」
国土交通省 自動車局
〔事前登録者優先〕

※東京モーターショーオフィシャルWebサイトの「オンラインチケットサービス（e-tix）」にて販売。
但し定員になり次第販売を終了します。

4 日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）会員がショーのガイド役
自動車ジャーナリストと巡る東京モーターショー

11月25日（月）～29日（金）に開催されるのが、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）会員がガイドとなり、参加者に対し専門家の視点から東京モーターショーとクルマの魅力をご案内する有料ツアーです。東京モーターショーをもれなく楽しみたい方向けの「スタンダードコース」と、東京モーターショーとクルマの表も裏も楽しみたい方向けの「クルマ好きコース」があります。

参加にはイベント参加券付入場券が必要となりますので、東京モーターショーオフィシャルWebサイト「オンラインチケットサービス（e-tix）」にてお買い求めいただけます。



バックドアを特別に開けてくれたりして、一般来場者には味わえない特別体験も人気です



ジャーナリストと各社ブースの説明員のダブル解説なので、詳しい情報とわかりやすさ満点

ガイド予定のAJAJ会員

会田 肇、飯田 裕子、石川 茂幸、石川 真禧照、今井 優杏、大谷 達也、岡崎 五朗、岡本 幸一郎、加瀬 幸長、片岡 英明、河口 まなぶ、川端 由美、九島 辰也、工藤 貴宏、こもだ きよし、近藤 暁史、斎藤 聡、斉藤 慎輔、鈴木 ケンイチ、鈴木 直也、高根 英幸、高橋 健二、高山 正寛、竹岡 圭、千葉 匠、中村 孝仁、西村 直人、橋本 玲、伏木 悦郎、藤島 知子、堀越 保、松下 宏、松田 秀士、真鍋 裕行、まるも 亜希子、丸山 誠、桃田 健史、森岡 和則、森川オサム、諸星 陽一、吉田由美（50音順・敬称略）

5 フジテレビプロデュース
ワールドフードカップ

屋外展示場の特設試乗コース手前には、前回の東京モーターショーに続き、フジテレビ「めざましテレビ」が応援する 世界の食の祭典「ワールドフードカップ」が登場！ 世界8ヶ国の美味しいグルメが大集結！国毎で人気を競い合います。期間中、来場者の人気投票でNo.1を決定します。更に、今回は新たな試みも。詳しくは、ワールドフードカップ会場へ！

◆出店予定国：インドネシア（初登場）、スペイン（初登場）、タイ、トルコ、ナイジェリア（初登場）、日本、メキシコ、ロシア（初登場）





6 子供たちに大人気
ソープボックスダービー

参加体験型イベントの一環として開催期間中の連日、西3ホール内において開催されるのが、ソープボックスのモックカー工作とタイムアタックレースです。主に小学生が対象（保護者同伴）で、1回90分の前半45分で授業形式のモックカー工作教室で木製の組み立て式モックカーをその場で組み立てます。後半45分では、計測器を取り付けた全長約10mのコースでタイムを競います。

参加方法は、当日会場で先着受付（参加料は1,000円を予定）となっています。





7 東京モーターショー記念モデルも販売
トミカコーナー





2001年の第35回ショー以来、子供たちから絶大な人気を誇るのが、（株）タカラトミー協賛によるミニカーの展示・販売コーナーです。恒例の東京モーターショー開催記念モデルの「トミカ」（680円・税込）は、今回も乗用車8台+商用車4台=合計12台を用意。また、「ドリームトミカ」（630～730円・税込）や「ディズニーモータース」（780円・税込）も販売します。

第43回東京モーターショー2013を楽しんだら

お台場モーターフェスでクルマを満喫!

8 MEGA WEBでは 注目のレーシングマシーンたちが登場!

「シルク・ド・モビ」「親子バイク教室」など16～17日に盛り上がりました。23～24日と30～12月1日もイベント盛りだくさんの土日になります。

■11月23日(土)

MEGA WEBが東京モーターショーの連動イベントのひとつとして開く「ジャパンモーターフェア」ではTRDチャレンジラリーや全日本ラリーの参加選手によるデモラン&同乗走行、ラリートークショー。モンスター田嶋&哀川翔デモランも開催。



増岡浩のMiEVエボⅡ、バイクスビークEVが疾走し、Eランナーなども参戦



全日本ラリー選手権マシンがメガウェブで激走。神技を同乗試乗で体験できる

■11月24日(日)

MEGA WEBでは声優出演によるステージや、人気アニメとタイアップ制作した痛車でパレードする「痛車声優イベント・ライドワンパレード」を開催。センタプロムナードの「痛Gふぇすた出張編inお台場モーターフェス」には痛車80台が集結します。



人気テレビアニメ「ラブライブ!」のプロジェクトのトヨタ86ベースの痛車



ドリフト走行が可能なD1グランプリ・マシンのデモ走行や同乗試乗会も実施

■11月30日(土)~12月1日(日)

MEGA WEBでは、超小型モビリティ、パーソナルビークルなど3ジャンルのモビリティを集めたパネルディスカッションやデモ走行体験会。センタープロムナードでは、50台のカスタムカーを一堂に集めたイベントなどを開催します。

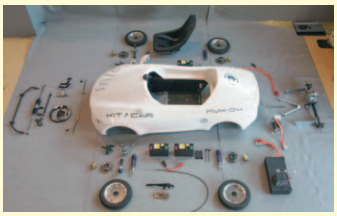


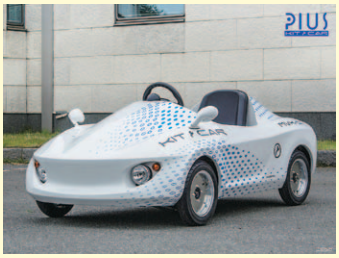
ホンダのモトGPマシン(RC-V)やホンダF1がエキゾーストノートを響かせる

9 EVを作って乗ろう エンジニア体験イベント

“くればあなたも1日エンジニア”――日本科学未来館において、11月23日(土)～25日(月)・27日(水)～12月1日(日)の10:00-17:00に実施される「サービスエンジニア体験」。「PIUS(ピウス)」という1人乗り電気自動車(EV)を組み立て、完成したクルマに試乗して楽しめたり、「コンピューター診断コーナー」では、これからのサービスエンジニアの仕事が体験できるプログラムになっています。

参加対象は小学生～高校生で、参加方法は当日受付での先着順です。





10 人を助けるクルマや、人を守るクルマが大集合 働くくるま・珍しいくるま大集合





11月30日(土)～12月1日(日)、子供たちが大好きな「働くくるま・珍しいくるま」が、イーストプロムナードに大集合します。

警察や消防、首都高速道路などで活躍するクルマやバイクのほかレプリカカーも登場する予定です。

11 東京モーターショーの夜を飾ります お台場レインボー花火2013

11月23日(土)と30日(土)の19:00-19:10の10分間、お台場に花火が上がります。打ち上げ場所は自由の女神像沖からなので、臨海副都心エリアー帯で観覧できますが、レインボーブリッジをバックに見られるデックス東京ビーチやアクアシティお台場あたりからがベストポジション。夏とは違う、空気の澄んだ冬の夜空を彩る花火もまた格別です。



BRIDGESTONE
あなたと、つぎの景色へ
新次元の止まり方へ。
北海道・北東北主要5都市での装着率12年連続NO.1 スタッドレス※
BLIZZAK VRX
※2013年1月8日～2013年1月31日にかけて、札幌市、旭川市、青森市、盛岡市、秋田市の5地区において、二段無作為抽出法により抽出された乗用車（含む軽）を保有している一般世帯を直接訪問して、乗用車の装着スタッドレス銘柄を調査。株式会社ブリヂストンが第三者の調査会社に委託して実施。
株式会社ブリヂストン
[ブリヂストンお客様相談室] フリーダイヤル0120-39-2936
受付時間：月～金（祝日・当社指定休日は除く）9:00～17:00
月に一度は、空気圧の点検を！
www.bridgestone.co.jp
東5ホールでお待ちしております。

2010年 No.1 販売本数
2011年 No.1 販売本数
2012年 No.1 販売本数
ダンロップ低燃費タイヤ 3年連続！No.1
全国カー用品量販店上位2社での販売本数
㈱日本能率協会総合研究所調べ

NEW
UPGRADE
VEURO VE303
LE MANS 4
エナセーブ PREMIUM
エナセーブ EC202
エナセーブ RV503
エナセーブ97
ダンロップの低燃費タイヤ、フルラインアップで登場。

世界初※「100％石油外天然資源タイヤ」いよいよダンロップから発売。
エナセーブ
※合成ゴムが主流になって以降（当社調べ）
DUNLOP 月に一度は空気圧の点検を！ 0120-39-2788 http://tyre.dunlop.co.jp/ ダンロップ 検索

ひとつになる。
損保ジャパンと日本興亜損保は、関係当局の認可等を前提として、2014年9月1日に合併し、「損保ジャパン日本興亜」となります。
損保ジャパン　日本興亜損保

PS3
GRAN TURISMO® 6
THE REAL DRIVING SIMULATOR
PlayStation®3専用ソフトウェア『グランツーリスモ6』
西展示棟 アトリウムにて
シリーズ最新作が発売に先駆けて体験できます。
"PS3" "PlayStation" and "PlayStation" are registered trademarks of Sony Computer Entertainment Inc.
© Sony Computer Entertainment Inc.

トミカ
TAKARA TOMY
〈出展内容〉
・モーターショー開催記念トミカ販売　・大ジオラマ　・ドリームトミカ、ディズニーモータース先行販売　等
© TOMY

Asahi
クリーミーな泡！
カロリーゼロ・糖質ゼロで、この味！ドライ！
※栄養表示基準による
NEW アサヒドライゼロ
アサヒビールは、飲酒運転根絶に取り組んでいます。
ノンアルコール
◎この商品は20歳以上の方の飲用を想定して開発しました。
のんだあとはリサイクル。
アサヒビール株式会社

電子マネーは Speedpass+ クイックペイ QUICPay™!
クイックペイが使えるお店で利用できます。
SELF STATION
ゲームに勝つと名車2000GTのステッカーがもらえる!

The 43rd TOKYO MOTOR SHOW 2013

□ オフィシャルエアライン
Lufthansa Group
ルフトハンザ　ドイツ航空

□ プレスセンター協力
brother at your side
brother

Canon
Nikon
Otsuka
大塚製薬



未来の駆けぬける歓びは、BMW iから始まる。

地球が初めて体験する、カーボン・エレクトリック。

走りの愉しさを追求し続けてきたBMWから、自動車業界を揺るがす新しいサブ・ブランド、BMW iが誕生します。キャビンには、F1マシンにも使われている、軽量で強度に優れたカーボン・ファイバー強化樹脂(CFRP)を採用。そして、アクセルを踏んだ瞬間から最大トルクを発生し、パワフルな発進と加速を実現する独自の電気駆動技術、eDriveテクノロジーを搭載。史上初の、斬新な素材と先進技術の革新的な融合は、あなたが今まで体験したことのない、進化した駆けぬける歓びを約束します。さぁ、夢でも、想像でもない、未来の自動車を、あなたの目とココロで、今すぐ体感してください。

詳しくはウェブサイトへ。 **bmw-i.jp**

SUBARU
Confidence in Motion

SUBARU
25年目の
フルモデルチェンジ



LEVORG
レヴォーグ

SUBARUブースにて公開中

www.subaru.jp